

事業報告及びその附属明細書

2012年度

自 2012年4月1日 至 2013年3月31日

公益社団法人アジア協会アジア友の会

アジア協会アジア友の会（JAFS）のめざすもの

I. 基本理念（Vision）

文化の多様性を尊重し、誰もが生まれてきて良かったと思える地球社会の創造をめざし、以って各自の生命（いのち）の価値を高める。

II. 基本課題（Mission）

1. アジア及び世界の開発途上地域の困っている人々を助ける。
（特に、基本的生存条件が確保できない人々への生活支援を最優先する）
2. 国際社会に必要なボランティア活動の育成と推進

III. 基本目標（Goal）

アジアの善意を結集して地球社会奉仕活動を推進し、以って人間として各自に与えられた生命（いのち）の役割を果たす。

IV. 基本活動（Program offered）

1. 国際協力支援事業の推進
2. 国際人的ネットワーク網の確立
3. 日本における良き社会づくりの推進

目 次

事業報告				p1
I. 開発支援事業				
	A. 水事業	1. 井戸・飲料水供給		p9
	B. 子ども事業	1. 初等教育普及・向上		p11
		2. 教育設備・環境整備		p12
		3. HIV/AIDS子ども感染予防		p12
		4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育環境整備		p12
	C. 貧困対策事業	1. マイクロクレジット支援・能力開発		p14
		2. 職業訓練		p14
		3. 保健衛生指導・医療	(1)トイレ建設	p14
			(2)医療支援	p14
		4. 提携NGO支援		p15
	D. 環境事業	1. 植林・水源涵養林養育		p16
		2. 環境改善・国際グリーンスカウト		p17
		3. 再生可能エネルギー資源活用・普及		p18
	E. サイクル・エイド	1. サイクル・エイド		p19
		ワークキャンプ・海外プロジェクト視察		p21
II. 国際交流事業				
	A. 人材交流・育成事業	1. 奨学金支援		p23
		2. 日本語教師派遣		p23
	B. ネットワーク推進事業	1. 国際会議	(1)アジアネットワークセミナー	p24
			(2)アジア・フレンドシップ夢基金	p25
			(3)アジア・ユースサミット	p25
		2. 国際体験交流(スタディ・ツアーなど)		p26
III. 災害・紛争の罹災者に対する生活支援事業				
	A. 災害等罹災者支援事業	1. 日本		p27
IV. 普及啓発事業				
	A. 地域広報活動事業	1. 本部活動	(1)JAFSチャリティーバザール	p31
			(2)国際理解教育講座	p31
			(3)インド文化センター講座	p31
			(4)アジア文化理解講座	p32
			(5)インターンシッププログラム	p32
			(6)国際協力ボランティア講座	p32
			(7)関連プログラム／その他団体協力	p33
		2. 地区活動	(1)エリア世話人会・全体地区世話人会	p34
			(2)地区世話人一覧	p34
			(3)第1エリア	p34
			(4)第2エリア	p35
			(5)第3エリア	p36
			(6)第4エリア	p37
			(7)第5エリア	p37
			(8)第6エリア	p38
			(9)第7エリア	p38
			(10)第8エリア	p39
			(11)第9、第10エリア	p39
		3. 広報	(1)アジアネット	p40
			(2)JAFSプラザ	p40
			(3)ホームページ/ブログ/メールマガジン	p41
		4. プロジェクト支援	各ファミリーグループ・支援会	p41
		5. 関連市民活動	(1)関西ナショナル・トラスト協会	p46
			(2)グリーンベイOSAKA	p46
			(3)日本を良くする会	p46
	B. 環境保全・環境教育(国際グリーンスカウト運動)		(1)土と水と緑の学校	p48
			(2)美山 土と水と緑の自然学校	p48
			(3)各部会活動	p49
			(4)ウォーカソン	p50
			(5)クリーンUP	p50
V. 運営管理				
	A. 社員総会			p51
	B. 役員一覧			p51
	C. 理事会			p53
	D. 常置委員会			p53

【事業報告】

2012 年度、本会は公益社団法人として初年度を迎え、公益性のある事業の実施により一般市民に広く本会活動を広げることを第一とした。併せて、公益性を重視した活動、寄付金控除制度の導入など新たに加わったルール等を、より多くの方々に理解していただくよう広報に留意し、啓発活動に活用した。国内にて本会の活動促進を担う地区世話人の方々には理解が広まり、公益性のある全国規模における活動の下地が出来た。

開発支援事業に関しては基本通り「水」を活動の基本として「子ども」、「貧困対策」、「環境」にかかる諸事業を実施した。

経済不況にもかかわらず支援を受けることができた。資金的支援のみならず啓発・普及に多くの方々の尽力をいただいた。感謝である。しかしながら、一昨年よりの東日本大震災への募金支援が依然必要であったために全体的に募金疲れがみられ総支援金額の減少の要因となったように感じられる年であった。

国際交流事業に関しては、各国提携団体の活動評価及び実践の共有化、及び次世代の人材育成に関する国際セミナーを実施することができた。資金面におけるサポート体制が経済事情により厳しく、今後のサポート体制の見直しが必要である。

災害等の罹災者支援事業に関しては、2011 年度から継続支援を行ってきた宮城県南三陸町歌津にて被災者の生活収入改善支援として農産物・海産物の地場産品直売所の「南三陸直売所みなさん館」を設立し、地元運営の引き渡しを行った。

普及啓発活動に関しては、前述したとおり公益社団法人初年度を迎え、従来の活動に加え、新ルールの理解と普及、全国規模展開への下準備などを行ったが、更なる普及と強化が課題である。2012 年度の活動の詳細は以下のとおりである。

I. 公益目的事業 1 開発支援事業

2012 年度の本会の開発支援事業は、水事業を中心に貧困層の自立を目的とした、「子ども」、「貧困対策」、「環境」の各事業を実施した。

A. 『水事業』 - 安全な飲料水供給を目指した井戸建設支援事業 -

1. 井戸・飲料水供給

2012 年度はアジア 8 カ国（カンボジア、スリランカ、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、ラオス、インド、ミャンマー）の農村地域 47 ヶ所に飲料水のための井戸及びパイプライン 73 基を完成させ、安全な飲料水を含む、生活用水を確保することができた。本事業において抱えている問題点としては、地下水の位置の低下により、掘削が以前よりもさらに難しくなっていることである。インドのタミルナードゥ州ディンディガル県、ナマカル県については、3 年間に及ぶ干ばつにより地下水位の低下が深刻であり、地下水依存の水確保は更なる水不足をまねくという理由により井戸建設を中止した。今後、代替の水資源確保の方法を確立することが課題である。

水から派生して来た諸事業について、以下項目別に報告する。

B. 『子ども事業』 - 貧困層の子どもたちの生活向上を目指した各種支援事業 -

1. 初等教育普及・向上事業

経済的貧困のために、教育の恩恵を受けることが出来ない子どもたちへ、初等教育の機会を得るための支援事業を行った。教育里親制度（教育資金の提供）を通じ 2011 年度同様、アジア 5 ヶ国（インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピン）の児童 322 名の教育支援を行なった。カンボジアにおける里子の一人が毎日新聞社の特集に取り上げられ、本活動の更なる普及への良いきっかけとなった一方、支援者（里親）の高齢化にともなう継続不可による退会者が多くあり、今後更なる開拓が課題となる。

2. 教育設備・環境整備

2012 年度は、ネパールにおいて小中学校の図書室建設及び設備支援を行い、生徒が本を読み、本

に馴染むことができる環境に整えることで学校教育設備の改善を行った。

3. HIV/AIDS 子ども感染予防

引き続き、タミルナードゥ州ディンディガル県、ナマカル県の2県のHIV/AIDSの児童及びその家族5世帯の支援を行った。

4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育環境整備

(1) 栄養改善（ネパール）

中南部チトワン地区ピトゥリ村で継続実施した。2011年より政府から給食支援が実施されるようになり、小学1年生より5年生の子ども達へは毎日1品の食べ物が給食として支給されるようになった。しかし栄養的なフォローがされないために継続してたんぱく質補給のための卵と牛乳の給食支援と就学前クラスの子どもの給食支援を継続して実施。また、ネパールにおいて本会と関わり合いのある小学校6校に対して、環境セミナーを実施すると同時に栄養知識習得のための教材配布を行った。今後は実際にメニュー構成が出来るように指導していくことが目標となっている。

(2) ストリートチルドレンの保護（フィリピン）

路上生活から解放された元ストリートチルドレンの子どもたちが学校教育から立ち遅れないように就学から卒業までを支援すると同時に、環境教育を通したリーダーシップトレーニングによる意識啓発、劣悪な生活環境からトラウマを抱える子どもたちのメンタルケアを実施した。

C. 『貧困対策事業』 -自助自立を目指して、収入・雇用を生み出す諸プログラムの推進及び指導-

1. マイクロクレジット支援・能力開発

2012年度は、インド、ネパール、カンボジア、バングラデシュ、フィリピンにおける農村の人々の収入改善のための支援、啓発及び、トレーニングを実施した。バングラデシュに関しては、灌漑用井戸2基が完成し、農業における収穫量が従来の一毛作から三毛作まで改善し収入改善となった。ミャンマー、カチン州の内戦孤児における職業訓練学校及び寮建設（子ども村建設）に関しては、2013年度も引き続き完成まで継続支援を行う。

2. 保健衛生指導・医療

(1) トイレ建設

ネパールにて、農村の人々の衛生改善のためのトイレ6基を建設した。トイレがなかったために大変不衛生な環境であったが、バイオガス・プラント設置と同時にトイレ併設を勧める事により農村の人々の衛生改善に貢献することができた。その内1カ村はトイレ全世帯設置を行うことを宣言し、目標に近づいている。

(2) 医療支援

中国新疆ウイグル自治区の農村地域の医療環境改善を目的にアナディアル病院に機材を贈り、医療環境充実化に努めてきた。又ネパールでは無医村におけるヘルスキャンプ（臨時診療）を行い農村部の地域医療改善を実施し、今後の支援方向性を模索することが出来た。

(3) 保健衛生教育

バングラデシュ、ボリシャル県の農村児童の栄養改善のために野菜の種を配布。自らが農作物を育てることにより、野菜による栄養摂取の意識向上を行った。

3. 提携 NGO 運営助成

本会の現地提携団体の運営及びマネージメント強化の為に、インド（RUDYA、BSVIA、HDSI）、カンボジア（KAFF）、スリランカ（SARVODAYA）、タイ（TAFS）の運営支援と活動強化指導を行った。

D. 『環境事業』 - 自然環境保全、及び再生に必要な諸活動の支援 -

1. 植林・水源涵養林養育支援

フィリピン（2,820 本）、ネパール（2,365 本）において合計 5,185 本の植林を実施し、現地の環境改善に努めるだけでなく、果樹などの植樹により農村の人々の生活改善へと繋がった。

2. 環境改善・市民による環境保全活動（国際グリーンスカウト運動）

地球環境保全戦略の一環として 1986 年に本会提唱の環境保全市民運動（通称、グリーンスカウト運動）は、本会の現地提携団体を中心に様々な環境における啓発活動が行われている。2012 年度は、インド、ネパール、フィリピンにおいて啓発活動が実施された。インド、アムラワティ県において開催された Harvest Festival（収穫祭）の運営は、グリーンスカウト・リーダーによって実践され、収穫祭記念寄付として、2,000 ドルの多額の寄付を得た。その寄附金は、地元の環境・医療改善の必要資金として使われることとなった。本会よりは小額の活動補助支援を行っている。

3. 再生可能エネルギー資源活用支援事業

ネパールにおいてバイオガス・プラント事業の名の下に、年々増加する燃料としての木材資源の消費を抑えるため、及び健康上の理由（煙による諸種の弊害、例、眼病の防止等）からバイオガス利用を各家庭に奨励している。薪以外に生活燃料を持たない貧農家族への共同利用奨励事業として、本年度は、これまで設置したその後の使用状況確認や現状把握を行うと同時に方向性の確認をするために最小数の設置に止めたが、依然ニーズがあること、ほぼ確実に使用されていることが確認でき、今後も支援継続をしてくと共にフォローアップを行い効率よく長期使用できるように促していく。

E. サイクル・エイド事業

社会問題化している放置自転車の有効利用の一環として、開発途上国の社会活動に役立ててもらうために、中古自転車を必要として要請される地域に寄贈する事業。本会では 2005 年より大阪府の事業を受け継いで実施している。2012 年度は宮城県気仙沼市の仮設住宅に 40 台、フィリピン、ヌエバエシハ州に 350 台、タイ、ナン県に 350 台、合わせて 740 台の自転車が配布された。タイ・ナン県において、サイクルエイドプログラムを啓発してこうと、寄贈された自転車にてサイクルラリーを行い、広報に取り組むと同時に自転車における環境保全効果を PR する形となった。

各事業に関連して、ワークキャンプ（カンボジア、ネパール、フィリピンにて 3 カ国 14 回）を実施。各諸事業に伴い必要な海外視察が実施された。

II. 公益目的事業 2 国際交流事業

A. 人材交流・育成事業

1. 奨学金支援

将来の本会のネットワークを担う各国各部会の職員の研修、養成のために、奨学金支援を行っている。2012 年度は、フィリピンのアジア社会科学院（ASI）にて実施されているコミュニティ・デベロップメント・コースに 2 名（フィリピン）が研修を行い、奨学金を支援した。また、東京農工大学博士課程生のバングラデシュ、コックスバザール県出身のトエ エモン ラカイン（男性）の奨学金を支援した。博士課程を修了し、現在、日本、南アジアにおける開発経済のコンサルティング業に付き、専門を生かし、南アジアの発展に協力貢献している。

2. 日本語教師派遣

日本語を通して、日本とアジアの交流を図るために日本語教師を派遣。2012 年度はインドネシア、バリ島のディアナプラ大学に日本語教師 1 名を派遣し、教鞭をとった。

B. ネットワーク推進事業

「貧困なきアジア社会」の実現を目指し貢献するアジアの人的ネットワークの強化と拡大を目的に推進されている本会のネットワーク事業。本年度も人的ネットワーク強化及び次世代における人材育成のための国際セミナーが開催された。それぞれのセミナーの特色を生かすことができた。

1. 国際会議

(1) アジア国際ネットワークセミナー

2012年度の第23回アジア国際ネットワークセミナーは計画当初はラオス・ビエンチャン特別市においてを開催予定であったが、現地の諸事情により主催できないことからタイ・チェンマイ県の国立メイジョー大学との共催の申し出により（メイジョー大学の国際化スクールプログラムの一環として実施）にて10か国58名の参加を得て、タイ、ラオス2国にて実施することができた。「グローバル時代における地域経済と地域文化の共存をめぐる」をテーマに地域産業育成におけるNGOの役割について討議を行った。毎年、アジア各地を開催地として持ち回りとして行うことが本セミナーの特長だが、開催費用などの高騰化などの理由に年々開催が困難になっている。現地の提携団体だけでなく、企業や大学などセミナー開催可能なキャパシティを持つ団体との連携を念頭にプログラムを立てていくことを今後も実施できるような体制づくりが課題である。

(2) アジア・フレンドシップ夢基金

貧困なきアジア社会の実現を目指して発足したアジア草の根の自立・連帯基金、「アジア・フレンドシップ夢基金」は、アジアからの積極的な呼びかけもあり、国内外にて集められた（2,512,100円 2013年3月末現在）。この基金にて2012年度からマハラシュトラ州ナグプール県のチャイルドアカデミーが開設した。

(3) アジア・ユースサミット

地球の未来に向かって持続可能な地域社会作りを通して様々な社会的課題解決に向けて実践する若者を育成するために、2012年度は、インド、マハラシュトラ州ナグプール県とガッチロリ県の2か所にて、第2.5回アジア・ユースサミットを開催。ナグプールの都心部におけるスラム問題とガッチロリの農村部における貧困という特徴的な問題に対して、“何が課題で、どのような解決方法があるか”、実際に実践出来ることは何かを見つけ、行動指針（アクションプラン）を導き出すために、調査・グループディスカッション・全体会議を行い、アクションプラン採択、その宣言を行った。参加者はナグプールにおいて44名、ガッチロリにおいて40名でそれぞれの地域の大学生、高校生が集まった。中国（1名）、日本（4名）よりも参加し、スラムや農村の貧困に対して真剣に討議すると同時に、あたたかい交流が持たれ、このような問題が単に地域のみの問題ではなく、グローバルな問題であるということに参加者は気づくことができた。また、もう一つのテーマとして、“経済発展の未来は、農村の過疎化”であることへの理解と取り組みであった。インド及び中国の若者は経験したことがないため、事前に日本人参加者と共に兵庫県宍粟市、京都府綾部市を訪問し調査を行った。同時に行政の取り組みなどについて紹介をいただき、過疎化解決への糸口を見出すこともできた。

本事業は、舞鶴文化教育財団の助成により実施した。

2. 国際体験交流（スタディツアー等）

本年度は、中国（1回）、インド（1回）、スリランカ（1回）、フィリピン（1回）、ネパール（1回）の計5回の国際スタディツアーを実施。

III. 公益目的事業 3 災害・紛争の罹災者に対する生活支援事業

1. 災害等罹災者支援事業 東日本大震災災害復興支援事業

2012年度は、緊急支援時から継続して災害支援を実施してきた宮城県本吉郡南三陸町歌津にて、緊急支援から「復興支援」に主軸を移し活動を行った。復興の兆しが見えたとはいえ、南三陸町では、いまだ多くの人が職場や仕事、自宅作業場、加工場などを失ったままの状態が続き、収入源確保が急がれていた。その解決法として、一時的な支援でなく、生活再建に向かうための経済活動、生産活動

が実践できる場を支援することであった。その解決策のために、地元の運営委員会や協議会の人々とともに、売るものを作り出す場＝農産物の加工施設「石泉ふれあい味噌工房」と、売る場＝地場産品の直売所「南三陸直売所みなさん館」を建設、設立し、無事開店することが出来た。

この事業実施においては、海外でのプロジェクトと同様に、現地の志をもった人たちが中心となり、本会が調整協力をしながら運営組合・協議会をつくって管理運営を行った。

2012 年に入り、土地の問題や、建築費高騰、瓦礫撤去等に困難を極めるものの、町や地元各種産業団体、個人、業者との綿密な交渉を重ねて一つひとつ問題を解決しながら設営を進めてきた。

地元南三陸町住民で運営できる組織体制づくりを行い、70 の個人・団体が携わる夢未来南三陸協議会を作った。これは、地域全体の生産活動、経済活動を活発化させる仕組みをつくと同時に、地域の人たちがここで交流・対話し、コミュニティの再構築につながる場づくりでもある。この協議会には、南三陸町も協力者として携わり、その他、地元漁協、農協、商工会、観光協会、すばらしい歌津をつくる協議会などが運営委員として加盟している。

南三陸町においては、震災前まで様々な各種個人・産業団体が共通の目的のために共働する経験はしてこなかった。今回の直売所は共同店舗ということで、一人ひとりが“みなさん”のための店舗であることを意識して運営組織をつくっていった。また、地場産にこだわった新鮮で安全で安心な食品を提供していく直売所で、「南三陸のタカラ」がウリとなった。本事業は、農業や漁業に従事する「生きがい」づくりや手作り味噌という東北の家庭には欠かせない「安心」を生み出すことにつながっている。

情報紙「桜通信」の発行を通じて、地域の情報を収集し、また広く情報を還元することができた。情報が滞りがちな被災地で、地域の日常生活に密着した必要な情報を詳しく掲載し、伝達することができた。

将来的に自立した形で、今回の支援活動が現地に役立てられるように、登米市の「NPO 法人 故郷まちづくりナイン・タウン」と協力をしながら、南三陸町民を中心とした組織「夢未来南三陸」を立ち上げ、活動の中心を担える仕組みづくりをしている。

みなさん館完成後は、復興スタディツアーとして、みなさん館や味噌工房を訪れて、地元の方々とふれあい、地元のものを食べ、復興に向けて歩み出そうとしている状況また、震災当時の様子、活動内容をスタディツアーの形で伝え、被災者との対話を通した心の復興を目指している。本年度は 4 回開催した。

また、3 月には、現地応援のために、みなさん館アンテナショップとして大阪ガスビル前でのチャリティーバザーの応援を行った。

(認定 NPO 法人ジャパン・プラットフォーム支援事業、その他大勢の協力者の支援を受けて実施)

震災の爪跡が残る南三陸町。みなさん館や味噌工房を訪れて、地元の方々とふれあい、地元のものを食べ、復興に向けて歩み出そうとしている状況また、震災当時の様子、活動内容をスタディツアー「南三陸を訪れる復興支援スタディツアー」の形で伝えている。(仙台市、南三陸町、気仙沼市、一関市、松島市) 2012 年度は、11 月から毎月開催し、計 4 回実施した。

IV. 公益目的事業 4 普及啓発事業

2012 年度は公益社団法人として、より公益性を重視しながら、国内において様々なチャリティ関連のプログラムを実施。より幅広い層に対しての認知度向上をめざし、本会の広報委員会を中心に紙媒体における広報やホームページ、SNS サイトなど、多様な広報手段がある中、それぞれをどのような目的で活用し、啓発につなげていくかを模索しながらのプログラム展開であった。ホームページ、SNS、メールマガジンに関しては、更新頻度の向上は見られたものの、公益性、内容において 2013 年度に改めてホームページを改変し、ターゲット層を絞る形で更新していくこととなった。

※SNS= ソーシャル ネットワーク サービス

A. 地域広報活動事業

1. 本部活動

(1) チャリティープログラム

本会の活動に様々な形で一般市民が参加できるよう、色々な形のチャリティープログラムを展開している。2012 年度も恒例の JAFS チャリティーバザールを年 2 回実施。その他、

チャリティーコンサートにてジャズからクラシックまで様々なジャンルのアーティストに協力していただき、チャリティーコンサートを開催することが出来た。

(2) 国際理解教育講座

国際理解教育講座として、学校及び団体への出前事業（講師派遣のべ13か所、参加生徒数1,737名）、本会での校外授業（4校、39名）及び、国際理解教育セミナー（2回、62名参加）を実施した。

(3) インド文化センター講座

2011年度、東日本大震災にかかる諸活動により開催を延期せざるを得なかったインド文化センター講座。2012年度は講座を再開することができた。BRICsにより注目を浴びるインドにおいて、文化の側面を通してインドを知っていただく機会を供給することができた。

※BRICs＝経済発展の著しいブラジル、ロシア、インド、中国の4か国を示す、頭文字を合わせた造語

(4) アジア文化理解講座

引き続き、アジア家庭料理教室を中心に料理を通した、アジアの文化理解へと勤めた。毎月アジアの様々な国の「家庭」料理を取り上げ、アジア13地域18回の教室を行い、べ291名の参加があった。

(5) インターンシップ制度

2012年度は1校増え、関西圏の大学から4校10名のインターンシップ生を受け入れた。本会へのインターンシップでは、事務局内の活動及び国内の様々なプログラム参加、海外プロジェクト啓発活動など様々な実習を通して、ボランティアそして国際協力について学び事後活動につながる研修を行った。

(6) 国際ボランティア講座

JAFS 例会として、海外プロジェクト中心に本会の活動の理解者を一般市民の方々に理解を促すことを目的としたプログラムを5回実施、74名の参加があった。又2012年度よりボランティアガイダンスを世代別・ニュース別で実施する形式に変更し、広く市民に本会の活動を広報する機会とし、今後のボランティア増を期待する方向性を築くことが出来た。

(7) 関連プログラム

関係団体と連携の中、理事、評議員、幹事、講師、運営委員として協力。来場者16,500名あった関西最大の国際協力のお祭り“ワン・ワールド・フェスティバル”には実行委員会メンバーとして実施に協力した。認定NPO法人ジャパン・プラットフォームとの連携が強化され、本会の緊急支援活動（東日本大震災の復興支援事業）に、大きく寄与している。

2. 地区活動

本会の活動をより多くの人たちに広めていくために本年度も全国各地域にいる本会地区世話人を中心に広報、ぞうすいの会、ウォーカソン、環境活動を基本プログラムとして啓発活動が行われた。

3. 広報

本会の活動機関誌「アジアネット」を4回発行し、本会の事業報告及び海外の情報などを提供した。「会員プラザ」に関しては、より公益性をもつために「JAFS プラザ」と改名し、4回発行により本会の国内における啓発活動の紹介を行った。インターネット広報に関して2012年度より導入したフェイスブックが定着化し、フェイスブックから活動参加が増えた。しかし、以前として広報活動の弱さが残っている。

(1) 機関誌

アジアネットを4回発行、JAFS プラザ4回4誌発行し、本会の海外及び国内におけるプロジェクト、プログラムの報告、情報を提供することができた。

(2) インターネット

ホームページを定期的更新及びブログなども定着化してきた。新たにフェイスブックページを加えたことにより、フェイスブック層からの活動参加者が多くあった。一方、メールマガジンの迅速な記事提供などこれまで以上のウェブ広報に対する努力が課題である。その他、クレジットカード決済導入の案件が協議され、ホームページを改変し、ターゲットを絞る形で転換することとなった。2013 年度に新ホームページをスタート（当面は試運転）させ購読層を調査しながら、クレジットカード決済導入を再検討することとなった。

4. プロジェクト支援（支援会・ファミリーグループ）

各支援会、ファミリーグループ等 19 団体が様々なイベントやチャリティ活動に参加し、本会の支援事業の応援を精力的に展開していった。

5. 関連市民活動

関西ナショナルトラスト協会、日本を良くする会、グリーンベイ OSAKA の活動もそれぞれの設立趣旨の元、活動が活発に行われた。

B. 環境保全・啓発教育事業

環境保全・教育を中心に次世代の人材育成のために以下の事業が 2012 年度、実施された。

1. 国際グリーンスカウト活動

(1) 「土と水と緑の学校」開催

「土と水と緑の学校」は、開催 29 回目を迎えた。参加者 62 名、リーダー、各種ボランティア等を含め総勢 155 名が参加し、自然環境へ親しむ心を育て、生命の大切さを学ぶことを通して、青少年のリーダーシップ育成につながった。また新宮市の協力を得て、東日本大震災の被災地である宮城県名取市から児童 10 名が参加し、被災地の子どもたちとの友情と絆を育む貴重な機会を提供することが出来た。

(2) 美山「土と水と緑の自然学校」開催

2013 年度「土と水と緑の学校」30 周年を迎えるにあたり、京都府南丹市美山町の方々からの協力を得て本年度初めて開催された事業。「農村と都市の交流」を特徴とし、自然体験だけでなく、農村に暮らす人々との交流を通し、森林の活用、身近にある自然・文化と生活のつながりなど、自然を大切にすることの意味を学び、自然や周りの人々など多くのものに支えられていること、そのつながりを実感することで他者や自然を思いやる心を育てることを目的としている。プログラム開催初年度にもかかわらず、総計 66 名が参加した。地元の人々からも継続実施の要請が来ており、2013 年度も継続実施の計画をしている。

(3) 国際グリーンスカウト国内活動

本会が提唱した国際グリーンスカウト（“Clean & Green”の標語の下で、地球環境保全を地域で推進する）活動として、アジア各地のグリーンスカウトメンバーが活動を行っている。現在、国内では大阪、吹田、寝屋川・枚方が 3 地域に部会を持つ。GS 大阪は毎週水曜日に例会を開催、年 4 回のエコキャンプや環境プログラムの開催、リーダー研修を行うと同時に、里親として教育支援を行っている。GS 吹田は、創立 10 年を迎え、年 1 回の無人島キャンプと同時に地元にて事前、事後の研修キャンプを行い地域の小中学生の環境保全啓発活動につなげ、あわせてメンバーによる毎月 1 回例会と吹田市の糸田川清掃活動を継続実施している。GS 寝屋川・枚方は、第 2 エリアの「北河内緑とふれあう会」のメンバーとしてその活動に参加し、地域に対する環境活動を続けている。各グループの特色を活かして活動した。

(4) ウォーカソン

“地球の水と緑を守る”ためのウォーカソン（基本的には地区活動の一環として実施）を 6 ヶ所で開催し、のべ 94 名が参加した。関東におけるウォーカソンにおいては、フェイスブックからの広報などから多くの参加者を得ることが出来た。

(5) クリーンUP作戦

2007 年度より始まった土佐堀近辺の清掃活動より地域を見つめた環境活動。2012 年度は 4 回開催し、のべ 20 名の参加を得た。今後も更に肥後橋界限に拠点を置く企業や住民の方々との協力連携を得、賛同者の拡大を広げてく予定である。

V. 運営管理

本会の運営管理母体は理事会であり、事業・活動は理事会、常任理事会（月例理事会）及び各常置委員会によって管理・運営されている。2012 年度は、公益社団法人化初年度でもあり、総務財務委員会を中心に新コンプライアンス・ガバナンスルールの規定化及び啓発に注力した。

以上が 2012 年度の本会の諸活動の報告である。

アジアの急速な経済発展と日本経済の疲弊化の中、アジアへの支援する意義の真意が問われている。そのような時代の中においても、本会の活動趣旨を理解し、継続サポートして下さる多くの支援者に心よりの感謝を申し上げます。これらの支援がお互いの社会の支えとなり、発展に貢献し、アジアの相互扶助の心の育成につながるように願いつつ、報告を終わります。ご支援ご協力ありがとうございました。



南三陸復興の旗印となった南三陸直売所「みなさん館」

I. 開発支援事業

I. 開発支援事業

I-A. 水事業

1. 井戸・飲料水供給

(2013年3月現在)
(パイプライン・貯水タンクを含む)

国名	2012年度完成	累積
インド	10	454
インドネシア	-	44
カンボジア	21	317
スリランカ	1	85
タイ	-	88
中国	-	1
ネパール	19	137
バングラデシュ	5	143
パキスタン	-	8
フィリピン	12	354
ブルキナファソ	-	1
ミャンマー	1	15
ラオス	4	21
合計	73	1,668

●インド

BSVIA カルナータカ州ビジャプूर県 3基

電動給水タンク式井戸 3基

インディ地区インディステーション・タンダ村
インディ地区インディステーション村
インディ地区ワドワダギ村

RUDYA マハラシュトラ州ガッチロリ県 3基

露天式井戸 3基

クルケダ地区パテガオン村
ナワルガオン地区ナワルガオン村
ダンノーラ地区ナワルガオン・トッラ村

SSH タミルナードゥ州 4基

電動給水タンク式井戸 4基

ディンディガル県アントール地区アカライパッティ村
ディンディガル県バダマドゥライ地区
モジャポディユール村
ディンディガル県ラディヤルチャトラム地区
カリサルパッティ村
ナマカル県ナマカル地区チェラッパコロニー村

●カンボジア

KAFS タケオ州 21基

露天式井戸 21基

トリアン郡クバブ地区サモールルー村
トリアン郡クバブ地区タマダ村 (3)
トリアン郡クバブ地区ドーンブー村 (2)
トリアン郡プレイスルック地区トラパンアン村 (2)
トリアン郡プレイスルック地区プレイスルック村
トリアン郡ロネアム地区ソフィ村 (5)
トリアン郡ロネアム地区クラン・トベア村 (2)
トリアン郡ブランベイマム地区ダンカウ村
トリアン郡ブランベイマム地区ロベアーン村 (2)
トリアン郡ブランベイマム地区ドムナックレアチア村 (2)

※ 第21回、22回、23、24回イオングループ労連カンボジア ワーキングキャンプにより実施。

※ イオンリテールカンボジアワーキングセミナーにより実施

※ イオン北海道、マックスバリュ北海道労組カンボジアワーク キャンプにより実施

※ イオン九州、マックスバリュ中部労組カンボジアワークキャンプにより実施

※ オムロン労組カンボジアワークキャンプにより実施

●スリランカ

SARVODAYA スリランカ全域 1基

露天式井戸 1基

サバラガムワ県ケガーレ地区クダガマ村

●ネパール

AFS ネパール ネパール全域 19基

ポンプ式井戸 4基

ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村 (4基)

簡易水道付給水タンク式井戸 5基

バグマティ県カブレパランチョーク郡
トウクチャ ナラ村 (1)

バグマティ県バクタプール郡スダール村 (4)

簡易水道付パイプライン式井戸 10基

バグマティ県シンドゥバルチョーク郡ボテシバ村

●バングラデシュ

BDP 5基

ポンプ式井戸 5基

ボリシャル県アグルジョラ地区バルクシ村

I. 開発支援事業

ポリシャル県アグルジョラ地区アンボイラ村
 ポリシャル県ウジルプール地区ジャラ村
 ポリシャル県ゴルナンディ地区ダンドーバ村
 ポリシャル県ジャラ地区バロイバリ村
 ゴパールガンジ県コタリパーラ地区ナリカルバリ村

●フィリピン

KALIPI スエバエシハ州	10 基
ポンプ式井戸	10 基

稲作地帯が広がるスエバエシハ州では、農業・化学肥料が使われるため、深度の浅い井戸からは化学物質や生活汚水が混入している。地球温暖化による不定期な降雨が降水量低下をまねき、地下の水位が低下する。そのような気候変動に対応できるように、水位の多い、深さ 38m の井戸を掘削した。これにより、各地に安全な飲料水を提供できた。

サン・イシドロ町エンタブラード村
 エンタブラード小学校
 カビアオ町サンフェルナンド・スール村
 ブロック 1 ポルティオカ
 カビアオ町サンフェルナンド・スール村ブロック 5A
 ネメシオ・デ・ラ・クルズ
 カビアオ町サンフェルナンド・スール村
 ブロック 5B ボジャ
 カビアオ町サンフェルナンド・スール村ドルマネロ
 ハエン町サン・ジョセフ村 サン・ジョセフ小学校
 ハエン町サン・ピセンテ村 サン・ピセンテ小学校
 ハエン町サン・ホセ村 サン・ホセ小学校
 ハエン町サン・パブロ村 サン・パブロ小学校

AFS-Virac,Catanduanes カタンドゥアネス州	1 基
簡易水道付きポンプ式井戸	1 基

カタンドゥアネス島の村々では、沿岸部に居住区があり、通常の井戸からは海水の混ざる水が汲み上げられる。そのため、山手に電気モーター付の深井戸を建設し、汲み上げた地下水を 1.4km のパイプラインで村の小学校や公民館、家庭にまで水を引くことができた。96 世帯 562 名の住民、ブエナビスタ小学校、デイケアセンターが、受益した。

ビラク町ブエナビスタ村
 ※第9回 NTT 労働組合東海総支部のワークキャンプにて実施

AFS Pandan アンティーク州	1 基
簡易水道付きポンプ式井戸	1 基

パンダン町の海沿いの村々では、1999 年に完成したパンダン水道パイプラインの恩恵を受け、1 万 8 千人の村人が安全な飲料水の供給を受けることができています。一方、山奥にあるタバイ村では、生活用水を川の水に頼っていた。山頂にあるタバイ小学校では毎日の水汲みを子どもたちが担っていたが体調を崩す者も少なくなかった。ポンプ式の井戸をつくり、湧き出ている水源から水をくみ上げ、小学校の生徒・村の住民が井戸水を利用することができるようになった。

パンダン町タバイ村
 ※第9回京都暁星高等学校のワークキャンプにて実施

●ミャンマー

MAFS サガイン県	1 基
露天式井戸	1 基

タムー町イマニュエル村

●ラオス

LPRYU ラオス全域	4 基
電動給水タンク式井戸	4 基

ビエンチャン郡チャンタボウリー地区
 フォンサヴァン村
 サヤブリ県サヤブリ地区ドンネヤーン村
 ボリカムサイ県パクサン地区ナカオロム村
 ボリカムサイ県パクサン地区ハードシエン村

建設中の井戸	24 基
---------------	-------------

インド	4 基
カンボジア	0 基
スリランカ	4 基
ネパール	2 基
バキスタン	0 基
バングラデシュ	0 基
フィリピン	0 基
ミャンマー	7 基
ラオス	4 基



イオン労連カンボジアワーキングキャンプにより
建設されたカンボジアの井戸



ネパールワークキャンプにより完成した
ボテシパ村のパイプライン

I. 開発支援事業

I-B. 子ども事業

1. 初等教育普及・向上

(1) アジア里親の会

本会が支援している、インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピンにおいて、教育に対しての重要度が地域の人々や行政の間でも理解され、農村部においても就学率の向上が見られている。しかしながら、南アジア（インド、ネパール、バングラデシュ）においての女子への教育への理解が未だに不足しており、就学率、識字率共々未だに低い位置を占めており、女子に対する教育の効果への理解が深められていない。

また、識字率においては、学校に通っていたとしても識字率の向上が見られない生徒も多く見られる。教材不足、教育の質の向上、両親の理解など様々な課題はあるが、生徒が住むコミュニティを更に巻き込んだ課外授業（コミュニティの大人がトレーニングを受け、生徒を決まった時間に指導する）などのサポートなど根本的な取り組みが必要になってきた。

高学年になると男子、女子とも働き手としてかり出され、その結果、ドロップアウトを招いている。これは本会が支援している全5カ国に見られる数字である。

本支援では、里子の学費や彼らが通う教育施設の運営を支援。里親には対象の教育施設に通う子ども（里子）を紹介し、手紙などによる相互交流を行った。2012年度は325人の里子を支援。

アジア里親の会 里親決定状況 (2012年3月現在)

国名	2012年度里子数	里子累計数
インド	87	247
カンボジア	65	129
ネパール	122	164
バングラデシュ	34	172
フィリピン	14	14
合計	322	726

●インド

BSVIA JAFS 教育支援事業 10名

【カルナータカ州ビジャプール地区ブルナプール村】

日印友好学園コスモニケタンの教職員給料、制服、教材費などの運営費を支援。

SSH JAFS 教育支援事業 47名

【タミルナードゥ州ディンディガル県 27名
ナマカル県 20名】

家庭の事情により学校に通えない小学生、特に家族や両親、子ども自身がHIVに感染し、差別を受けている子どもたちを対象に、より多くの子が学校へ通えるために学費や制服代、学用品などを支援（累計70名）。

RUDYA JAFS 教育支援事業 30名

【マハラシュトラ州ガッチロリ地区パダトラ村】

日印友好学園パダトラ小学校に通う少数民族の子どもたちの中でも反政府活動により近辺の小学校が封鎖され、遠くから通えないために、寮生活を余儀なくされた生徒の寮生活と継続して就学できるための支援を実施。

●カンボジア

KAFS 教育支援事業 65名

【タケオ州、コンボンチュナン州、カンダール州】

コンボンチュナン州とタケオ州そしてプノンペン近郊のカンダール州にある小学校の運営支援、及び、子どもたちへの教材や年一度の校外学習遠足の実施の支援。里子を対象とした英語の課外授業の支援。

●ネパール

AFS-Nepal 教育支援事業 18名

【ノールパラシ郡ピトゥリ村】

ピトゥリ村のスリーサンティ小学校、ラーズラナ小学校、ピトゥリ小学校の就学対象者の中で自費就学が不可能な子どもへの学費支援と学校運営支援。

ヤシャジュビ学園 54名

【カトマンズ郡シタパイラ村】

ヤシャジュビ学園近郊のシタパイラ地域とその周辺に住む、就学困難な子どもたちに就学の機会を与え、継続就学と高校教育修了を支援。

AFS-Nepal ナウリンセカンダリースクール 50名

【カトマンズ郡チュニケル村】

チュニケル村の自費就学が出来ない子どもへの学費支援と学校運営支援。

●バングラデシュ

BDP JAFS 教育支援事業 34名

【ダッカ・ガジプール県】

バングラデシュでは小学校卒業以上の就学費負担が高額のため個人負担費が多くなるために中学校以上の就学率が下がっている。就学意欲のある子どもが中等～高等教育を受けることができるよう就学支援を実施。

●フィリピン

ASI JAFS 教育支援事業 14名

【カビテ州ダスマリネス町パリパラン】

国鉄沿いのスラム街でストリートチルドレンとして生活していた子どもたち。強制移転政策後の不安定な生活の中、小学校での教育を受けることができるように学費や学用品などを支援。劣悪な生活環境からトラウマになっている子どもたちの精神的なケアも同時に行っている。

1. 開発支援事業

2. 教育設備・環境整備

(1) 学校建設

(2012年3月現在)

国名	2012年度建設数	校舎棟累計数
インド	-	20
インドネシア	-	2
カンボジア	-	41
タイ	-	10
中国	-	1
ネパール	1	20
パキスタン	-	2
フィリピン	-	7
ベトナム	-	3
合計	1	106

※学校数及び研修施設、コミュニティホール数を含む

●ネパール

AFS-Nepal 小中学校図書室の増設及び設備支援 1棟

【バグマティ県カトマンズ郡チュニケル村ナウリンセカンダリースクール】

ネパール政府の指導により小中学校に図書室併設が必要となったことにあわせ村役場に借りていた建物の返還期限による教室不足の状況と併せて3階の増設建設を実施。今年度は図書室部分の完成とその内部備品の設備支援を行った。

(2) 教育環境整備

●インド

RUDYA 日印友好学園パダトラ小学校

【マハラシュトラ州ガッチロリ地区パダトラ村】

マハラシュトラ州政府認可による行政助成私立学校を目指している日印友好学園パダトラ小学校。行政から定められた事項（椅子、机、コンピューターなどの整備）がなければ、認定の可能性は更に遠くなることから、2012年度老朽化した机、椅子を取り替え、コンピューター一台、プロジェクター一台、学校への電気の配備などを行った。2013年4月にマハラシュトラ州政府の教育省の担当役員が視察を行う予定。

●フィリピン

AFS-Pandan タバイ小学校修繕

【アンティーク州パンダン町タバイ村】

山間にあるタバイ小学校。2004年に新たに1教室が建設され、6年生まで学ぶことができるようになった。しかしながら、学校が山頂にあるため、降雨時の土砂崩れにより、子どもたちが安全に通うことができなかった。道の舗装と学校に新たに天井を張り、安心して学習できる環境を整備した。
※第9回フィリピン京都暁星高校ワークキャンプで作業実施。

3. HIV/AIDS子ども感染予防

●インド

SSH HIV/AIDS 支援

【タミルナードゥ州ディンディガル県・ナマカル県】

タミルナードゥ州ディンディガル県、ナマカル県は非識字層の移動労働者が多く、出稼ぎ先の都心部にて性交渉を持ち、HIV/AIDSに感染し、地元にて拡大させている。本会はHIV/AIDSの影響下及び感染している世帯を対象に支援を行っている。支援内容としては、抗HIV薬購入支援、栄養価の高い食材の購入、HIV/AIDSの啓発教育などを行っている。本年度は5世帯の支援となった。

4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育環境整備

●ネパール

ラリット福祉センター JAFS 教育支援事業

【バグマティ県ラリットプール地区】

孤児や母子家庭の子どもを対象に教育の機会を提供している社会福祉団体の学校。教師1名の給料と運営費を支援。自力で就学することが困難な子どもたちが、学ぶ機会を得られるように支援を行った。

AFS-Nepal 栄養改善支援事業 小学校給食

【ルンビニ県ノールパラシ郡ピトウリ村】

ネパールの農村では経済状況が不安定なため、日常の食事から摂取できる栄養素に偏りがある。健康状態や成長が改善されることを目的として小学校給食支援と栄養指導及び学習を実施。

農村部では、炭水化物中心の食生活で、成長期の子どもたちに必要なたんぱく質をはじめとした栄養素の摂取が不十分な状態である。ピトウリ村スリーサンティ小学校の約200名の生徒を対象に、週に一度、卵と牛乳の給食を継続的に支援を実施（18年間）。学校のプログラムに組み込まれるようになり、子どもの栄養不足を補うだけでなく、様々な教育的要素を兼ねている。政府から給食支援が実施され2年目となったが対象は小学1年生より5年生の子ども達で予算的に栄養的なフォローができるものではなく1品のおやつ程度の提供にとどまっている。そのため継続してたんぱく質補給のための卵と牛乳の給食支援と就学前クラスの子どもの給食支援が不可欠である。併せて実施している栄養学習は上記学校のならず本会のかかわりのある小学校6校の子どもたち（学校名は環境プログラム報告参照）を対象に実施。栄養知識の習得のための教材を学校に配布する共に環境セミナーの際にもプログラムを実施した。今年は実際にメニュー構成ができるような教材づくりを実施する指導を加え、今後各学校での学習を薦めていく。

●バングラデシュ

BDP 栄養改善支援事業

【バングラデシュ、ボリシャル県】

I. 開発支援事業

バングラデシュの地下に眠るヒ素。栄養素のたくさん含まれた食物を摂取することによりヒ素が身体に及ぼす影響が少ないとの調査結果から、2011 年度ヒ素にも負けない体作りをモットーにボリシャル県の BDP が支援する学校の生徒を対象に、ヒ素及び栄養価の高い食物（野菜）の摂取に関する啓発を行ない、それと同時に啓発用の紙芝居（水に棲むおばけの話）を作成した。また、農村の人々は野菜は作物として育てるが、主には販売用で、自らはあまり摂取しないことがわかり、子どもたちに野菜の種を配布し、自らが育成するように学校教育を通して啓発をした結果、多くの子どもたちが野菜の育成に成功した。それと同時に、従来学校教育に関心のなかった両親までもが子どもに野菜育成を指導するなど、両親の学校教育への参加の機会を提供した。

本年度は、作成された紙芝居の啓発の継続と野菜の種の配布を更に多くの学校に配布し、野菜の育成と栄養摂取の啓発を同時に行った。合計 1383 人の生徒にカボチャ（2 種類）、豆、レッドクリーパー、ほうれん草、ウリの種を配布した。また、両親の参加を促すよう、条件として一部は販売用、残りは摂取用という形で子どもたちに種を配布した。殆どの子どもたちは両親のサポートを得ることができ、野菜を育てることができた。子どもたちの食事にもより栄養分豊富な食事が加わった。今後は BDP が支援しているダッカ市内や北部の学校へとこの運動を広めていくことが期待されている。

●フィリピン

ASI ストリートチルドレン支援

【カピテ州ダスマリネス町パリパラン】

2004 年度より支援を行ってきたマニラ市内の国鉄の線路沿いに形成されたスラム街は、フィリピン政府の政策により、2007 年の全国総選挙に伴い一斉に強制撤去された。南に約 60km、車で 2 時間半のカピテ州ダスマリネス町への移転を余儀なくされた。アジア里親の会のプロジェクトとして子どもたちの教育を支援、学校の授業に立ち遅れてしまう子どもたちには補助的な教育指導も行なった。

また、環境教育のキャンプやユースリーダートレーニングのプログラム、家庭環境から原因の精神的なトラウマケアも実施。リーダーシップトレーニングにおいては、15 歳以上の若者を各地から集い、リーダーシップに関する一貫したトレーニングを行い、そこで認証を受けたリーダーが各自の村に戻りさらに年下の小学・高校生に伝えていく方法を取り、トレーニングを受けたメンバーが増加していつている。また、環境保全に関する勉強会と清掃活動も行い、環境保全の意識向上に繋がっている。



ウリを育てることに成功した女の子
バングラデシュ栄養改善事業



日印友好学園パドラ小学校 寮生の食事風景



日印友好学園コスモニケタンハイスクールの授業



ネパール ナウリンセカンダリースクールに完成した図書室にて生徒たちと図書室運営委員会を行っている様子

I. 開発支援事業

I-C. 貧困対策事業

1. マイクロクレジット支援・能力開発

●インド

RUDYA 女性の自助グループ (SHG) 支援事業

【マハラシュトラ州ガッチロリ県ダンノーラ地区
ラクシミーポリ村】

2007 年度に本会の支援により設立されたマイクロファイナンスのための「アダーシュ協同組合銀行」。本銀行を中心にラクシミーポリ村及び周辺 3 か村の村の人たち及び、女性の自助グループ (Self Help Group-SHG-) による事業創出のための少額貸付を行った。返済及び貯蓄は 98% 台と高いが、基本的な貯蓄と貸付資本が少ないために、貸付対象者が伸び悩んでいる。地元で大変期待をされている銀行であり、今後の貸付用の投資資金をどう生み出すが現在の課題となっている。

●カンボジア

KAFS マイクロクレジット事業 25 世帯

【タケオ州ドーンケオ郡ロカクラウ地区トラペアンサラ村】

2012 年度はタケオ州ドーンケオ郡の 25 世帯を中心にマイクロクレジット（農村の人々の起業のための小口ローン）を実施した。主には衣服の小売、肥料購入、靴の修理、養鶏などにて起業し、収入向上を行った。

現在、カンボジアにおいてマイクロファイナンスがバブル化してきており、多重債務、過剰取り立てなどが目立ってきた。多重債務者が増加するなど、大きな問題となっている。本会も同業者として多重債務者を生み出さないよう、マイクロファイナンスを実施する機関として厳しい行動規範を持たなければならないと感じている。

●ネパール

AFS-Nepal 牛の銀行事業

【バグマティ県バクタプール郡スダール村】

農村部においてバイオガスプラントの設置の要望が高くなって一方、牛または水牛を家畜として持たない世帯はバイオガスプラントを設置することができないことが課題であった為 2 年前より乳牛の購入資金を貸し出し実施した返済金回収を実施。現地の気候状況の変化により農作物の不作による減収で返済できない農家が続出し、返済調整を行っている。

●フィリピン

AFS-UMD 協同組合設立と運営事業

【ソルソゴン州マトノック町】

ニッパヤシを原料とした屋根材を主な収入源としているこの地域では、材料が買いたたかれ、適正価格での取引がなされておらず貧富の格差を生み出している。このような状況を解決するために、協同組合を設立し、適正な価格で取引が出来るよう住民へのエンパワメントをおこなった。また、その協同組合を自らの力で運営できるよう経営研修などを実施した。それと同時に、適正な貸付の仕組みをもつマイクロクレジットをはじめ、共生可能な事業を行うことで貧困層が基本的な生活を確保できる社会づくりを目指した。

2. 職業訓練

●インド

BSVIA 職業訓練学校

【カルナータカ州ビジャプール県プルナプール村】

2010 年度に外務省の NGO 連携無償資金の助成を受けて完成した職業訓練学校。現地スタッフの熱心な営業努力により、在カルナータカ州バンガロールの日本企業からインターンにて生徒が受け入れられるなど、成果をあげてきた。今後はそれらが本採用に繋がるよう指導内容を強化することが課題である。

3. 保健衛生指導・医療

(1) トイレ建設

(2012 年 3 月現在)

国名	2012 年度完成	累積
インド	-	1194
カンボジア	-	4
バングラデシュ	-	275
パキスタン	-	6
ネパール	6	870
タイ	-	9
ラオス	-	1
合計	6	2359

●ネパール

AFS-Nepal 農村トイレ建設支援

(バイオガスプラント設置付随事業) 6 基

【バグマティ県バクタプール郡スダール村／ノールパラシ郡ピトゥリ村／ダーディン郡】

ネパールでは、バイオガスプラント設置時にトイレの設置が条件付けされている。そのためにバイオガスプラント設置時にトイレを設置を始める農家が多くなっている。本会のバイオガス設置対象としているスダール村では、バクタプール郡の中でも 2 番目に村の世帯すべてにトイレ設置を目指す村として郡に登録したほどトイレ設置に関するこれまでの考え方が改善されている。今年度はバイオガスプラント 8 基の設置に対し 6 世帯にてトイレの設置が行われた。

※これまでバイオガスプラントを設置した 8 割以上が設置している為にその数を設置数とした。

(2) 医療支援

●中華人民共和国

アナディアル病院支援事業

【新疆ウイグル自治区カシュガル】

アナディアル病院は農村地域の医療環境改善を目的に

I. 開発支援事業

2007 年建設。より多くの患者を受け入れ、医療環境の向上に努めるために機器等の支援を行っている。2012 年度は、昨年度に寄贈された血液成分分析機と手術機器のモニタリングと使用状況を確認した。また、病院に来ることが出来ない遠方の村への巡回診療の準備を進めている。

●ネパール

AFS-Nepal 地域医療向上支援事業

【バグマティ県バクタプール郡スダール村】
山間地であり、無医村地域の村民の医療支援として、ヘルスキャンプ（巡回医療）を実施。女性の農村部における状況改善をめざし、産婦人科専門医師による女性の医療支援をメインにし、併せて総合的な診察を実施、受診者 300 名。子宮脱や子宮関係の病気が多くみられた。総合診療においては、ビタミン不足による体力低下や抵抗力低下が多くみられた。今後も無医村地域における定期的実施の必要性がある。

4. 提携 NGO 運営助成

本会の国際事業の柱の一つとして、国際ネットワークの各国部会（NGO）の活動を強化は必須である。しかし、発展途上国では NGO の自己資金調達が困難であり助成を必要としている。自立運営を目指して、以下の各団体の運営に協力した。運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

RUDYA（インド）

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

BSVIA（インド）

運営費及びプログラム経費を一部補助。

HDSI（インド）

インドにおけるグリーンスカウト運動を全国的に進めるため、運営費及びプログラム経費を一部補助した。

TAFS（タイ）

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所経費も本会で負担。

KAFS（カンボジア）

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

SARVODAYA（スリランカ）

サルボダヤの組織改革に伴い、本会が長年支援してきた CCBU（地域開発部門）がサルボダヤ本部に吸収統合された。長年継続してきた CCBU 支援は本年度をもって終了した。事務局長のアベナヤケ氏はサルボダヤを定年退職し、現在、スリランカ国内のマイクロ保険会社のアドバイザーとして勤務、副事務局長のクナシリ氏は、サルボダヤの礼拝センターの所長として勤務している。



インド・ビジャプール県の職業訓練学校にて
実習に励む学生たち



国際女性の日を祝い、女性の自立を啓発する
インド・ガッチロリ県の女性の自助グループ



ネパール・スダール村でのヘルスキャンプ（巡回診療）の様子

I. 開発支援事業

I-D. 環境事業

地球温暖化が加速化し、多発化する大規模な自然災害の一因ともされている。植林を行い、自然を守ることは、頻繁化している大規模な自然災害の勢いを弱まるだけでなく、防災の上でも非常に有効であります。また、バイオガスパラントも新たなエネルギー資源としてもっと世界中に もっと利用されるべきものであります。

東日本大震災を通して、改めて自然や自然エネルギーに関して見つめ直すきっかけとなった。アジアの農村などで実施されている自然に対する様々な取り組みからの学びは多く、今後、私たちの社会においても有効に活かすヒントがあると思う。

1. 植林・水源涵養林養育

(1) 植林

(2013 年 3 月現在)

国 名	2012 年度植林	累 積
インド	-	712,205
インドネシア	-	193,960
カンボジア	-	9,000
スリランカ	-	400
タイ	-	20,500
中国	-	1,105,525
ネパール	2,365	293,926
パキスタン	-	4,560
フィリピン	2,820	86,215
バングラデシュ	-	26,500
合計	4,944	2,450,703

●フィリピン

AFS-Pandan パندان水源の森プロジェクト 820 本

【アンティーク州パナイ島パندان町】

2003 年度より開始した水源の森保全プロジェクト。今年度は、ランソネス、ランブータン、グヤパノ、アボカド、カラマンシー、マコパ、アティス、サントル、カシュー、ポメロ等の果樹計 820 本の植林を行なった。これまで植林した木々が成長し、果実をつけ始めた。地元住民の植林に対する意識が高まり、専門家へ積極的にアドバイスを受け、勉強会を開くなど活発に活動を行っている。成長を早めるために剪定実施し、その努力が果実の実りとなった。また、現地の女性たちによる維持管理の体制ができてきており、月 1 回水源管理グループによる草刈り、苗木の成長の確認が行なわれている。

※第 9 回京都府立高等学校ワークキャンプ、第 11 回フィリピンパندان国際交流親善ツアーで植林実施。

AFS-UMD マングローブ植林プロジェクト 2,000 本

【ソルソゴン州マトノック町サンタ・イザベル村】

2012 年度より開始した海岸保全プロジェクト。太平洋に面しているマトノック町では、台風や大雨のごとに土砂崩れや海岸浸食の被害を受けており、村をつなぐ唯一の道路も浸食の危険性ははらんでいる。村の広大な干潟に、若者や漁師メンバーが中心となり、住民参加型でマングローブを植林し、将来的な海岸浸食防止網としての成長と、魚やエビといった生態系の復活が期待されている。今後は、マングローブの植林モデル村としてこの活動を広めていくと同時に、同モデル村の観察と、補植を継続する。

●ネパール

AFS-Nepal コミュニティー フォレスト 74 本

【ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村】

環境を守るため又地域開発運営の為に村民たちによるコミュニティフォレスト活動を実施している。今年度は川沿いにボカイノやドゥピーを 60 本植樹した。又スリーサント小中学校では児童の環境と学習の為にドゥピー 8 本と紫陽花 6 本の植樹を行った。併せて児童はウコンの栽培を行い、約 6 キロの収穫を得ている。植林を通して学校の運営費、村の必要経費に当てることも、もう一つの目的として実施している。

AFS-Nepal コミュニティー フォレスト 2,000 本

【バグマティ県バクタプール郡スダール村】

地域住民の手による環境保全を目的とした植林活動を、引き続き実施。今年度は昨年までの FUG (フォレストユースグループ) の隣の FUG より要請により植林を実施。女性の中心の FUG で積極的な活動を実施している。FUG はコミュニティフォレストとして地域の森作りを以前より実施しているが、この地域は一種類の木 (松) の植林により森の植生が異常な状況になっている。森再生を目的に村人と地域の学生及び環境プログラム参加の他村の学生も加わり植林を実施。平野地域の子どもが山間地の植林を経験できる学習の機会ともなった。ネパール自生のロブシーの苗木 1,000 本、葉草として用いられるドゥピサッラ、テジュバート、ピレンドラフル、クトゥミロ、アマラ、コプール、カイヨー、リタ等を 1,000 本の計 2,000 本植樹した。※第 41 回ネパールワークキャンプで植林実施

AFS-Nepal 育苗センター 50 本

【ナラヤン県チトワン郡ラトナナガル市 5 地区】

「朝日読者の森」として森林破壊が著しいネパールにて 2001 年より森作り事業を実施。5 年計画の終了後、農村地域に貢献できるセンターつくりと地域の森林面積の復活を目指して JAFS ランドと称したエリアにアグロフォレストリーを実施。維持管理と共に、ネパールでの植林活動を広げる為に、今年度はバット (細竹) 50 本を植樹。各植林プロジェクト地の苗木作りも実施。その他、緑豆、ズッキーニ、生姜等を育て販売して農園運営を実施している。モデルケースとなる地域農民との連携による農園つくりを目指し更なる計画を調整中。

AFS-Nepal コミュニティーフォレスト 241 本

【バグマティ県シンドゥパルチョーク郡ボテシハ村】

ボテシハ村は山間地の中腹にありながら赤土で表土が削られていま

1. 開発支援事業

す。村の子どもたちが通うスリー ジャレスワリ小・中学校の周辺も同じく崩れてつつある状況にあります。その防止策の為に今年は、根の張るネル カダを 200 本植え、そのほか松、カルキ、グラーフ、イン ドゥカマル、コプール、モミの木など 41 本を植樹した。

2. 環境改善・国際グリーンスカウト

国際グリーンスカウト (GS) 運動とは「Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全」に取り組む市民活動である。1986 年に本会が提唱。アジアにおける「理解と協力と連帯」の輪を広げる実践活動の一環として、AFS の海外ネットワークを通じて国際的に 16 ヶ国にて展開。アジア各国に草の根市民による環境保全活動を広げることを目的としている。

以下は、各国（日本を除く）の活動状況。

●インド

HDSI ハーベストフェスティバル (収穫記念祭)

2005 年からグリーンスカウト運動をマハラシュトラ州アムラワティ県にて進めている HDSI。HDSI から輩出されたグリーンスカウトメンバーやアジア・ユースサミットに参加した地元の高校生たちが中心となり、地元の農作物収穫祝うためのハーベストフェスティバルを実行した。事前にチャリティくじ引き券を配布し、一定額を寄付した人が、くじを引き、記念品をもらえる仕組みをとった。この寄付金は、HDSI が活動する自然環境改善プログラム（植林の費用など）と医療改善（巡回医療）のための資金となる。合計約 2,000 ドルもの寄付が集まった。

●ネパール

AFS-Nepal 小学生環境セミナー

6 校

【バクタプール郡スダール村、カブレ郡トクチャ村、カトマンズ郡チュニケル村、ノールパラシ郡ピトゥリ村】

GS 活動を行う小学生対象の環境セミナーを 2 回実施。その 1 回目は 8 月にスダール村にて地元の小学校 2 校とカトマンズ郊外のチュニケル村より 1 校、平野部のピトゥリ村より 3 校の計 6 校の小学生が集合し、近年ネパールで取り入れ始められた「太陽エネルギー」に関する働きや仕組みなどを学ぶことにより今後学校へのソーラーパネル導入への第 1 歩とした。合わせて合同での植林作業、又各学校の環境活動の成果と今後の目標を発表。隣村の小学校を訪問するとともに参加児童たちがマハンカル小学校への改善点などを提案することで自らの活動を振り返った。帰り道のゴミ拾いを行い、ゴミの種類等を確認し、その軽減のためにすべきことなどを話し合った。カリカ小学校（スダール村 会場校）、マハンカル小学校（トクチャ村）、スリーサンティ小学校、ラズラトナ小学校、ピトゥリ小学校（以上 3 校ピトゥリ村）、ナウリン小学校（チュニケル村）小学生各校 4 名及び教師各校 2 名

2 回目は 12 月にピトゥリ村にて実施。8 月とは逆に山間地の子どもが平野の状況を学ぶと共にピトゥリ村にて 8 月以後どの程度の活動を実施できているかを各学校より発表してもらうと共に、清掃の内容と質に関して日本人の清掃方法と現地児童の清掃方法を実施して比較し、その改善点を児童が理解し実施できるように促した。同時に日本の雑巾の利点と縫い方を伝授し、ネパールの

清掃に欠けている視点を気づくように促した。同時に子どもたちの自身の暮らしと環境保全の重要性を気づくことを目的とした学習を紙芝居を用いて実施。実施会場のスリーサンティ小学校のゴミの分別や処理方法を見学することで、各学校での取り組みが環境及び今のネパールの状況にあったものであるかを考えた。最終的には学校で行う目標の一つを決めそれぞれの学校に持ち帰り、その目標の提案理由を学校全体でシェアし合い、どのようにその目標に向かって活動を行うかを学校で決めることとし、参加した学生がそれぞれの学校にてリーダーとして活動を実施できるように促した。カリカ小学校（スダール村）、スリーサンティ小学校（ピトゥリ村 6 地区・会場校）、ラズラトナ小学校（ピトゥリ村 4 地区）、ピトゥリ小学校（ピトゥリ村 9 地区）、ナウリン小学校（チュニケル村）小学生各校 4 名及び教師各校 2 名

AFS-Nepal グリーンスカウト ローカルGS組織づくり

【バクタプール郡スダール村、カトマンズ郡チュニケル村、ノールパラシ郡ピトゥリ村】

農村開発プロジェクトを実施している地域において、村の青少年を中心としたローカル GS づくりを奨励。環境改善に向けての方法を考え、行動できるように促している。

ピトゥリ村 GS は、地域の子どもたちが小グループを作り、環境美化推進運動を実施。住居周辺道の清掃活動をスリーサンティ小学校、ラズマンディル小学校、ピトゥリ小学校の生徒と地域住民が協力して行う。

チュニケル村 GS は、コミュニティーフォレスト活動を通じ子どもたちが地域の環境保全に繋がるとし、毎年 GS として植林活動を実施。

スダール村 GS は美化活動の取り組みと地域の環境活動への参加としてコミュニティーフォレストにて植林を実施。地域のクラブ的な活動としてリーダー育成をも目指している。

●フィリピン

ASI グリーンスカウト活動紹介プログラム

【リサール州アンゴノ町、ピナゴナン町、カルドナ町
カピテ州ダスマリネス町パリパラン】

16 歳以上のグリーンスカウトメンバーの地域代表（リーダー）20 名を対象として、自己能力開発・環境保全セミナーとワークショップを 10 のカテゴリー別に実施。グリーンスカウト地域代表メンバーはその学んだ内容を地域に持ち帰り、年下の子どもたち平均 10 名に対し同様のプログラムを実施した。グリーンスカウトの活動の意義・活動が広まった。

2009 年にスタッフを 1 名日本にを招へいし、有機農法や EM 菌についての研修したことをきっかけに、フィリピンでの EM 団子（マブハイボール）による環境浄化や、環境に配慮された養鶏、有機農法の勉強会と実践など、多岐にわたる活動に活かしている。

KALIPI 財団 環境意識啓発

【ヌエバエシハ州サンレオナルド】

1. 年間を通じて、環境に関する世界中の記事を AFS ニュースレターとして AFS メンバーに発信。また併せて、政策提言も行っている。
2. アースデイには、地方行政と学校に呼びかけを行い、温暖化ガスの排出を少しでも少なくするために、1 時間の消灯を行った。
3. 地方行政や団体に対して、KALIPI 財団が環境についてのコンサルタントの無料提供を行った。

Ⅰ．開発支援事業

AFS-UMD グリーンスカウト 環境保全プログラム

【ソルソゴン州マトノック町】

台風が頻発するこの地域において、海岸沿いにマングローブの植林を行うことで、自然災害の危険から身を守ることが可能になります。今後のマングローブ植林活動の前段階として、漁師を中心とした住民を対象に、マングローブ生態系に関するセミナーを開催し、環境保全に対する意識の向上を目指した。

3．再生可能エネルギー資源活用・普及

●ネパール

AFS- Nepal バイオガスプラント設置及び普及事業 8基

【バグマティ県、ルンビニ県】

人口増加と同時に森林破壊が進み、その歯止めとしての代替燃料の確保が急務となってきた。資源が少ないネパールでは、身近にある牛糞を利用したバイオガスの普及が、確実な燃料確保につながることに期待されている。農村に住む人々の生活改善（薪採集を担っていた子ども、女性の重労働の軽減、薪の煙で目や肺を患っていた女性の健康の改善、発酵後のスラリーは農業に欠かせない堆肥となる）にも大きく寄与している。

効果として、1基の設置につき、薪の年間使用量と1世帯当たり4,000Kgの使用量の内70～90%削減することができる。このことは、国土の30%台にまでに減少（以前は70%）した森林面積の回復にも繋がる。同時にトイレの併設も進み、農村地区での衛生向上にも繋がっている。

- ・バクタプール郡スダール村 2基
- ・ダーディン郡 3基
- ・ノールパラシ郡ピトゥリ村 3基

【2012年度 計8基設置 累計1,052基設置】



ネパール スダール村のコミュニティーフォレストに環境セミナーで集った生徒と村人そしてワークキャンプ参加の日本人とで植林作業をする様子



フィリピン・パンダンにて暁星高校の9年目の植林活動



ハーベストフェスティバルにおける
エッセイコンテスト賞の様子



ネパール環境セミナーにてソーラーエネルギーを学ぶためにはじめて組み立てた木製飛行機のプラモデルの動きに注目する生徒達

I. 開発支援事業

I-E. サイクル・エイド事業

1. サイクル・エイド

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう！」を合言葉に誕生したサイクル・エイドは、放置自転車を府内市町村の協力のもと、修理、再生し、海外の子どもたちに贈る事業である。

大阪府内の放置自転車の数は、年間 50 万台に上り、うち約半数は引き取り手がないために大きな社会問題、環境問題となっている。一方、アジアやアフリカでは学校の数が十分でないため、長時間歩いて学校に通うか、遠すぎるために通学できない子どもたちが数多くいる。

こうした子どもに自転車を贈ることで、教育環境の向上などに寄与し、国際交流の絆を深めることをこの事業の目的とする。放置自転車を修理、再生し、リデュース・リユース・リサイクルの好循環によって、大阪府内の環境負荷を軽減し、資源循環型社会に向けて地球環境に優しい自転車の活用を促進することを目指す。

2005 年度より、本会が事務局として事業を実施。大阪府などがメンバーとなったサイクル・エイド支援会議を設置し、事業を円滑に進めていくようサポートしている。

(1) 自転車の寄贈

◆自転車の提供 計 740 台

放置自転車を収集するために、府内各市町村への協力呼びかけを行い、今年度は下記の 5 市から協力を得ることができた。回収された自転車は各市で選別、修理、再生後に泉大津市にある堺泉北港へ運搬され、コンテナに積み込まれ、海上輸送で寄贈先に送られた。

堺市 210 台、八尾市 270 台、阪南市 120 台、
泉大津市 100 台、四條畷市 40 台

平成 24 年度は合計 740 台の自転車が寄贈された。事業開始以来、アジア、アフリカの 10 ヶ国に合計 27,148 台の自転車を贈ることができた。

宮城県気仙沼市 40 台 (2012 年 10 月)
フィリピン 350 台 (2012 年 10 月)
タイ 350 台 (2013 年 2 月)

宮城県気仙沼市 40 台

2012 年 10 月に宮城県気仙沼市の反松公園住宅に自転車 40 台が贈られた。

東日本大震災の被災地では、震災発生後一年半の時間が流れていたが、仮設住宅に住む人々は様々な生活上の制限を受けながら復興への道を歩んでいた。支援物資も途絶え、従来の仕事を再開することや新たな就職先を見つけれられない人々が

多い中、新しい自転車や車を購入するのが難しい状況があった。新品ではないが、点検し安全に整備された自転車はとても喜ばれ、生活の行動範囲を拡げ、環境改善に役立てられている。

フィリピン 350 台

2012 年 10 月にフィリピンのヌエバエシハ州カピアオ市に 350 台の自転車が贈られた。

	受益者	数
1	セイト ジョセフ小学校	30
2	エンタブラド小学校	77
3	サンタ イザベル高校	39
4	バランガイ 助産婦	10
5	バランガイ シニピット	5
6	サン フェルナンド ノーテ地区	20
7	バランガイ マリガヤ	5
8	近隣のバランガイ	164
Grand Total		350

自転車はフィリピンの人々に下記のように役立てられている。

- 小学校や中学・高校から遠くに住む学生の通学
- 村の助産師や自警団やコミュニティーワーカー等の地域社会福祉向上に関わる人々
- 農業に従事する貧しい村人
- 安全で環境にやさしい移動手段として有効に活用されている。

タイ 350 台

2013 年 2 月にタイのナン県の学校を中心として、環境保全促進プログラムの一環として 350 台の自転車が贈られた。第 23 回ネットワークセミナーの宣言文にしたがい、下記の通りで本プログラムからの自転車の寄贈を行うことを決定した。

	受益者	数
1	ナン県トゥンチャーン郡 丘陵地から市内に通学する貧しい学生	35
2	ナン県ウィエンサー郡 貧しい学生と農民	77
3	ナン県ナン市 貧しい村人	47
4	ウッタラディット県 貧しい村人	36
5	プレー県 貧しい農民	40
6	ラーチャブリー県 農業組合	4
7	チョンブリー県 農業組合	10
8	スラートターニー県 農業組合	6
9	近隣地域の村人	95
Grand Total		350

I. 開発支援事業

- 遠方から通学する貧しい学生（2～8 km）
- 貧しい家族を助けること
- 国内の輸送のコストを減じること
- 地球温暖化に対してキャンペーンすること
- 省エネルギーの促進
- ローカルの観光旅行の促進
- 自転車を使用することで健康な方法で旅行する
- 自動車またはオートバイで旅行を部分的に自転車で代用

学生に送られた自転車は学校で管理され、卒業生から新入生に引き継がれている。この事業を通じて、自転車の有効活用や地球環境保全のキャンペーンがおこなわれることにより、タイ国内の AFS ネットワークが広がってきている。

■寝屋川多文化フェスタ

日程：2012 年 6 月 2 日(土) 場所：寝屋川市立市民会館

主催：寝屋川多文化フェスタ実行委員会

<内容>

サイクル・エイド事業の広報活動として展示と活動紹介をおこなった。多くの寝屋川市民に自転車の有効活用について知ってもらうことができた。

■堺大魚夜市

日程：2012 年 7 月 31 日(火) 場所：大浜公園

主催：堺大魚夜市実行委員会

【堺市自治連合協議会、堺商工会議所、(社)堺高石青年会議所、(社)堺観光コンベンション協会】

後援：堺市ほか

来場者数：約 22 万人

<内容>

堺 700 年の歴史、伝統文化の継承、市民・企業・行政の協働、地域社会との共生、世代間の調和と交流、堺の伝統産業の PR をコンセプトに毎年 7 月 31 日に開催されている堺大魚夜市では、堺大魚夜市実行委員会の多大な協力のもと、ブース出店を行った。事業開始当初より、自転車の町として再生自転車を数多く提供いただいている堺市の市民の方に本事業の紹介、説明を行い、理解を深めた。また、サイクル・エイド事業の活動紹介を行うとともに、アジアの民芸品、飲食の物販を行い、海上輸送への協力を得ることができた。

■泉大津フェニックス野外コンサート

日程：2012 年 9 月 2 日(日)、8 日(土)、9 日(日)

場所：泉大津フェニックス

主催：泉大津フェニックス夏フェス 12 実行委員会事務局

来場者数：合計 約 38,500 人

<内容>

泉大津フェニックスが誕生した新しい町「夕風町」では、空と海、そして全面芝生という心地よい空間で、野外コンサートをはじめとした各種イベントが開催されている。今年度は 9 月 2 日(土)には『RUSH BALL 2012』が、9 月 8 日(土)、9 日(日)には OTODAMA'11 - '12～音泉魂～が開催され、多くの音楽ファンを魅了した。コンサート主催者の多大なるご協力のもと、会場内のブースでサイクル・エイド事業の活動紹介

と物販を行い、海上輸送への協力を得ることができた。

■サイクル・エイド募金箱の設置

再生自転車の海外輸送費を確保するため、大阪府パスポートセンターに募金箱を設置し、府民に寄付の呼びかけを行った。

日程：2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日

場所：大阪府パスポートセンター本所

■大阪家庭裁判所「自転車盗等被害を考える講習会（月例）」に於いて、サイクル・エイド事業の啓発活動を実施。

2012 年 5 月 22 日、6 月 26 日、7 月 24 日、9 月 25 日、

10 月 23 日、11 月 27 日、12 月 18 日

2013 年 1 月 22 日、2 月 26 日、3 月 19 日

場所：大阪家庭裁判所

<内容>

自転車盗難に関わった青少年とその家族を対象に、自転車の大切さを伝えるサイクル・エイド事業の啓発活動を実施。月に 1 回、サイクル・エイド事業で自転車を届けている子どもたちを取り巻く状況や自転車を贈った後の生活の変化を伝えることによって、放置自転車や自転車盗難防止の意識付けとともに、青少年の健全な育成につとめた。

■チャリティ サイクリングイベント開催

おおさか自転車マップづくりの会が企画主催で、サイクル・エイドの広報を兼ねたチャリティサイクリングが 2 回大阪市内で開催された。

◆「春のおおさか自転車散歩～新緑 潮風にのって」

日程：2012 年 6 月 17 日（日）

場所：淀川スーパー堤防～舞洲～天保山

参加者：11 名

◆「秋のおおさか自転車散歩～なにわの市場づくり」

日程：2012 年 10 月 20 日（日）

場所：大阪中央市場～木津市場～天満

参加者：8 名

※本事業は競輪の補助を受けて実施しました。



タイ ナン県での自転車受け渡し

I. 開発支援事業

ワークキャンプ・視察

1. ワークキャンプ

国際ワークキャンプを通じて本会の海外プロジェクトを支援すると共に、現地での共同作業を通じて国際理解・文化交流の機会とし、本会の活動に対する理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目指し、毎年アジア各国で実施している。

日本各企業の ASEAN 国への進出が顕著の中、従業員を代表し各企業労組が本会のワークキャンプが、地域社会の貢献のみならず、地元の従業員との交流に活用されるようになり、本会のワークキャンプを企業と実施する役割が更に高まったといえる。

本年度は3カ国で14回に亘って実施し、延べ221人が参加した。以下、実施日時順による。

1. 第40回ネパール国際ワークキャンプ（ネパール）

期 間：2012年4月28日～5月5日

場 所：シンドゥバルチョーク郡ポテシバ村、カトマンズ

参加者：12名

内 容：水道パイプライン建設、農村生活体験、交流

2. 第21回イオングループ労連カンボジアワーキングキャンプ

期 間：2012年5月22日～5月26日

場 所：タケオ州トリアン郡ロネアム地区クロントベア村

参加者：19名

内 容：井戸建設、交流、小学校にて文具寄贈

3. 第22回イオングループ労連カンボジアワーキングキャンプ

期 間：2012年5月29日～6月2日

場 所：タケオ州

参加者：23名

内 容：井戸建設、交流、小学校にて文具寄贈、

イオン・ノンペン、イオンモール両社長との会合

長年に及ぶイオン労連と本会の活動が、カンボジア政府に認められ、内閣総理大臣から感謝状が授与された。

4. イオン北海道労組・マックスバリュ北海道労組

カンボジアワークキャンプ

期 間：2012年6月5日～2012年6月9日

場 所：タケオ州トリアン郡クバブ地区トルマダ村

参加者：19名

内 容：井戸建設、交流、小学校にて文具寄贈

5. 第2回イオン九州労組・マックスバリュ中部労組

カンボジアワークキャンプ

期 間：2012年6月5日～2012年6月9日

場 所：タケオ州トリアン郡ロネアム地区ソフィ村

参加者：19名

内 容：井戸建設、交流、小学校にて文具寄贈

6. 第2回イオンリテールワーカーズユニオン

カンボジアワーキングセミナー

期 間：2012年6月23日～28日

場 所：タケオ州トリアン郡

プレイスルック地区トラパン・アン村

参加者：21名

内 容：井戸建設、交流、小学校にて文具寄贈、

プノンペン市内商業施設視察、イオン・プノンペン社長からのセミナー

7. 第41回ネパール国際ワークキャンプ（ネパール）

期 間：2012年8月4日～8月14日

場 所：バグマティ県バクタプール郡スダール村

参加者：5名

内 容：農村開発プログラム、植林活動参加
栄養授業、農村生活体験、交流

8. 第9回京都暁星高校ワークキャンプ（フィリピン）

期 間：2012年9月21日～9月28日

場 所：パナイ島アンティック州パンダン町

参加者：12名

内 容：植林、環境セミナー、井戸ポンプ建設、交流

9. 第3回オムロン労働組合カンボジアワークキャンプ

期 間：2012年11月14日～11月18日

場 所：タケオ州トリアン郡クバブ地区ドンペール村

参加者：21名

内 容：井戸建設、小学校にて交流授業

10. 第23回イオングループ労連カンボジアワーキングキャンプ

期 間：2012年11月20日～11月24日

場 所：タケオ州トリアン郡

ブランバイマム地区克蘭カンダール村

参加者：19名（内イオン・プノンペン従業員3名参加）

内 容：井戸建設、交流

11. かんでん NGO ネットワークきょうと ネパール

「バイオガスプラント建設」第6次ワークキャンプ

期 間：2012年11月23日～12月3日

場 所：ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村

参加者：11名

内 容：バイオガスプラント建設、プロジェクト視察
農村生活体験、交流

12. 第24回イオングループ労連カンボジアワーキングキャンプ

期 間：2012年11月27日～12月1日

場 所：タケオ州トリアン郡

ブランバイマム地区ドムナックレアチア村

参加者：23名

内 容：井戸建設、交流

13. 第42回ネパール国際ワークキャンプ（ネパール）

期 間：2012年12月23日～2013年1月2日

場 所：ルンビニ県ノールパラシ郡ピトゥリ村

参加者：3名

内 容：バイオガスプラント建設、環境セミナー、交流

14. 第9回 NTT 労働組合東海総支部

フィリピン・カタンドゥアネスワークキャンプ（フィリピン）

期 間：2013年1月19日～1月23日

場 所：カタンドゥアネス島ビラク町ブエナビスタ村

参加者：14名

内 容：井戸・パイプライン建設、プロジェクト視察、交流

Ⅰ．開発支援事業

２．海外プロジェクト視察

1. タイ、スカウト合宿出席

期 間：2012年4月29日～5月8日
場 所：チョンブリ県
視察者：横山浩平
内 容：タイにおけるスカウト連盟合宿に参加

2. ネパール プロジェクト視察 及びスリーサントゥン小学校 設立 25 周年式典出席

期 間：2012年4月25日～5月6日
場 所：バグワティ県、ノールパラシ郡ピトゥリ村
視察者：熱田典子
内 容：飲料水事業、教育支援、植林プロジェクト視察

3. インドネシア、カンボジア、国際交流事業打合せ

場 所：バリ島、プノンペン
視察者：村上公彦、中島和子（日本語教師）
内 容：バリのディアナプラ大学への日本語教師派遣のため
の打合せ、イオンへの市民栄誉賞授与式出席

4. フィリピン京セラ労働組合 井戸視察

期 間：2012年6月18日～6月20日
場 所：マニラ市、ヌエバエシハ州
視察者：松井聡子
内 容：完成した井戸の視察、交流

5. インドネシア、カンボジア、日本語教師派遣

期 間：2012年8月22日～8月28日
場 所：バリ島、プノンペン
視察者：村上公彦、中島和子（日本語教師）
内 容：バリのディアナプラ大学への日本語教師派遣
パナソニックデバイス労組の市民栄誉賞授与式出席

6. カンボジア、パナソニックデバイス労働組合 （旧パナソニック半導体労働組合）井戸視察

期 間：2012年8月20日～8月24日
視察者：パナソニックデバイス労組2名、横山浩平
場 所：カンボジア、タケオ州
内容：寄贈井戸視察、カンボジア内閣官房事務次官との会合
長年に及ぶパナソニック半導体労組と本会の活動がカンボジ
ア政府に認められ、内閣総理大臣から市民栄誉賞が授与され
た。

7. ネパール プロジェクト視察

期 間：2012年8月5日～8月25日
場 所：バグマティ県カブレ郡、カトマンズ郡、ノールパラシ郡
視察者：熱田典子
内 容：バイオガスプラント・井戸・植林・アジア里親の会支援校と
の打ち合わせ、養蜂希望者との協議

8. フィリピン、プロジェクト視察

期 間：2012年10月11日～10月16日
視察者：村上公彦
場 所：ソルソゴン州マトノック町、マニラ市
内 容：マングローブ植林事業視察、AFS マニラ活動打合せ

9. インド、株式会社クボタ 寄贈井戸視察

期 間：2012年11月20日～11月24日

視察者：株式会社クボタ（3名、内現地従業員1名）
村上公彦、富松英二

場 所：カルナータカ州ビジャプール県
内 容：寄贈井戸視察、ビジャプール農業大学有機農地訪問

10. スリランカ、プロジェクト視察

期 間：2012年12月26日～2013年1月2日
視察者：村上公彦
場 所：モラトゥワ
内 容：2013年度サルボダヤ事業計画打合せ

11. ネパール プロジェクト視察 ヘルスキャンプ実施

期 間：2012年11月24日～12月3日
場 所：バクタプール郡スダール村、ノールパラシ郡
視察者：熱田典子
内 容：バイオガスプラント・井戸・地域医療支援プロジェクト実施

12. ネパール図書室オープニングセレモニー及び里子支援視察

期 間：2012年12月23日～2013年1月2日
場 所：バグワティ県カトマンズ郡チュニケル村・シタパイ
ラ、ルンビニ県ノールパラシ郡
視察者：熱田典子

13. フィリピン、プロジェクト視察

期 間：2013年1月8日～1月15日
視察者：村上公彦
場 所：マニラ、アンティーク県パンダン町
内 容：AFS マニラのエビ氏死去に伴う慰霊、AFS マニラ組
織体制についての打合せ、パンダン交流ツアーへの合流及び、
障がい者支援プロジェクト視察

14. フィリピン、プロジェクト視察

期 間：2013年1月16日～1月18日
場 所：ソルソゴン州マトノック町
視察者：松井聡子
内 容：マングローブ植林、ココナッツ貧困対策プロジェクト視察

15. ミャンマー、茨木東ロータリークラブ 井戸建設地視察

期 間：2013年2月13日～2月21日
場 所：ヤンゴン管区、マンダレー州
視察者：茨木東ロータリークラブ（11名）、横山浩平
内 容：ヤンゴン管区井戸建設地訪問、小学校にて文具寄贈
インパール作戦日本人戦死者鎮魂、避難民支援
打ち合わせ

16. カンボジア、日本社会福祉大学 本会プロジェクト地訪問

期 間：2013年2月27日
視察者：日本社会福祉大学 教授2名、学生20名
内 容：カンボジア本会事業地訪問、交流、KAFS 事務所訪問

17. カンボジア、兵庫県立国際高等学校 井戸寄贈地訪問

期 間：2013年3月8日～12日
視察者：兵庫県立国際高等学校教諭1名
場 所：タケオ州、プノンペン市内、シェムリアップ市内
内 容：同高等学校寄贈井戸視察、交流

18. インド、プロジェクト視察

期 間：2013年3月2日～3月13日
視察者：田中壽美子
場 所：カルナータカ州バンガロール、ビジャプール
内 容：2013年度コスモニケタン学園運営打合せ

II. 国際交流事業

II. 国際交流事業

II-A. 人材交流・育成事業

1. 奨学金支援

各自の専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく寄与するとみなされる若手の人材育成資金（奨学金等）を支援。

●バングラデシュ

トエエモンラカイン 東京農工大学 1名

ネットワーク奨学金の対象者として、東京農工大学の博士課程最終年を迎え、コックスバザール県の少数民族ラカイン族の存続と地元の農業発展のために研究を行っているトエエモン・ラカイン氏の研究資金の一部を奨学した。博士課程を無事終了し、現在、日本と南アジア、バングラデシュを繋げる開発業務に専従している。

●フィリピン

ASI マニラ 2名

本年度は、フィリピンのアジア社会科学院（ASI）の国際社会開発夏期コース（2ヶ月間）に以下の2名のAFSメンバーの奨学を支援した。

- ローダ・アラムプロ（フィリピン）
- シャーリー・シシエル・パラザール（フィリピン）

AFS-UMD ソルソゴン州 4名

本年度は、フィリピンのパンパンガ州にあるメリー・アワ・ヘルプ女子技術研究所に 4名のAFS-UMDメンバーの奨学を支援した。職業訓練を行い就職につなげることができた。

2. 日本語教師派遣

日本語を通して日本への理解とアジアと日本とのつながりを深めることを目的として、日本語教師ボランティアの派遣を実施した。本年度は昨年フィリピンに派遣した中島和子氏を要請のあったインドネシア、バリ島のディアナプラ大学に派遣した。

日本語教師名	中島 和子
実施場所	インドネシア、バリ島、ディアナプラ大学
受入提携団体	Hosanna Foundation
実施期間	2012年8月から現在も継続中



東京農工大学奨学生 トエエモンラカイン氏



ディアナプラ大学での中島和子氏と授業の様子

II. 国際交流事業

II-B. ネットワーク推進事業

1. 国際会議

(1) アジア国際ネットワークセミナー

民衆の生活向上、特に、最貧困層の人々の基本的生存条件の確立に努力しているアジア各地の NGO との連携・交流を図るために毎年一回開催されているアジア国際ネットワークセミナー。本年度はタイ及びラオスにて開催された。

●第23回アジア国際ネットワークセミナー

日程 2012年11月6日～11月12日
事業地 国立メイジョー大学、チェンマイ、タイ
サイ・ソブーンホテル、ビエンチャン、ラオス
協力機関 国立メイジョー大学、タイ・アジア友の会 (TAFS)
ラオス・アジア友の会 (LAFS)

参加国・人数

日本 (4)、インド (11) インドネシア (2) カンボジア (1)、
中国 (1)、バングラデシュ (1) フィリピン (4) マレーシア
(1)、ミャンマー (1)、タイ (29)、ラオス (1)
合計 10か国 (56名)

事業内容 基調講演、パネルディスカッション、グループディス
カッション、全体会議、宣言文採択

基本テーマ 貧困なき一つなるアジア共同体を目指して
～アジアに理解と協力と連帯の輪をひろげよう～

今回テーマ グローバル時代における地域経済と
地域文化の共存をめぐる

基調講演 グローバル時代における地域経済と
地域文化の共存をめぐる

講演者 Dr. Uthai Dulyakasaem
地域経済・マネジメント専門
シラパコーン大学 元学長

第23回アジア国際ネットワークセミナー ビエンチャン宣言

2012年11月6日から12日、「グローバル時代における地域経済と地域文化の共存をめぐる」をテーマに、第23回アジア国際ネットワークセミナーは、メイジョー大学、ランパーン・アジア友の会 (AFS-Lampang)、タイ・アジア友の会 (TAFS)、ラオス・アジア友の会 (LAFS) の協力のもと、タイ・ラオスの二国間にて、10か国、56名の参加のもと開催することができた。限られた時間の中における議論のもと、我々参加者一同は、以下をアクションプランとして、第23回アジア国際ネットワークセミナーの宣言文を採択した。

1. グローバリゼーションとは、現実的に避けることのできない現象である。その中で私たちは、アジア独特の文化や価値に根付き、コミュニティを持続可能なものにしていきます。

2. 消費や物質を価値とする西洋社会が作ったグローバリゼーションには、多くの問題が起こる。しかしながら、私たち、アジア人は、同じような考え方で並列して動くのではなく、問題を解決していかなければならない。
3. コミュニティ（ここでは国の地方の意味）は、文化と自然との共存からなりたっている。私たちは、コミュニティを持続可能なものとするために、その主要資源である水、食料、空気、すなわち「自然」が生み出すものを守り、自然と私たちの生活のバランスを保ち、コミュニティを持続可能なものにしていきます。
4. 地方といっても多様であり、それぞれユニークな特徴を持っています。それぞれの特徴、強さ、可能性を最大限にグローバリゼーション社会の中で生かしていきます。
5. 地方の小中規模産業を、地域の資源を生かしながら成長させ、地域文化の中で生きよう奨励し、発展させていきます。
6. 企業の社会的責任を、コミュニティとのパートナーシップに生かします。
7. 地方の人々に地方自治を委譲し、地域において本当に必要されていることやアイデアを生かせる場所を気づき、コミュニティの活動を活性化させ、地方が自治していける体制を築いていきます。
8. コミュニティ内における組織や人々の声を生かせる活動を創造し、地域の活性化に生かします。
9. 商業主義の中で作られてきたものやサービスに依存することなく、コミュニティの中で生かされてきた資源を活用させ、奨励していくようにします。
10. グローバリゼーションの中においても、いまだに多くのアジア人は経済的な貧困化の中で生活を送っている。私たちは、彼らがより良き社会の中で生活を送れるように、支えていきます。
11. 上記の社会、文化、経済的価値を広め、経済的貧困層の人たちが、より良き社会の中で暮らし、若者たちが育っていけるように、私たちは AFS のアジアアカデミーの発展をサポートします。それぞれの国においてプログラムや戦略を組み、それぞれの人的資源を生かし、アジア・アカデミーを発展させていきます。
12. 毎年のネットワークセミナーには、地方からとれるハーブや薬草、ハンディクラフトを持ち合わせ、販売をしていきます。

本宣言文は、2012年11月12日、参加者56人の同意もと採択されました。これをビエンチャン宣言と致します。

その他のプログラム：フィールドスタディ／文化交流会

- A. メイジョー大学内のミズを生かした有機農場や漁業試験場の視察
- B. ランパーン県における象の訓練場の視察
- C. AFS ランパーンによるアジア・アカデミーの序幕式に参加
- D. ビエンチャン市内視察
- E. 文化交流会

II. 国際交流事業

(2) アジア・フレンドシップ夢基金

貧困なきアジア社会の実現を目指して発足したアジア草の根の自立・連帯基金、”アジア・フレンドシップ夢基金”は、2010年度から、本会が実際に支援している国々の人々から積極的に集められた。2012年度も、引き続き日本国外の人々からの基金が集められた。2012年4月から、インド（3地域）、フィリピン（2地域）から基金が集められた。現地側への返金分も充てられ、基金総計は、2,512,100円となった。実に基金が成長している。今後、更なる広まりが期待される。

(3) アジア・ユースサミット

事業名 第2.5回アジア・ユースサミット
事業地 インド、マハラシュトラ州ナグプール県
ガッチロリ県
兵庫県宍粟市、京都府綾部市（研修地）
事業期間 2012年4月1日 ～ 2012年10月30日
参加者数

●ナグプール・セッション

日本側参加者 4名（内高校生、大学生各1名）
中国側参加者 1名（高校生）
インド側参加者 28名（現地ボランティアを含む）

●アクションプラン（ナグプール・セッション）

インド、マハラシュトラ州ナグプール地区にて、インド、日本、中国を含め36名以上の参加者・ボランティアが集まり、アジア・ユースサミット2.5 ナグプール・セッションが開催された。本セッションにおいては、「様々な環境の中で生きる子どもたちのために」をテーマに、市内のスラムの子どもたちについて現場にて調査を行い、調査発表を行い、グループディスカッションを通して、本セッション参加者にて何が実践できるかを考え、それぞれのグループがアクションプランを発表した。発表されたアクションプランをもとに、本セッション参加者は、以下のアクションプランを「ナグプール宣言」として採択をした。

1. スラムの人々とともにスラムの協同組合型ビジネス実行委員会を立ち上げ、スラム協同組合ビジネスプランを作ります。
2. スラムから廃棄されたトタンやアルミ、プラスチックを再利用し、図書館を作り、全国各地からスラムの子どもたちに必要な教材を集め、教材として役立てる。
3. 正規の教育を受けていない人々のためにフリースクールを立ち上げる。
4. 2ヶ月に1回、スラムを訪問し、進捗状況などのチェックを必ず実施する。
5. 教材や教科書をリサイクルし、教材の必要な人に配布する。

最後に「私たちがともに行動すれば、社会を変えることができる」ことを私たちはここに宣言します。

●ガッチロリ・セッション

日本側参加者 4名（上記と同じ）
中国側参加者 1名（上記と同じ）
インド側参加者 28名（現地ボランティアを含む）

●アクションプラン（ガッチロリ・セッション）

インド、日本、中国を含め27名以上の参加者・ボランティアが2012年8月11日から16日の期間、インド、マハラシュトラ州ガッチロリ県にて集まり、第2.5回アジア・ユースサミット・ガッチロリ・セッションが開催された。本セッションにおいては、「様々な環境の中で生きる子どもたちのために」をテーマに、ガッチロリ県の農村の状況について現場にて調査を行い、調査発表を行い、グループディスカッションを通して、本セッション参加者にて何が実践できるかを考え、それぞれのグループがアクションプランを発表した。発表されたアクションプランをもとに、本セッション参加者は、以下のアクションプランを「ガッチロリ宣言」として採択をした。

1. ガッチロリ県の農村にて演劇やモブダンス、ドラマ、スキットなどを通して以下の事項の「Awareness Program」を実践します。

A. 教育について

- 歴史上の賢人（特に同じ民族出身）の考え方や思想を伝えます。
- 教育についてのクリップを使って伝えます。
- 道徳教育を実践します。
- 生きていくために欠かせない技術を伝えていきます。

B. 衛生と健康について

- 農村の人たちの生活に関連する政府や自治体が行っている医療関連の情報やスキームを伝えます。
- ワクチン接種に関する情報を伝えます。
- 栄養指導を行います。
- 村にて影響のある人（村のリーダーや霊媒師など）に対して、医療に対する正しい知識を村の人たちに伝えるように説得します（霊媒師による精神的な支えと医療とのギャップを埋める）
- 村にて簡易排水溝システムを紹介し、衛生環境の向上を行います。

C. 収入向上について

- SHG グループを作り、村における資本を貯蓄する活動に協力します。
- 農村の自然資源を活用した収入向上を広めます。

2. ユースキャンプを実践します。

A. 農村を訪問し、信頼されるまで、村の人たちの言葉に耳を傾け、相互に信頼されるように交流を続けます。

B. 農村の子どもたちの両親と交流を行い、以下のことを話合います。

- 男女平等について
- 精神的なプレッシャーについて
- どうすれば両親とよい関係を結べるのか

3. 将来の計画として、私たちは以下を考えます。

A. AYS ブランドの製品作りを行いたいと思います。

最後に以下を宣言します。「これらのアクションのためにしっかりと計画作りを行い、計画達成のためにしっかりと働きます」。

●兵庫県宍粟市研修 3名
●京都府綾部市研修 2名

（財団法人舞鶴文化教育財団助成事業）

II. 国際交流事業

2. 国際体験交流（スタディーツアー等）

アジアにおける本会海外プロジェクト視察やアジアの現状に対して、足を運び実感することを通じて、国際理解文化交流の場を広く人々に提供し、本会の活動事業への理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目的とする。本年度は4ヶ国に5回実施し、述べ35名が参加した。

中国新疆ウイグル自治区スタディーツアー（中国）

期 間：2012年6月28日～7月4日
場 所：ウルムチ、トルファン、カシュガル
参加者：5名
内 容：アナディアル病院支援、文化体験、交流、
世界遺産の見学

インド・日印友好学園スタディーツアー（インド）

期 間：2012年11月18日～11月27日
場 所：カルナータカ州ビジャプール、
マハラシュトラ州ガッチロリ
参加者：6名
内 容：コスモニケタン、パダトラ小学校訪問・会合、交流
H.G. クンパール氏慰霊

スリランカ・スタディーツアー（スリランカ）

期 間：2012年12月21日～12月29日
場 所：モラトワ、キャーガッラ、アンパーラ、
パッティカロア、シーギリヤ、コロンボ
参加者：5名
内 容：井戸プロジェクト、内戦犠牲者リハビリテーション
プログラム視察、シュラマダーナキャンプ参加、交流

第11回フィリピンパンダン国際交流親善ツアー（フィリピン）

期 間：2013年1月12日～1月15日
場 所：アンティーク州パンダン町
参加者：12名
内 容：パンダンパイプラインプロジェクト視察、パンダン
障がい者支援プロジェクト式典参加、交流

ネパール・スタディーツアー（ネパール）

期 間：2013年2月5日～2月14日
場 所：ノルパティ郡ピトゥリ村／バクタール郡スダール村 等
参加者：7名
内 容：ヤシャスビ学園里子訪問、井戸、バイオガスプロジェクト視察、ピトゥリ村・スダール村等プロジェクト視察、交流、自然遺産・世界遺産の見学



第23回アジア国際ネットワークセミナー参加者一同



AYS 2.5 ナグプールのスラムにおける調査の様子



フィリピン親善ツアーにてパンダン友好橋を渡る参加者



スリランカ・スタディーツアーの様子

III. 生活支援事業

III-A. 災害等罹災者支援事業

1. 災害等罹災者支援事業

●日本

JAFS 東日本大震災緊急支援事業

【宮城県本吉郡 南三陸町歌津地区】

2011年3月11日に発生した東日本大震災。マグニチュード9.0の巨大地震は、東北地方3県（岩手県・宮城県・福島県）ほか、全体で、死者1万5882人、行方不明者2,668人という甚大な被害をもたらした。関連死者数の2,303人をあわせると、総計20,853人の被害となっている。また、建物については全壊・半壊を加えると、39万8,462件に及んだ。

本会では、これまでの海外における災害支援活動の経験から、支援の手が届きにくいであろう、幹線道路・高速道路から離れており、主要漁港でないが、被害が甚大な沿岸部である宮城県本吉郡南三陸町を支援対象地と定め活動を開始した。

実際、南三陸町の被害は、被災地の中でも甚大であり、町の中心部が低地であったことから、壊滅状態に陥った。町民の約7%死者・行方不明者数となり、町の60%の家屋が半壊・全壊、町民1万7千人の内、避難者数は1万2千人に上っていた。

2011年度は緊急支援として、炊き出し、物資提供、各種プログラム開催、地域復興、情報提供を行ってきた。

2012年は緊急から復興支援活動に主軸を移し、地元食品加工場、地場産品ふれあい直売所の設営を通して経済活動、生産活動を促し、生活再生・経済再生によるコミュニティの再構築を目指した。

《受益者数》

南三陸町民、周辺住民 のべ8,000人

《支援活動内容》

①現地ニーズ調査

南三陸町歌津地区32ヶ所（17行政区・仮設住宅15ヶ所）5,030名対象に常時状況を確認しながら活動を実施した。

②情報提供『桜通信』発行

地域の情報を詳しく取り上げたコミュニティペーパー「桜通信」を発行。記事の取材、写真撮影、原稿写真撮影、原稿作成、紙面構成、印刷、配布といったすべての工程を、地域住民の協力を得ながら紙面づくりをしてきた。

2012年度は、隔週土曜日に各700部をvol. 39号までの計2,800部を発行（震災以降からは、総計発行部数16,040部）毎回、南三陸町内の地区、仮設住宅、店舗等の50ヶ所に配布、掲示、回覧を行い、情報が不足している多くの地域住民の方に最新の状況を伝えることができた。

※本会ホームページから閲覧可能

③加工場の建設・設営『石泉ふれあい味噌工房』

- ・建物面積：66.24m²（21.94坪）
- ・内 容：農産物加工品の製造
- ・製造物：味噌を中心として、漬物・塩麴・饅頭など農産物加工品
- ・利用方法：計 246世帯 14,844kg
（数値は、2013年3月までの味噌製造量と利用者数）

①販売用味噌製造

1920kg（内1200kgが熟成経て製品に）

②仕込み味噌の注文受注 200件 10260kg

③工房貸出し 46件 2664kg

④直売所の建設・設営『南三陸直売所 「みなさん館」』

- ・建物面積：168.93m²（51.19坪）
- ・内 容：飲食ブース、厨房、工房、販売スペース
（農産物の調理・販売、海産物の加工・調理・販売、集会、飲食スペース、地域情報の発信拠点）
- ・販売物：野菜や果物といった農産物、味噌や菓子などの加工品、生鮮魚や海藻類の海産物と加工品、花卉、惣菜、弁当、手芸品、復興グッズ等の販売
- ・出品加盟者数：67個人・団体（南三陸町、石巻市、登米市）
- ・利用者数：2013年2月末まで のべ5980名
（主に、南三陸町民／ボランティア関連／建設業者関連）
- ・運営形態
みなさん館役員会 開催（週1回）
みなさん館出品者会議 開催（月1回）
夢未来南三陸運営委員会 開催（月1回）

・販売促進活動

イベント開催（軽トラ市、初売り市、花の軽トラ市、みなさん館青空市）
カタログ作成
ネット通販
ポイントカード
スタディツアー受け入れ

⑤子ども会支援プログラム

宮城県では、地区の部落ごとに小・中学生とその親で子ども会が組織されており、情報交換やプログラムを行っている。その中でも一番のメインイベントは「親子旅行」である。震災以降、活動が滞っていた歌津地区港の子ども会を支援するため、下記プログラムを行った

- ・期 間：2012年10月6日～10月8日（2泊3日）
- ・対 象：21組の小・中学生とその家族43名
- ・内 容：東京観光バスツアー、ゲーム抽選、交流会等

III. 生活支援事業

《現 状》

復興の兆しが見えたとはいえ、南三陸町では、いまだ多数の人が職場や仕事、自宅作業場、加工場などを失ったままの状態が続き、収入源確保が急がれている。必要とされていたのは、一時的な支援でなく、生活再建に向かうための経済活動、生産活動が実践できる場を支援することであった。

そのため、本会は、被害が甚大であった宮城県本吉郡南三陸町歌津地区において、売るものを作り出す場＝農産物の加工施設「石泉ふれあい味噌工房」と、売る場＝地場産品の直売所「南三陸直売所みなさん館」を設立した。

これは、地域全体の生産活動、経済活動を活発化させる仕組みをつくと同時に、地域の人たちがここで交流・対話し、コミュニティの再構築につながる場づくりでもある。

本会の海外でのプロジェクトと同様に、現地の志をもった人たちが中心となり、本会が調整協力をしながら運営組合・協議会をつくって管理運営を行っていく。地元南三陸町住民で運営できる組織体制づくりを行い、70の個人・団体が携わる夢未来南三陸協議会を作った。

2012年に入り、土地の問題や、建築費高騰、瓦礫撤去等に困難を極めるものの、町や地元各種産業団体、個人、業者との綿密な交渉を重ねて一つひとつ問題を解決しながら設営を進めてきた。

「石泉ふれあい味噌工房」では、4月のオープンから246世帯（約984名）からの利用があり、12トンを超える味噌を製造することができた。地元女性が中心に運営管理を行い、冬期は味噌の製造、それ以外の時期は漬物や菓子類を製造できるようになった。

「南三陸直売所みなさん館」では、厨房、工房、飲食ブース、直売ブース、包装室、事務室を設営し、67名の出品者が農産物・海産物・加工品等を出品、販売し、それぞれの毎日の収入源につながっている。工房では、一般住民に施設を貸出し、海産物・農産物の加工ができる施設としても利用頻度が高まっている。結果、町で唯一の地域共同の店舗となり、人が交流しコミュニティの再構築にも寄与し、オープン以来毎日多くの利用を得ている。地場産にこだわった新鮮で安全で安心な食品を提供していく『みなさん館』では、「南三陸のタカラ」がウリとなる。

本事業は、農業や漁業に従事する「生きがい」づくりや手作り味噌という東北の家庭には欠かせない「安心」を生み出すことにつながっている。

南三陸町においては、震災前まで様々な各種個人・産業団体が共通の目的のために共働する経験はしてこなかった。今回の直売所は共同店舗ということで、一人ひとりが「みなさん」のための店舗であることを意識して運営組織をつくっていった。出品者の集まりである直売部と厨房を利用して惣菜等加工を行う工房部に分け、直売部は全体会を計10回、そのコアメンバーの会議として計8回、工房部は計17回をかけて集い、課題と目的の共有、作業、勉強会の共有をこまめに行っていたことが、意識の統一につながることとなった。建設期間が延びた分、地域住民の意識を合わせ、きめ細やかな運営準備を行うことができた。

また、気仙沼保健所と粘り強く交渉し、書類を整え、飲食店営業①、そうざい製造業、菓子製造業、魚介類販売業、乳類販売業の許可を取ることができた。レンタル工房の形式は気仙沼保健所管轄では初めての試みであった。自宅作業場や加工場を流失した多くの被災者が利益を生むことができる画期的な事例となった。

夢未来南三陸協議会として、地域の行政、各種産業団体等を運営委員とし、活動内容について進捗状況等、情報共有をするために会議を重ねてきた。（計11回）

一方で、町民からの声として、行政への協力を求める機会を数度となく会議の中でもつが、具体的な動きとしての協力を得ることは非常に困難であった。瓦礫撤去や町の所有地の側溝の設置に関しては、町長への直接の訴えかけを行った。県の本吉農業改良普及センターからは、講習会や研修などの情報を多く得ることができた。

隔週で発行している情報紙を媒体として、地域の情報を収集し、また広く情報を還元することができた。情報が滞りがちな被災地で、地域の日常生活に密着した必要な情報を詳しく掲載し、伝達することができた。

今後は、将来的に自立した形で、今回の支援活動が現地に役立てられるように、登米市の「NPO 法人 故郷まちづくりナイン・タウン」と協力をしながら、南三陸町民を中心とした組織「夢未来南三陸」を立ち上げ、活動の中心を担える仕組みづくりをしている。

また、南三陸を訪れ復興スタディツアーを随時開催し、引き続き復興の現状を伝え、啓発活動につなげている。

（認定 NPO 法人ジャパン・プラットフォーム支援事業、その他、大勢の協力者の支援を受けて実施）

《現地の協力団体》

- ・夢未来南三陸協議会：みなさん館、味噌工房母体
- ・NPO法人故郷まちづくりナイン・タウン：運営協力
- ・南三陸町：協力、推薦
- ・南三陸農業協同組合：夢未来南三陸協議会運営委員
- ・宮城県漁協協同組合歌津支所
- ・夢未来南三陸協議会運営委員
- ・南三陸商工会：夢未来南三陸協議会運営委員
- ・一般社団法人南三陸観光協会
- ・夢未来南三陸協議会運営委員
- ・南三陸森林組合：夢未来南三陸協議会運営委員
- ・すばらしい歌津をつくる協議会
- ・夢未来南三陸協議会運営委員
- ・宮城県気仙沼地方振興事務所農林振興部
- ・本吉農業改良普及センター：協力
- ・産直市場 グリーンファーム：コンサルタント
- ・公益財団法人みやぎ産業振興機構：コンサルタント

《報道・掲載されたマスコミ一覧》

- ・NHK
- ・仙台放送
- ・東日本放送
- ・日本経済新聞
- ・朝日新聞
- ・三陸新報
- ・河北新報
- ・日本農業新聞
- ・農業協同組合新聞
- ・H@t FM
- ・情報紙 ぶらっと登米
- ・情報紙 ゆるる
- ・情報紙 産直新聞
- ・南三陸観光協会ニュースレター「南三陸」
- ・宮城県

III. 生活支援事業

《南三陸を訪れる復興支援スタディツアー》

震災の爪跡が残る南三陸町。みなさん館や味噌工房を訪れて、地元の方々とふれあい、地元のものを食べ、復興に向けて歩み出そうとしている状況また、震災当時の様子、活動内容をスタディツアーの形で伝えている。

2012 年度の開催実績

- ・2012 年 11 月 27 日～28 日
- ・2012 年 12 月 1 日～2 日
- ・2013 年 2 月 16 日～17 日
- ・2013 年 3 月 9 日～10 日

《東日本太平洋地域のデータおよび被災関係データ》

市町村名	人口総数	死者・行方不明者	対人口の割合 (%)	総住宅数	全半壊住宅棟数	対総住宅数の割合 (%)
岩手県	1,330,053	5,920	0.6	554,950	24,211	3.6
洋野町	17,910	0	0.0	6,650	26	0.4
野田村	4,632	38	0.8	1,611	479	29.7
普代村	3,088	1	0.0	1,116	.0	0.0
田野畑村	3,843	29	0.8	1,309	270	20.6
宮古市	59,442	527	0.8	25,010	4,675	18.7
山田町	18,625	755	4.1	7,950	3,167	39.8
大槌町	15,277	1,281	8.4	6,130	3,717	60.6
釜石市	39,578	1,046	2.6	18,420	3,648	19.8
大船渡市	40,738	424	1.0	16,580	3,629	21.9
陸前高田市	23,302	1,778	7.6	8,550	3,341	39.1
宮城県	2,347,975	14,395	0.6	1,013,900	78,839	7.8
気仙沼市	73,494	1,356	1.8	25,670	11,035	43.0
南三陸町	17,431	1,162	6.7	5,540	3,311	59.8
石巻市	160,704	3,735	2.3	64,870	33,378	51.5
女川町	10,051	915	9.1	3,852	3,270	84.9
東松島市	42,908	1,105	2.6	15,450	11,012	71.2
松島町	15,089	2	0.0	5,560	493	8.9
塩釜市	56,490	32	0.0	23,250	4,470	19.2

(「被災後を生きる 竹沢尚一郎著」
2012 年 6 月 3 日時点総務省統計局データ)



味噌工房にて味噌づくりに励む



みなさん館オープン時の様子



完成したみなさん館と出品者の人々



みなさん館にて農作物など収穫・販売する南三陸町民

IV. 普及啓発事業

IV. 普及啓発事業

IV-A. 地域広報活動事業

1. 本部活動

(1) JAFS チャリティーバザール

今年度も、恒例になっている春と秋の JAFS チャリティーバザールを JR 住道駅前北側のデッキ広場で開催した。大東市の市報を通じた広報により出店を通じて本会活動を知る良い機会となった。出店だけでなく、演奏会や伝統舞踊などの披露も定着化し、地域の方々の参加できるイベントとなってきた。

＜春のバザール＞

日 時：2012 年 4 月 29 日（祝）10：00～16：00
出店数：32 店 （58 ブース）

＜秋のバザール＞

日時：2012 年 10 月 14 日（日）10：00～16：00
出店数：32 店 （44 ブース）

(2) 国際理解教育講座

2002 年度 4 月よりスタートした「総合的な学習の時間 -国際理解-」。NGO が教育の場に入り、学校と相互理解・協力をはかりながら未来の人材を育てていく。今年度も NGO の役割や国際協力、環境保全の大切さを子どもたちに教室で直接伝えるべく、様々な国際理解教育活動を展開してきた。学校にとっては本会の国際理解教育講座が毎年の恒例化となりつつある。それぞれの市内に国際理解、関心が広がり、町ぐるみでの取り組みができることを期待する。子どもたち個々の魅力が社会で生きること（社会参加＝国際協力参加）へのきっかけづくりになることを目指す。

NGO 講師派遣 【のべ 13 か所、1,737 名】

6 月 5 日	登米市立石森小学校 (166 名) 「世界の水事情」
6 月 14 日	きのくに国際高等専修学校 (20 名) 「東日本大震災 復興支援の現場から」
6 月 21 日	大精教看護専門学校 文化人類学 国際理解授業 (40 名)
6 月 27 日	大精教看護専門学校 文化人類学 国際理解授業 (39 名)
7 月 5 日	大精教看護専門学校 文化人類学 国際理解授業 (40 名)
9 月 1 日	吹田市立豊一児童センター (30 名) 「東日本大震災 復興支援の現場から」
10 月 12 日	大阪経済大学地域政策学部 (20 名) 「国際交流とボランティアミニフォーラム」
10 月 24 日	BHN テレコム支援協議会講演 (100 名)
12 月 11 日	フィランソロピー・CSR リンクアップフォーラム (44 名)

「2012 年いち押し社会貢献事業例」

2013 年	堺市立大仙西小学校 (40 名)
1 月 31 日	キャリア教育「東日本大震災 復興支援の現場から」
2 月 20 日	追手門学院小学校 (160 名) 「世界の水とアジアの子どもたちの生活」
2 月 21 日	堺市立東三国ヶ丘小学校 (138 名) キャリア教育「アジアの子どもたちの生活と水」
2 月 22 日	西宮市立甲陵中学校 (900 名) 「井戸贈呈とフィリピンの水事情」

授業受け入れ 【4 校 39 名】

6 月 6 日	立命館大学経済学部 学生 6 名 国際理解講話
6 月 22 日	松原高等学校 (12 名+教員 1 名) 国際理解授業（「産業社会と人間」社会体験）
9 月 27 日	江津市立青陵中学校 (2 名) 国際理解授業（職場訪問学習）
12 月 6 日	大手前高等学校 (16 名+教員 2 名) 国際理解授業（集中セミナー）

セミナー他 【2 回 62 名】

2013 年	横浜キリスト福音教会 講演 (40 名)
2 月 23 日	「ミャンマー、カチン族の避難民の状況」
3 月 2 日	大阪高槻ワイズメンズクラブ (22 名) 内容：卓話「東日本大震災 ～南三陸の復興への歩み～」 於：たかつき京都ホテル

(3) インド文化センター講座

インド文化センターはインドの文化、思想の紹介を図り、日印間の相互理解と文化交流を促進し、インド文化愛好者相互の親睦を目的として 1987 年設立され、137 回の例会が行われたが、2003 年に閉会した。2005 年本会の国際理解・文化事業の一環として JAFS インド文化センターが新しく発足。インドのスペシャリストを講師に招き、インドの歴史、宗教思想、文化の多様性と奥行きを日本の方に楽しく親しく広く学べる場として、宗教、思想や芸術にくわえ、古代の占い、暦、天文学、数学、医学を取り上げている。

2012 年度は、永年インド文化センター所長として多くの人々にインド理解の為に多大なご尽力された古坂紘一先生に「インド文化センター名誉所長」の称号をお贈りすることとなり、授与お祝い会を開催した。

5 月 16 日 於：コヒヌール ハビス PLAZA 参加者 18 名

またシリーズ企画講座第 7 期として、講師に JAFS インド文化センター所長であり、東大寺財務執事の平岡昇修氏を講師にお迎

IV. 普及啓発事業

えし「極楽はどこにあるのか?～阿弥陀経から読み解く～」をテーマに合計7回の講座を行い、のべ88人の参加があった。

第1回講座	9月14日	参加者数	15名
第2回講座	9月28日	参加者数	16名
第3回講座	10月12日	参加者数	15名
第4回講座	10月26日	参加者数	15名
第5回講座	11月22日	参加者数	11名
第6回講座	11月30日	参加者数	16名

さらに特別講座として、『東大寺 平岡昇修師によるお水取りよもやま話』と題し、伝統行事として1262回目を迎える修二会について詳しくお話いただいた。講座と懇親会の二部構成とし、延べ26名の参加者があった。2月9日 於:ニューデリーキッチン

(4) アジア文化理解講座

国際協力を一般の人が身近に感じられる催しを通じて、国際交流・支援活動への参加につなげることを目的としている。

◆アジア家庭料理教室◆

2012年度はアジア13地域18回のアジア家庭料理教室を行い、延べ291名の参加を得た。

会場:クレオ大阪西 調理室

4月19日	フィリピン	参加者16名	講師:ビーナ ジードル 氏
5月17日、22日	ネパール	参加者27名	講師:天野 パダマ 氏
6月21日、26日	沖縄	参加者25名	講師:運天 優子 氏
7月24日	イラン	参加者20名	講師:ナスタラン スミ 氏
8月23日	中国新疆ウイグル自治区	参加者19名	講師:ジャミラ ウライム 氏
9月20日、25日	ベトナム	参加者30名	講師:ブイ タン ハン 氏
10月18日、23日	タイ	参加者28名	講師:水野 ブンルアン 氏
11月15日、27日	内モンゴル自治区	参加者22名	講師:劉偉 氏
12月4日	インドネシア	参加者16名	講師:シャフウイナ 氏
1月29日	香港	参加者19名	講師:謝 秀連 氏
2月21日、26日	韓国	参加者30名	講師:孫 君子 氏
3月2日	スリランカ	参加者16名	講師:池本 ニルミニ 氏
3月14日、26日	インド	参加者23名	講師:ナゼマ トラバリー 氏

(5) インターンシップ プログラム

大学生インターンシップ及び実習受入 [4校10名]

◆甲南女子大学 (3名)

「文学部多文化コミュニケーション学科ボランティア・インターンシップ体験演習Ⅲ」

6月21日～2月末の間で、60時間以上の実習を行った。今年度は、2名が「アジア里親の会」、1名が「ネパール支援栄養改善プロジェクト」とそれぞれにテーマを決め、それぞれのプロジェクトの支援者拡大や理解に役立つ資料作りや広報チラシを作成し、ボランティア体験実習を行った。

6月21日 インターン演習説明会

6月21～2月 実習期間

※内1名は海外留学の為に残り半時間分を来年度に持越し

◆神戸学院大学 (2名)

「総合リハビリテーション学部社会リハビリテーション学科 ヒューマンサービス実習」

8月21日～10月末の間で2名×168時間の実習をおこなった。事務所での事務作業の補佐及びネットワークセミナー、チャリティーイベント、地区活動においての実習をおこなった。

7月17日 実習オリエンテーション

8月21日～10月30日 実習期間

12月2日 実習報告会

◆大阪経済大学 (3名)

「経済学部「国際協力とボランティア」体験実習

後期「国際協力とボランティア」の体験学習の一環としてのボランティア実習受け入れを3名行う。

11月3日～20日の期間1名あたり24時間以上の実習を行い、国際ボランティア団体の活動を理解する実習。

JAFS事務局での事務補佐及び実習期間1回は地域での活動にも参加し、市民による国際協力団体の国内外における活動を実施。

10月12日 実習オリエンテーション

1月18日 「国際支援とボランティア」報告会参加

◆近畿大学 (2名)

I. 「総合社会学部 インターンシップ実習」

夏休み期間を利用した国際協力団体の活動を理解するために実施するインターンシップ実習。本来は原則4日間であるが、学生の希望によりテーマに基き、アジアの現地小学生のための環境紙芝居“地球と私たち”を作成。その後ネパールにて活用教材が完成。

II. 「総合社会学部 ボランティア実習」

同じく夏休み期間にNGO団体にてのボランティア体験実習。4日間事務局内にてボランティア活動を行い、NGOの国内活動に関して理解をする実習をおこなった。

(6) 国際協力ボランティア講座

◆JAFS 例会◆

海外プロジェクトを中心とした最新のJAFS活動を会員および市民に紹介する機会を設け、会員拡大につなげるという目的で2008年10月より開始、シリーズ企画として実施している。特に学生・社会人の参加をねらい、時間や雰囲気を設定、学校・会社帰りに気軽に参加でき

IV. 普及啓発事業

るように企画。2012年度は合計5回開催し、のべ74名の参加者に本会海外プロジェクトの現場の実情を伝えることができた。

- 第1回 5月8日 「バングラデシュ
参加者27名 農村の学校と取り組んだ紙芝居制作」
～安全な水と栄養改善の仕組み～
- 第2回 6月12日 「ネパールの垣根を越えた環境保全活動」
参加者13名
- 第3回 7月10日 「カンボジアの初等教育の普及と課題」
参加者17名
- 第4回 8月28日 「インドにおけるマイクロファイナンスと
参加者10名 その課題について」～研修報告～
- 第5回 10月9日 「南アジアにおける貧困と対策」
参加者7名 ～経済発展からみえる課題について～

◆ボランティアガイダンス◆

1) ユース対象

日時:2012年2月13日 12名参加

講師:阿部 武史(プロファシリテーター)

学生、20歳代～を対象にしたボランティアガイダンスを開催。

本会の海外支援活動とあわせて、具体的なプログラムとして「アジア・ユースサミット」「国際グリーンスカウト活動」「ワークキャンプ」の紹介を行い、参加を促した。

2) お母さん対象

「お母さんのためのボランティア ガイダンス」

日時:2013年3月21日(木)

参加者:お母さん4名 子ども3名

アジアのお菓子とお茶を食べながらお母さんたちが国際ボランティアを身近に感じ参加する一歩につながることを目的に実施。子どものいるお母さんたちなので当日キャンセル者もでたが、継続活動をしていく方向で決まり、2013年度よりは奇数月の第3金曜日に実施し、お誘いしながら集い、ママ友でつくるボランティア コミュニティー エリアとなるように進めていくこととなった。

3) シニア対象

高齢化社会が本格化する中で、高齢者が満足感をもって日々の生活を生き、尊厳をもって人生が送れることを願い、「シニア世代が元気に活躍できる環境づくり。」を趣旨として、美山町の自然のなかで、幻のベニバナヤマシャクヤク保存会の方の話を現地山の中で聞き、環境保全を考える同時に美山楽舎にて、ぞうすいの会“アジアの夕べ”を開きアジアを学ぶ。事によりボランティアを志すシニア世代が増えること目指して実施。

日時:2012年10月7日(日)

場所:京都府美山町大内地区

参加者:43名

(7) 関連プログラム／その他団体協力

◆(特活) 関西国際交流団体協議会

- 1) 加盟し、理事として理事会出席協力活動を行っている。
- 2) ワン・ワールドフェスティバル 2012
1993年より毎年大阪で開催、今年20回目を迎えた。関西のNGO、NPO、国際機関、企業などが参加し、国際協力・交流活動を幅広く

紹介するとともに、参加者が地球規模の課題に対して行動するきっかけの場となることを目的としている。本会は実行委員会の一員として、活動紹介展示、民族料理屋台、企画プログラムにて参加協力した。

期間:2013年2月2日(土)、3日(日)

場所:大阪国際交流センター

来場者:16,500名(2日間延べ人数)

主催:ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会

内容:

①NGO 活動紹介ブース

来場者を対象に活動紹介とワークキャンプ参加者、ボランティア募集の告知とアジアグッズの販売を行った。

②民族料理模擬店出店

JAFS ファミリーグループ(スリランカ・サルボダヤ支援会、Paon)が協力し、アジアの料理(担担麺、チャイ、ゴードンパロティ、アジア風から揚げ)を販売した。収益をアジアへの支援金にあてるとともに、食を通してアジアの理解を深めた。

③セミナー「NGOと企業のすまいるな連携」

本会スタッフ松井聡子がパネリストとして出演

◆(特活) 関西NGO協議会

- 1) 加盟し、監事として理事会に出席、協力活動を行っている。
- 2) ネットワークミーティング

第1回ネットワークミーティング

『人間の復興』とNGOの役割～カトリーナ台風と東日本大震災の経験から考える

日時 2013年3月7日(木) 15:00～18:30

場所 大阪市立大学大学院 梅田サテライト108教室

「人間の復興」の重要性についてのディスカッション

本会スタッフ横山浩平が講師として参加協力をおこなった

◆公益財団法人自治体国際化協会

アドバイザーとして協力活動を行っている

◆公益財団法人大阪府国際交流財団

評議員として協力活動を行っている

◆関西国際交流ボランティアネットワーク会議(KIV-NET)

加盟し、運営委員として協力活動を行っている。

◆国際協力NGOセンター(JANIC)

正会員として加盟し、協力活動を行っている。

◆認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)

NGO ユニット参加団体として加盟し、緊急支援時の協力関係を持っている。

◆ネパールNGOネットワーク(4N)

加盟し、協力活動を行っている。

◆近畿大学◆

前期授業の期間 週に1度1科目講義を受け持っている。

IV. 普及啓発事業

2. 地区活動

各地域の地区世話人を中心に、本会の活動、理念の普及を計ると共に、アジアに「理解と協力と連帯」の輪をひろげることを目指し、多岐にわたり地域活動が行われてきた。中には20年近く活動を継続している地域もあり、益々の広がりを見せている。

- 第1エリア：大阪府北部、兵庫県東部
- 第2エリア：大阪府東部
- 第3エリア：大阪市内
- 第4エリア：大阪府東南部
- 第5エリア：京都府、滋賀県
- 第6エリア：武庫川以西の兵庫県
- 第7エリア：奈良県、東大阪、八尾
- 第8エリア：大阪府西南部
- 第9エリア：和歌山県、西日本
- 第10エリア：東日本

(1) エリア世話人会・全体地区世話人会

◆エリア世話人会◆ 計11回実施 13名
定例会：毎月第3火曜日
各地区世話人の内より、エリア毎に委任されたエリア世話人(各エリア2～3名程度)で構成、エリア内の各地区世話人との情報交流、連絡調整を計り、事務局と地区のパイプ役をつとめる。また、地域活動における事務局事務(主として連絡、広報)を補佐を行なう。

◆全体地区世話人会◆ 年2回
前期
日程：4月21日(土)10:00～16:00
場所：肥後橋官報ビル4F
テーマ：『人から人へつながる友の輪
～これからの地区活動はもっと楽しくなる～』
参加者：37名
実行委員：第6、7エリア地区世話人

後期
日程：11月16日(金)～17日(土)
場所：長居ユースホステル
テーマ：『今こそJAFSごろを！～愛限りなくアジアへの絆を強く
日本再生のためのActionを！～』
参加者：31名
実行委員：第1、3エリア地区世話人

(2) 地区世話人一覧

※印 エリア世話人		
エリア	地区	氏名
1	尼崎	天野澄子※、黒谷侑子
	池田	石原基義
	高槻	島貫清司、内藤肇、西川龍夫、三阪パニダー

	豊中	川良幸子、豊田祥二
	箕面	平瀬勢丈、平手清、三雲孝
2	門真	友松千草
	四條畷	小浜喜代子、小柳二郎
	大東	東村小夜子
	寝屋川	笠谷正博※、菅原直樹、根津千枝子、畠山ひろみ、船曳正之、松山博子
	枚方	明見睦子、天野由紀代※、佐々木実、船戸康夫、虫明慧悟、吉田幸子
	守口	大野賢信、真田朱美、二野英子
3	大阪市	有馬純夫、塩尻昭枝、齊藤かおる、寺岡源司※、中島三栄子、福岡好嗣※
	河内長野	今井利子※
4	富田林	東野ゆかり
	藤井寺	森わか子
	松原	橋本末子※、六車勝三
	美原	田中千鶴子※、中嶋啓子
5	宇治	柿本良昭※、杉林則子、田中紀代三※、桜屋敷寛子
	亀岡	辻賢二
	京都市	大倉達也、菅 洋子
	野洲郡	深田陽一
	八幡	福川 肅
6	神戸・芦屋	井上登志子
	三田	芝野照久、堀 正之
	西宮	岡田 昂※、木崎義純、斎藤英美子、畠中美代子、平山隆史
	姫路	荒川鉄也、中尾和子、森 梢
7	生駒	青木美千代、山田いづみ※
	奈良	高以良泰治、野口明英
	東大阪	岡田 一、坂上やよひ※、南野紀美子
8	和泉	出原とよ
	泉大津	草加節男
	高石	佐藤満昭
	堺	幾谷真嬉子、久保幸子
9	新宮	奥田 勲、瀧野秀二、瀧野三重子、中西 洋
	田辺	小森茂之
	広島	宇田和博
	和歌山	長江佐和
10	東京	市来伴子、川崎隆二、広住道夫
	静岡沼津	佐野令二
	名古屋	清水三千夫
	瀬戸	壁谷桂子

(2013年3月31日現在/計89名)

(3) 第1エリア

【尼崎】(天野澄子、黒谷侑子【池田】石原基義【高槻】島貫清司、内藤肇、西川龍夫、三阪パニダー【豊中】川良幸子、豊田祥二、

IV. 普及啓発事業

【箕面】平瀬勢丈、平手清、三雲孝)

5月5日	中山寺子どもフェスティバル参加 アジア子ども絵画展示、綿菓子等販売 於：大本山 中山寺
7月8日	七夕まつり参加 8名 豊中市
10月24日	瀬田敦子チャリティーコンサート 宝塚市 大林寺
12月15日	JAFS The Party 参加 3名
2013年	第1エリア例会
1月11日	JAFS 会議室 6名
3月16日	豊中ぞうすいの会 豊中まちづくり会社 13名
3月27日	豊中地区会 豊中市 3名

(4) 第2エリア

【第2エリア合同】

2013年	第2エリア新年会
1月12日	於：枚方がんこ

<植林実行委員会 “JAFS 北河内 緑とふれあう会” >

(会長：佐々木実、副会長：笠谷正博、虫明慧悟、小笠原
会計：吉田幸子、書記：天野由紀代)

4月14日	農園作業(草取り、播種、ハーブの植え付け、防草シート張り)
4月28日	農園作業(畝作り、起耕、ジャガイモの間引き、あじさいの苗の移植、ラオス野菜播種)
5月12日	農園作業(インゲン豆播種、ジャガイモの畝作り、田んぼの草取り、カボチャ、メロン、ニラ、里芋の植え付け、遮光シート張り)
5月26日	農園作業(タマネギ収穫、ジャガイモ植付)
6月3日	“田植えに挑戦してみよう”、田植え、食事会
6月9日	農園作業(タマネギの収穫、田んぼのロープ外し、草取り、水やり)
6月10日	“御殿山神社を紫陽花で彩ろう”(紫陽花植樹、昼食)
6月23日	農園作業(サツマイモ植付、草取り、水やり、稲苗の植付)
7月7日	農園作業(ジャガイモの収穫)
7月28日	農園作業(サツマイモの草取り、水やり)、近藤農林会長から土作りと水について、秋野菜の作りかたなどの講義
8月11日	農園作業(ジャガイモ掘り、水やり、草取り)
8月25日	農園作業(草取り、水やり、秋野菜の種まき準備)
9月8日	農園作業(水やり、草取り、秋野菜播種)
9月22日	農園作業(畝作り、起耕、草取り、水やり)
10月13日	“稲刈り体験してみよう!”(稲刈り、簡単な食事)
10月27日	“芋掘り&収穫祭”(芋掘り、収穫祭食事)
11月10日	農園作業(残りの芋掘り、畝作り、起耕、草取り、水やり)
11月24日	農園作業(タマネギの植付900本、草取り、水やり)
12月8日	農園作業(水やり、草取り、稲木の片付け、畝起こ

12月22日	し、タマネギの追肥) 農園作業(タマネギ畑の草取り、稲木の植付、草取り、水やり)
1月26日	農園作業(密柑の木移植、土作り、草取り、水やり、冬野菜収穫(大根、里芋))
2月9日	農園作業(ジャガイモの畝作り、野菜の収穫(蕪、里芋、ネギ)、草取り、水やり)
2月23日	農園作業(ジャガイモの植付、草取り、水やり、ため池井戸掘り)
3月9日	農園作業(井戸の土入れ、春野菜用起耕、ハーブ床の起耕)
3月23日	農園作業(草取り、水やり、春野菜播種)、作業後、総会

【守口】(大野賢信、真田朱美、二野英子)

4月4日	守口支部例会(国際交流センター)
4月7日	守口緑化協会 桜まつり参加
4月22日	橋波商店街 FM 参加
4月29日	JAFS 住道チャリティーバザー参加
5月2日	守口支部例会(国際交流センター)
5月12日	守口市だんじり祭り 参加
5月13日	守口市だんじり祭り 参加
5月20日	守口市だんじり祭り 参加
5月28日	橋波商店街 100円市 参加
6月6日	守口支部例会(国際交流センター)
6月17日	橋波商店街 FM 参加
7月4日	守口支部例会(国際交流センター)
7月22日	橋波商店街 FM 参加
7月28日	橋波商店街 FM 参加
8月1日	守口支部例会(国際交流センター)
9月5日	橋波商店街 FM 参加
9月16日	橋波商店街 FM 参加
9月29日	橋波商店街 100円市 参加
10月3日	守口支部例会(国際交流センター)
10月14日	JAFS 住道チャリティーバザー参加
10月22日	地域秋祭り参加
10月28日	橋波商店街 FM 参加
11月4日	守口市市民祭り参加
11月18日	国際交流センター フェスティバル参加
11月25日	橋波商店街 FM 参加
12月5日	守口支部例会(国際交流センター)
12月9日	橋波商店街 FM 参加
12月23日	橋波商店街 FM 参加
2013年	守口支部例会(国際交流センター)
1月9日	1月9日
1月14日	チャリティー餅つき大会 開催
1月21日	橋波商店街 FM 参加
2月6日	守口支部例会(国際交流センター)
2月17日	橋波商店街 FM 参加
3月6日	守口支部例会
3月16日	事務所前 チャリティーバザー
3月17日	橋波商店街 FM 参加

【四条畷】(小柳二郎 小浜喜代子)

地区単独の活動が難しい状況であった。今後は積極的に合同プ

IV. 普及啓発事業

ログラムに参加し、活動の幅を広げていきたいと考えている。

2013年 第2エリア新年会 於：がんこ枚方
1月12日

【枚方】(吉田幸子、天野由紀代、船戸康夫、虫明慧悟、明見睦子、佐々木実)

6月2日 寝屋川多文化フェスタ協力参加
8月25日～26日 「枚方まつり」模擬店参加(JAFS ネパールへのかけ橋との共同) 於：岡東中央公園
9月2日 第27回ぞうすいの会
「私たちが守る地域 ネパール奨学生の環境の取り組みから見える今後」話：熱田典子
於：牧野生涯学習市民センター 15人参加
11月3日 寝屋川・枚方ウォーカーソン「寝屋川の歴史を歩く」
1月12日 第2エリア新年会
於：がんこ枚方
2月23日 枚方市民活動センター主催 寄付キャンペーン
参加 於：輝きプラザきらら
3月15日 第28回ぞうすいの会
「ネパールの文化と自然と農村と教育を知るスタディツアーに参加して」参加 49人
話 杉本 圭次郎さん 於：御殿山神社
※地区世話人会 7/10、8/22、9/10、1/12、3/13
※枚方NPO フェスタ(9/30)は台風のため中止

【寝屋川】(笠谷正博、畠山ひろみ、船曳正之、根津千枝子、松山博子)

4月14日 寝屋川地区世話人例会 於：市民活動センター
4月15日 第42回寝屋川ぞうすいの会、
「メコン川の流れと共に」～ラオススタディツアーで学んだこと～
話：菅原直樹・笠谷正博
5月12日 寝屋川地区世話人例会 於：市民活動センター
6月2日 第4回寝屋川多文化フェスタ 参加
於：寝屋川市立市民会館
6月30日 寝屋川地区例会 於：市民活動センター
7月29日 寝屋川地区例会 於：市民活動センター
8月11日 ねやがわピース2012 参加 於：本町公園
8月28日～ アジアの子ども絵画展
9月3日 於：ふれあい香里プラザ
9月15日 第43回寝屋川ぞうすいの会
「留学生が学んだ日本のアニメ」
話：誤思佳、於：にぎわい創造館
9月15日 寝屋川地区例会 於：市民活動センター
10月21日 寝屋川地区例会 於：市民活動センター
11月3日 寝屋川・枚方地区合同ウォーカーソン
於：寝屋川
「小さい秋、発見体験ウォーカーソン&芋掘り」
11月10日 市民活動センターふれあいフェスタ活動展示
於：市民活動センター
11月24日 寝屋川地区例会 於：市民活動センター
11月25日 ふらっとねやがわまつり活動展示

於：ふらっとねやがわ

2013年 第2エリア新年会 於：枚方がんこ

1月12日

1月20日 寝屋川地区例会 於：市民活動センター

2月27日 第44回寝屋川ぞうすいの会

於：秦公民館

「ネパールと私たち」ネパールを知る感じるスタディツアー報告 話：佐々木実、熱田典子

2月24日 ハッピーバルーンフェスティバル、

チャリティー模擬店参加 於：第5中学校

3月23日 寝屋川地区例会 於：寝屋農園

(5) 第3エリア

【大阪市】(有馬純夫、齊藤かおる、塩尻昭枝、寺岡源司、中島三栄子、福岡好嗣)

9月29日 まいど！大阪おもしろツアー 参加：29名
「おどろき 再発見！鶴橋のまち」
10月24日 瀬田敦子チャリティコンサート
於：モーツァルト サロン 参加：39名
10月27日 一般教養講座「アジアのお茶会」参加
於：南あわじ市三原市民センター
11月27日 グリーンベイ植林 於：堺第7-3区
参加：4名 (料理担当で参加)
12月1日 まいど！大阪おもしろツアー 参加：22名
「仏法を伝えに仙人のまちを歩く」
12月15日 JAFS the Party 参加
於：ドーンセンター
3月16日 まいど！大阪おもしろツアー 参加：30名
「住吉神社 1800年の歴史を訪ねて」
3月28日 御堂筋ふれあいパザー参加 参加：6名
29日 於：大阪ガスビル本社前
南三陸町への復興支援として参加

<定例会>

毎月第3木曜日に本会事務局にて定例会合を開催(合計11回)



第3エリア:大阪おもしろツアーの様子

IV. 普及啓発事業

(6) 第4エリア

【河内長野】(今井利子)

2013年 河内長野市ボランティアフェスティバル参加
2月24日 於：河内長野市立市民公益活動支援センター
“ボランティアフェスティバル”では、アジア子ども絵画の展示、および本会の最新の支援活動を展示 PR し、アジア雑貨のチャリティ販売を行った。

【松原】(橋本末子、森わか子)

JAFS 松原ブログ(田中愛子担当)は、「松原ぞうすいの会」を軸に、JAFS 松原の活動報告を逐次掲載。松原ボランティア連絡会(松原V連)に加盟。JAFS 活動の講師謝礼、会場提供の助成を受けた。

4月22日 松原ボランティア連絡会(松原V連)総会
5月1日 松原市小中学校校長会で「ぞうすいの会」紹介
「ぞうすいの会」ゲスト西田孝司氏と打合せ
5月19日 松原V連例会
JAFS 松原「ぞうすいの会」スタッフと打合せ
5月21日 「ぞうすいの会」西田孝司氏と古道撮影(1回目)
5月25日 ゲスト ダリア&プーリー 打合せ
5月27日 第60回 JAFS 松原ぞうすいの会 (参加59名)
ゲスト：ダリア アナビアン(イラン/イスラエル)
プーリー アナビアン(イラン)
於：松原総合福祉会館 2階・3階
6月2日 「ぞうすいの会」西田孝司氏と古道撮影(2回目)
6月12日 松原V連例会
7月6日 松原ワールドフェスタ会議
7月14日 松原V連例会
8月8日 「61回ぞうすいの会」スタッフ打合せ
8月18日 松原V連例会
9月8日 松原V連例会
9月11日 「61回ぞうすいの会」ゲスト打合せ
9月13日 松原ワールドフェスタ会議
10月16日 松原V連例会
10月23日 松原ワールドフェスタ スタッフ打合せ
10月24日 松原第三中学校フェスタ会議
10月27日 松原V連 男性ボランティア講座
11月4日 松原ワールドフェスタ
・パネル展、模擬店参加、民族衣装着付け、
11月13日 松原第三中学授業(フェスタに向けて)
11月17日 松原V連例会&男性ボランティア講座
11月18日 第三中学校区フェスタ
・フレンドサポート(里親)募金
・模擬店参加(揚げバナナ、チャイ、民芸品)
12月2日 松原V連祭り
・模擬店参加(ネパ橋グッズ、チャイ)、パネル展
2013年
1月16日 松原JC 新年互礼会
1月19日 第61回 JAFS 松原ぞうすいの会(参加30名)
ゲスト：西田孝司(松原市)
於：松原総合福祉会館 2階
2月8日 松原ワールドフェスタ会議
2月10日 松原市社会福祉45周年大会 10年継続受賞
2月16日 松原V連例会

3月10日 アジア・アフリカンナイト(MWF 実行委員会)
3月16日 松原V連例会
3月24日 第62回 JAFS 松原ぞうすいの会(参加30名)
ゲスト：熱田典子(JAFS)
於：松原総合福祉会館 2階

【美原】(中嶋啓子、田中千鶴子)

5月22日 地区懇親会および新入会員への説明会
11月3日 美原区民まつり準備
11月4日 美原区民まつり(旧美原おもろいデー)に参加
11月22日 美原区民まつり反省会および懇親会
12月22日 地区懇親会および忘年会
1月21日 地区懇親会および新年会
2月10日 地区懇親会および新入会員への説明

【富田林】(沖田文明)

富田林地区会「ラリグラス」では 2012 年度も各地のチャリティバザー参加やアルミ缶のリサイクル活動を中心に活動しました。これらの活動は、ネパールに学校を建設する為に地域の方々と共に取組んでいます。新年度は、4校目となる学校建設資金を貯めて寄付しようと計画しています。

4月29日 JAFS チャリティーバザール参加
5月5日 堺・さつき祭り(山之口商店街)参加
10月7日 津々山台公園「地域の輪祭り」にバザー参加
10月20日 堺まつり(山之口商店街)参加
2012年4月～ 山之口商店街ギャラリー夢庵にて手作り品のチャリティ販売
2012年4月～ 毎月28日滝谷不動尊縁日にリサイクルバザー
2013年3月 を開催

(7) 第5エリア

【京都・宇治・野洲】(大倉達也、菅洋子、柿木良昭、杉林則子、田中紀代三、辻賢二、福川肅、深田陽一)

5月8日 ぞうすいネットワーク相談会 於：洛西教会
5月11日 京都地区会 於：メルパルク京都
5月28日 京都地区会 於：メルパルク京都
6月25日 京都ぞうすいの会 相談会 於：京都教会
7月15日 京都ぞうすいの会 於：京都教会
『インドの水事情と教育支援』
お話 柏木道子氏 大倉達也氏 田中壽美子氏
8月6日 京都地区会 於：メルパルク京都
8月23日 美山ぞうすいの会相談会 於：美山町
9月30日 京都地区会 於：メルパルク京都
10月7日 ベニバナシャクヤク鑑賞会&美山ぞうすいの会
『アジアのお話 天野澄子さんアジアをあるく』
於：美山町、美山楽舎
10月30日 京都地区会 於：メルパルク京都
11月11日 京都チャリティパーティー 於：京都教会
『フィリピンの島の飲み水物語と日比友好』
パナイ島パンダン パイプライン〜

IV. 普及啓発事業

お話 辻賢二氏(元関電労組京都地区本部役員)
 12月16日 京都地区会&忘年会 於:がんこ三条本店
 3月3日 宇治地区会
 於:京大黄檗キャンパス ロビー
 3月25日 京都地区会 於:セカンドハウス

(8) 第6エリア

【西宮】(岡田昂、大木洋子、木崎義純、斉藤芙美子、畠中美代子、平山隆史)

4月28日 活動パネル展示とバザー出店
 於:西宮市中央教会 ふれあいマーケット
 6月10日 スタッフ会 6月ぞうすいの会準備打合せ
 於:西宮市中央公民館
 6月24日 ぞうすいの会ネパール編(24名)
 ゲストスピーカー ポカレル・キランさん
 於:西宮市中央公民館
 9月17日 スタッフ会 9月ぞうすいの会準備打合せ
 於:西宮市中央公民館
 9月23日 ぞうすいの会中国編(22名)
 ゲストスピーカー 曹 滬雪さん
 於:西宮市中央公民館
 10月23日 スタッフ会 次回企画及び2013年活動について
 於:西宮市中央公民館
 1月23日 スタッフ会 アジアンパーティー準備打合せ
 於:西宮市中央公民館
 2月17日 西宮国際交流デーに参加
 活動パネル展示、アジア民芸品販売
 於:西宮市国際交流協会
 3月3日 スタッフ会 アジアンパーティー準備打合せ
 於:西宮市中央公民館
 3月17日 Asian Party in 西宮 2013 (30名)
 於:西宮市中央公民館
 3月23日 フィリピンに井戸寄贈 完成報告受領

【神戸・芦屋】(井上登志子)

5月27日 「ウォーカソン」
 於:神戸、清盛の足跡を歩こう
 9月25日 KAFS(カンボジア・アジア協会アジア友の会)メン
 パーとの交流会(神戸)
 10月29日 「神戸グローバルチャリティーフェスティバル」物販
 参加 於:聖ミカエル国際学校(中央区)
 2013年 神戸・芦屋地区懇談会
 3月19日 於:「シャンティ」インドレストラン(芦屋市)

【姫路】(森 梢、荒川鉄也、中尾和子)

定例会:毎月第1木曜日 19:00~
 場所:イーグル姫路 ボランティア活動室
 4月 月例ミーティング
 於:イーグル姫路
 5月 月例ミーティング
 於:イーグル姫路

6月 月例ミーティング
 於:イーグル姫路
 7月 月例ミーティング
 於:イーグル姫路
 8月2日 月例ミーティング
 アジア料理の会(モンゴル・シシカバブ)
 於:イーグル姫路・調理室
 9月4日 月例ミーティング
 於:イーグル姫路
 10月4日 月例ミーティング
 28日 於:イーグル姫路
 姫路国際交流フェスティバル
 於:大手前後援特設会場
 11月3日 ウォーカソン
 於:たつの市御津町周辺
 8日 月例ミーティング
 於:イーグル姫路
 12月7日 月例ミーティング
 於:イーグル姫路
 1月7日 月例ミーティング
 於:イーグル姫路
 2月7日 月例ミーティング
 於:イーグル姫路
 3月3日 国際交流スプリングフェスティバル
 於:イーグル姫路
 14日 月例ミーティング
 於:イーグル姫路

(9) 第7エリア

【奈良・生駒・大和郡山】(青木美千代、一瀬由起子、金剛一智、高以良泰治、野口明英、矢野恵美子、山田いづみ、山田穂積、和田達生、渡邊瑠璃子)

4月7日 奈良地区4月例会
 於:奈良市中部公民館
 5月26日 奈良地区5月例会
 於:山田会員宅
 6月23日 奈良地区6月例会
 於:新大宮
 7月21日 奈良地区7月例会
 於:新大宮
 8月20日 生駒ぞうすいの会『JAFS 活動について』
 お話 山田穂積氏(JAFS 会員)
 於:軽井沢会館
 8月24日 奈良地区8月例会
 於:奈良中部公民館
 9月22日 『稔の秋に祈りを込めて』
 案山子ウォーカソン&ぞうすいの会
 お話 野口明英氏(JAFS 会員)
 於:木津川市加茂町
 9月24日 アジア屋台フェスティバル 地域広報
 於:高の原近隣
 10月14日 アジア屋台フェスティバル

IV. 普及啓発事業

	インド、インドネシア、中国内モンゴル自治区、日本、ベトナム、中国新疆ウイグル自治区 出展 於：ならやまコミュニティスポーツセンター
11月8日	里芋掘り&ぞうすいの会 於：大和高田
12月16日	奈良地区12月例会 於：奈良中部公民館
1月28日	奈良地区1月例会 於：奈良中部公民館
2月11日	竹送りウォーカソン 於：京田辺市及び奈良市 奈良ぞうすいの会 『水は生命を救う！ ～34年間アジアに井戸を送る活動を通じて』 お話 村上公彦氏 (JAFS 専務理事兼事務局長) 於：今小路会館
3月1日	奈良地区3月例会 於：奈良中部公民館

【東大阪】(岡田一、坂上やよひ、南野紀美子)

5月13日	東大阪ふれあい祭り出店 於：近鉄大阪線河内小阪付近
11月3日	東大阪国際交流フェスティバル 於：三ノ瀬公園

(10) 第8エリア

【和泉市・堺市・高石市・泉大津市】(出原とよ、幾谷真嬉子、久保幸子、佐藤満昭、草加節男)

5月5日	さつきまつり 参加 於：山之口商店街
6月3日	和泉ワールドフェスティバル 参加 於：和泉市役所前
7月14日	東日本大震災被災者支援 チャリティギター演奏会 出演：田口吉三氏他 於：堺市東文化会館
9月2日	第8エリア打ち合わせ会 於：堺市立国際交流プラザ5F
10月14日	瀬田敦子ピアノリサイタル 於：はっぴいえんど
10月21日	堺まつり 出店 於：山之口商店街(堺市)
12月12日	第8エリア会 於：ビック・アイ
1月2日 3日	家原寺 街頭募金活動 応援 於：家原寺

(11) 第9、10エリア

【東京】(岩田芳晴、高岸泰子、長谷川雅子、雨宮義人、端無勝、菊池美智子、田中政直、牧三晴、小島学、品川壮、川崎隆二、佐藤理香、森山涼子、石田雅昭、原 京)

5月26日	「第一次南極越冬隊長 西堀栄三郎がのこしたものと題し、西堀峯夫氏宅にて講演、お茶会を開催。NPO熊野応援団のメンバーもご参加いただいた。 参加者：40名
5月26日	第1回委員会開催 今後の関東地区での活動内容、方針を協議、決定。
6月30日	第2回委員会 5月事業の検証と7、9月事業の協議
7月28日	ウォーカソン「峡山丘陵の自然とトトロの森をたずねて」 埼玉県所沢市にて首都圏では希少な里山と東京都民の水がめ峡山湖をたずねました。 参加者：29名
7月28日	第3回委員会 7月事業の検証と9月事業の協議
9月1日	チャリティーパーティー JAFS 事務局より横山氏をお招きし、東京練馬区にて活動報告会をおこないました。 メンバーが食材を持ち寄り全員で調理準備をし、楽しい食事が行われた。 参加者：16名
9月1日	第4回委員会 9月事業(チャリティーパーティー)の検証と、9、10月事業の協議
9月15日～ 17日	第5回小谷村ワークキャンプ 協働学舎のメンバーと共に、稲刈りを中心に畑仕事のお手伝いを行いました。 女性参加者は藍染めを体験。 自給自足の生活から多くの学びを得た。 参加者：15名
10月6日～ 7日	グローバルフェスタJAPAN2012 昨年好評だったベトナムラーメン「ブンソオン」と今回初挑戦の世界のビールを販売 天候に恵まれていなかったが、過去最高の売り上げを達成。 参加者：15名
11月9日	第5回委員会 9月事業(ワークキャンプ)10月事業の検証と12月事業の協議。 2013年度の支援対象事業を協議開始
12月9日	ウォーカソン「紅葉に染まる古都鎌倉ハイキング」 神奈川県鎌倉市にある由緒ある寺院、旧跡を巡る。紅葉を楽しみながらのハイキング 参加者：14名
2013年 2月9日	2013年第1回委員会 ・2013年度支援対象事業をミャンマーカチン州子供村建設に決定 ・協議内容。

IV. 普及啓発事業

	年間スケジュール 学生団体オーケストラつむぐとの協力関係。 ・2月23日牧野氏講演会とチャリティーコンサート ・3月事業
2月23日	「牧野氏講演会とチャリティーコンサート」 場所：横浜キリスト福音教会 JAFS 関東初の主催にて講演会とチャリティーコンサートを開催 コンサートはオーケストラつむぐ様との協力関係構築のため依頼 参加者：40名
3月23日	オーケストラつむぐチャリティーコンサート 展示ブースにて広報活動 コンサート休憩時間に本会活動の紹介PRを行う。今後のオーケストラつむぐとの関係構築にも寄与 コンサート来場者：400名 JAFS委員会メンバー：8名

【多摩】（広住道夫）

2013年 JAFS 入会案内のチラシ設置及び広報
2月17日 （来場者 320名）
於：由木東市民センター祭りにて

3. 広報

（1）アジアネット

本年度は、東日本大震災の復興支援活動を中心に、本会の海外及び国内の活動を報告することができた。

公益社団法人の認可を受けたことを紙面上で紹介し、周知を行った。

またこの度より、アジアネットを会員や、支援者だけでなく、大阪市内24区の区役所の国際交流課や総務課等に郵送し、本会の活動について情報提供した。

《アジアネット発行実績：各号 5,500部》

110号 2012年4月

111号 2012年8月

112号 2012年11月

113号 2013年3月

◆110号主要記事

特集 JAFSは公益社団法人に

- ・ 巻頭言「アジアと日本」 -人を育てる-
- ・ 井戸が出来るまで in Laos
- ・ 東日本復興支援 明日に架ける橋
- ・ 「リトルガンジー」 of Sri Lanka
- ・ Water Smile Project 紙芝居作成報告
- ・ インド、ナガ族のパイプライン完成
- ・ 少数民族ラカイン族の存続をかけて

- ・ アジアのネットワーク通信
- ・ 寄贈井戸報告
- ・ 里子の笑顔
- ・ アジアの友から編集後記

◆111号主要記事

特集 2012年度海外プロジェクト

- ・ 巻頭言「最近のカンボジア事情」
- ・ 逆境に生きる～インド少数民族・不可触民と呼ばれた子たち
- ・ 2012年度海外プロジェクト
- ・ 2011年度海外プロジェクト報告
- ・ アジアのネットワーク通信
- ・ 寄贈井戸報告
- ・ 2012年度社員総会報告
- ・ 里子の笑顔
- ・ 新入会員ご紹介

◆112号主要記事

特集 復興の旗印となる！

「南三陸直売所みなさん館」OPEN

- ・ 巻頭言「水は“平和”を築く一歩」
- ・ 台風の被害を乗り越えて
～土と水と緑の学校の復活劇～
- ・ The 社会貢献 Vol.1
- ・ 第2.5回アジア・ユースサミット報告
- ・ 西ティモールからのたより
- ・ 復興の旗印になる！
みんな笑顔の南三陸直売所
みなさん館 OPEN！
- ・ アジアのネットワーク通信
- ・ 新入会員ご紹介
- ・ 里子の笑顔
- ・ アジアの友から 編集後記

◆113号主要記事

特集 地域経済と地域文化の共存をめぐる

- ・ 巻頭言 「自然に生きる」
- ・ 村に救急車がやってきた
- ・ 日印友好学園コスモニケタン報告
- ・ 第23回アジア国際ネットワークセミナー報告
- ・ 地域経済と地域文化の共存をめぐる
- ・ The 社会貢献 Vol.2
- ・ フィリピンのわらしべ長者
- ・ アジアのネットワーク通信
- ・ 寄贈井戸報告
- ・ 新入会員ご紹介
- ・ 里子の笑顔
- ・ 海外ツアー、研修生案内
- ・ アジアの友から、編集後記

（2）JAFS プラザ

本年はJAFS 会員プラザをJAFS プラザと改め、一般協力者の活動も紹介し、公益社団法人としての全国的に幅広い国内活動の

IV. 普及啓発事業

報告を届けることができた。また今後、会員の日頃のボランティア活動を通して、地域の情報紙としての役割を果たしていく。

《発行実績:各号 2,500 部》

- ・30号:2012年4月
- ・31号:2012年8月
- ・32号:2012年11月
- ・33号:2012年3月

(3) ホームページ/ブログ/メールマガジン

本年度は、本会の HP ウェブ専門家に依頼し、1ヶ月間の現状解析を実施した。その結果に基づき、より寄付金や入会者が集まる魅力的な HP と作り変えるべく、検討会議が開かれた。新年度は、HP リニューアルをし、そのうえで、人を呼び込むことのできる動的なHPとなる仕掛けをしていく年となる。

＜フェイスブック＞ <http://www.facebook.com/JAFS.NGO>

公式に開設し、発信しはじめている。

＜ツイッター＞

今後、その他のウェブツールとあわせて活用していく。

＜ブログ＞ <http://jafs.chicappa.jp/blog/>

2012年度は23回記事を掲載した。

＜メールマガジン＞

合計23回発行 登録読者数:583名

4. プロジェクト支援(支援会・ファミリーグループ)

(1) ぞうすいの会

(山崎桃、澤村和子、坂本由子)

「ぞうすいの会」の「ぞうすい」は、「雑炊」「増水」「贈水」の意味をかねている。質素な雑炊をとることで自分たちの過食や健康をみなおすとともに、「ぞうすいの会」への参加費を積み立てて、アジアの人々に井戸などを贈り、衛生的な水の供給を行ってきた。

毎月1回(年間12回)開催で、アジア協会アジア友の会事務局から各国でのプロジェクトについての現状を聞きながら、季節の香り高い雑炊を頂いている。

2012年9月には、300回の「ぞうすいの会」を迎えた。毎日新聞社がこのことを記事として大きくとりあげ、その反響で「ぞうすいの会」への参加者が増加した。また、「JAFS」へも4名の新入会者があった。継続することの大切さをあらためて実感でき、今後も、会員のみならずの深いご理解と温かいご支援を得ながら、活動を続けていきたい。

- 296回 4月10日 「カンボジアの支援現場から」
横山 浩平 16名参加
- 297回 5月8日 「JAFSの新紹介ビデオの一例」
青木 洋介 12名参加
- 298回 6月5日 「ネパール・水道パイプライン建設ワーク」
熱田 典子 12名参加
- 299回 7月10日 「ベトナムの文化と生活」
グエン・トラン・ヴァ・トゥイ 19名参加

- 300回 9月4日 「土と水と緑の学校を終えて」
合田 友美 14名参加
- 301回 10月9日 「300回のぞうすいの会を重ねて」
村上 公彦 25名参加
- 302回 11月6日 「南三陸町直売所みなさん館のオープン」
松井 聡子 17名参加
- 303回 12月4日 「インド コスモニケタン学園の今」
田中 壽美子 16名参加
- 304回 1月8日 「ネパールの子どもたちとの環境活動」
熱田 典子 15名参加
- 305回 2月5日 「スリランカスタディツアーに参加して」
齊藤かおる、深井正博、岡本佳子
16名参加
- 306回 3月5日 「ミャンマーでの支援活動の今」
横山 浩平 17名参加



JAFS ぞうすいの会 300 回記念(毎日新聞掲載)

(2) お母さんの地球学校

(代表 小原純子)

1984年、JAFS 主催の「地球資源を考える読書会」に参加した母親が中心に、終了後も地球規模で考え勉強しようと、「国際婦人年10年」の最後の年の1985年5月12日の母の日に発足。危機状況にある自然の現状を知り、「土」「水」「緑」「人」を軸に、地球総合環境問題について、専門の研究者の講演を聞き、時にアジア各国の「お母さん」をお招きして、自然生態系の中でのバランスの取れた人間社会のありかたを学習。自然と人間が調和していく心を地球市民レベルで見つめて、次世代に伝えたいと希望。1996年1月28日には、同名タイトルの本『お母さんの地球学校』を発行。「お母さんの地球学校」主催の「緑のリサイクル運動」(牛乳パックの回収)は1985年の発足時より現在も続行中。

毎月第1か第3の木曜日午前10時半から12時半、JAFSにて開催。年令・性別問わず受講可。

※講師の都合により一時休講中。

IV. 普及啓発事業

(3) アジア井戸ばたサロン

(代表 山崎桃)

1990年「WINA2000」アジア国際女性会議参加を機に開催された。これを機にアジアの女性の地位向上に寄与するという目的で「アジア井戸ばたサロン」の活動をはじめた。今年度で総援助額は260万円をこえた。

小さな力でも積み重ねると大きな成果を生み出すということを含め言葉に、活動をつづけている。サロンに集まるメンバーも充実し、本年度も一歩一歩着実に歩み、手作り工芸品の製作など、おおいに成果をあげている。作品の種類や点数も増加したので、各種イベントなどでの利用を願っている所である。

目的達成のために1992年4月に設立された「水がめ基金」から、本年度も、「JAFS里親の会」に昨年と同様に10万円を支援した。〈活動〉

- ペーパークラフトを主に手作り工芸品の製作
(箸袋、季節のカード、香袋など)
毎週火曜日午後1時～3時
- 各種文化交流会
 - 1 2012年6月12日
 - ・見学会：藤城清治展～「光と影のファンタジー」
(奈良県立美術館)
 - 2 2013年3月9日
 - ・見学会：田中一光デザインの世界 (奈良県立美術館)
 - ・見学会：奈良親子レスパイトチャリティ展
～奈良在住作家作品展 (奈良親子レスパイトハウス)

(4) JAFS ハルハロ・Fランチ

(橋本末子、天野澄子、原のりこ)

発展途上国における子どもの教育の大切さに着目して1992年9月に発足。今年度2012年10月12日にハルハロ発足20周年記念行事を行い、記念誌を発行。20周年記念チャリティ事業として、インドコスモニケタンにスクールバス寄贈。

現在はネパール、インド、フィリピンの3ヶ所の支援をしている。主活動の「Fランチ」は月2回(第2・4)金曜日に開催。料理とゲストの講話から形成され、参加費1000円から食材費などを差し引いた差額を支援に当てている。

支援先

- ◆ラリット福祉センター (ネパール、パタン市)
両親がいない、片親である、あるいは家庭が非常に貧しいなどの理由で就学できない家庭の親子を面接して、困難な状況にある家庭の子どもを優先的に学校へ受け入れ、教科学習の他、健康チェックも行っているセンター。1988年に設立され、現在の生徒数は幼稚園児～8年生まで合計203人。ハルハロは1993年以来、教師2人の給料支援を継続的に行ってきたが、本年は、現地物価の上昇とハルハロ「Fランチ」活動の縮小で教師1人の給料支援となった。現地報告は9月14日「Fランチ」においてハリ・シュレスタ氏より受けた。教育内容の向上が見られた。
- ◆日印友好学園コスモニケタン プライマリースクール
(インド カルナータカ州)
1998年より学校支援開始。2002年より毎年JAFSアジア里親

の会の里子6人の支援を継続。本年は10月12日の20周年記念日に本会理事の富松英二氏より学校現状報告を受けた。里子の卒業や転居、退学で3人の子どもの支援となる。

◆フィリピン・マニラ ストリートチルドレン支援

JAFS ストリートチルドレン自立支援プロジェクト。2004年12月より支援開始。マニラ国鉄線路沿いスラム街に住んでいる子ども達(約100人)のための教育支援プログラム。2008年4月からJAFSアジア里親の会の里子6人の支援開始。現在、家族はマニラから車で3時間くらいのラグナ湖のほとりのパリパランに移転。3年生2人、4年生2人、5年生2人を支援している。

活動

- ①主活動「Fランチ」。
第24金曜日ランチタイムに、国内外からのゲストの話(生活文化、環境問題、その他)を聞き、国際協力に不可欠な異文化理解を学びながら、スタッフ手作りの昼食を楽しむ。
2013年度から「Fランチ」は月1回の活動となる。
- ②10月12日ハルハロ20周年記念 記念誌発行
- ③10月28日(日)神戸グローバルチャリティフェスティバル(KGCF)に参加
- ④12月15日(土)
大東市北条人権文化センター主催Xmasパーティ企画
ゲスト：ダリア アナビアン、プーリ アナビアン(イラン/イスラエル)

2012年度ハルハロ・Fランチ ゲスト

- ・日本語で記載(日本語でのお話)
- ・英語で記載(英語でのお話)

回数	日にち	〈ゲスト氏名(国・所属)〉
838回	4月13日	.Norm Boniface (Australia)
839回	27日	リングホーファー・マンフレッド(オーストラリア)
840回	5月11日	ア)
841回	25日	吉田幸子、天野澄子(JAFS 会員)
842回	6月8日	Norm Boniface (Australia)
843回	22日	トエエモン・ラカイン(バングラデシュ)
844回	7月13日	タン・アルビン・タピア(フィリピン)
845回	27日	Vicente Santiago(Spain/Mexico/Poland)
846回	9月14日	ジャミラ ウライム&ウイグルスタディツアー
847回	28日	参加者
848回	10月12日	ハリ シュレスタ(ネパール・支援先報告) 山竹継男(JAFS グリーンスカウト代表) ハルハロ20周年記念 富松英二(コスモニケタン報告) ジャミラ
849回	26日	ハルハロスタッフ(20周年の歩み)
850回	11月9日	池本ミルミニ(スリランカ)
851回	30日	伊藤 マーティン 将仁(デンマーク)
852回	12月7日	Randall Bolling (USA/Colorado)
853回	21日	村上公彦(JAFS専務理事&事務局長 FランチチャリティXmasパーティ “コスモニケタンにスクールバスのプレゼントを!” ハイメロベス、山口公子、東啓子
854回	2013年 1月11日	

IV. 普及啓発事業

855 回	25 日	Fランチ新年会 萩尾千里 (JAFS会長)
856 回	2 月 8 日	吉田俊朗 (JAFS理事) 松井聡子 (JAFS スタッ フ)
857 回	22 日	インド・コスモニケタン スクールバス贈呈式
858 回	3 月 8 日	柏木道子 (JAFS理事)
859 回	22 日	ロマン ドゥサンズ (スペイン・バレンシア) 小吹岳志 (フェアトレード・サマサマ) 金晶晶 (中国・内モンゴル自治区) アングリーナ辰巳 (セルビア)

(5) アジア国際夏期学校 (AISS)

(代表 河村蒼)

小学生から大人までを対象にした海外ワークキャンプ、アジア国際夏期学校 (Asia International Summer School : AISS) の参加者が帰国後も、国内で自主活動が続いている。ワークキャンプの企画や準備をその年のワーク参加者とともにに行い、毎年インドの日印友好学園コスモニケタンスクールへ送り出している、JAFS 唯一の小学生から参加できる海外ワークキャンプであり、現在国内活動の参加メンバーも中学生から社会人まで幅広い。2012 年 9 月 22 日に逝去されたクンパール氏の記念式典に出席 (田中) 花輪、写真などを贈った。

(6) スリランカ・サルボダヤ友の会

(代表 鈴木誠也)

スリランカ現地提携団体である NGO「サルボダヤ」との絆を深め、サルボダヤ運動の根幹となる部門 CCBU (Community Capacity Building Unit) が行う農村開発運動への支援の輪を広めていくことを目標として活動している。

スリランカに関するプログラム (講座や文化交流等) を企画開催し、スリランカの歴史・文化・環境・生物の多様性等を楽しみながら学んでいく内容とした。一人でも多くの方にスリランカを身近な国と感じ、日本とは異なる文化を持つこの国への理解を深めることで、CCBU の活動への理解・支援の輪の発展を目指す。

4 月 25 日	例会	於:JAFS 会議室
4 月 29 日	春の JAFS 住道バザー 参加	於:大東市
5 月 13 日	東大阪ふれあいまつり 模擬店参加	於:河内小阪駅近く
6 月 11 日	例会	於:JAFS 会議室
7 月 30 日	例会	於:JAFS 会議室
9 月 2 日、 8 日、9 日	泉大津イベント 模擬店参加	於:泉大津フェニックス
10 月 1 日	例会	於:JAFS 会議室
10 月 14 日	秋の JAFS 住道バザー 参加	於:大東市
10 月 15 日、 21 日	水都イベント 模擬店参加	於:中之島公会堂前
11 月 10 日	第 14 回スリランカ講座 『東洋の真珠 スリランカの魅力 ～スリランカの人々の暮らしと文化～』	

		講師:池本ニルミニ氏 於:JAFS 会議室
12 月 15 日	JAFS THE PARTY 模擬店参加	於:ドーンセンター
2 月 2 日、 3 日	ワンワールドフェスティバル 模擬店参加	於:大阪国際交流センター
2 月 15 日	例会 スタディツアー報告	於:JAFS 会議室
3 月 2 日	第 15 回スリランカ講座『スリランカ料理教室』	講師:池本ニルミニ氏 於:クレオ大阪西
3 月 2 日	例会	於:クレオ大阪西

(7) 日印友好学園育成会

(会長 柏木道子)

- 2012 年 4 月日印友好学園育成会として、コスモニケタン学園、パダトラ小学校を含む理事会が発足
- 各理事の担当業務の確認とワークショップ・グループ (支援グループ) の元、育成会 4 月正式発足
- 育成会世話人人事
日印友好学園育成会の組織上の世話人として、代表及び各学校運営のための総括幹事を以下の如く選任した (任期 2 年)。
1) 育成会会長 柏木道子。
2) コスモニケタン校運営総括幹事 富松英二。
3) パダトラ校運営総括幹事 村上公彦
- 育成会理事会開催 (5 回開催)
2012/4/27、6/23、8/24、9/27、2013/1/17

(8) JAFS ネパールへのかけ橋

(代表 岡田光浩、書記 一瀬由起子)

ネパールをこよなく愛する者を参加資格とし、JAFS のネパールでの活動の支援を目的とする。

活動のテーマは、「ネパールの子どもたちの支援」。2003 年度より、冬季ワークキャンプ (バイオガス建設ワークキャンプ) の自主計画を継続し、パザーによる資金調達・現地でのボランティアワークなどを行ってきた。原則として、毎月 1 回 (第 2 土曜日 17 時～) 例会を行ってきた。今年度の活動内容は以下の通り。

ネパールに対する継続支援として 2010 年度より里親の会を通して、チュニケル村の両親共に死亡して孤児となったプラカーシュ君を支援したが彼の家庭の事情による退学で、ビトゥリ村のフルマヤさんの支援に変更した。今年度の支援してはネパールワークキャンプ 40 回記念にワークの参加及び水道パイプラインの水場 1 基を寄贈。又、チュニケル村ナウリンセカンダリースクール 3 階増設の 1 教室寄贈を行った。

ワークキャンプにて栄養指導のプログラムを導入するための教材を手作りで作成した。今年度は第 2 弾としてメニュー作りが出来る教材を新たに思案作成した。

4 月 14 日	例会
4 月 28 日～5 月 5 日	第 40 回ネパールワークキャンプ内容企画及び 参加
5 月 12 日	例会 栄養プログラム教材作成

IV. 普及啓発事業

6月1日	寝屋川多文化フェスティバル準備
6月2日	寝屋川多文化フェスティバル出店
6月9日	例会
7月14日	例会
8月24日	枚方まつり準備
8月25日	枚方まつり出店
26日	
9月1日	例会
9月2日	泉大津参加(渡辺氏)
9日	
9月22日	衣・食・美から知る ネパールデー第1弾
10月13日	衣・食・美から知る ネパールデー第2弾 例会／水都祭準備
10月14日	水都祭出店
10月18日	水都祭準備
10月19日	水都祭出店
20日	
10月29日	ネパール講演会 Mr. & Mrs. Nepal ご夫妻を迎えてネパールをも っと知ろう！の集い
11月2日	東大阪多国際フェスタ準備
11月3日	東大阪多国際フェスタ出店
11月4日	松原ワールドフェスタ参加出店
11月10日	例会
12月16日	例会・忘年会
1月12日	例会・新年会
2月16日	ワークキャンプ報告会／例会
2月23日	寝屋川パルーンフェスタ準備
2月24日	寝屋川パルーンフェスタ出店
3月16日	例会

随時 栄養プログラム教材作成

(9) PAON

(代表 谷阪洋子)

アジア家庭料理教室の参加者の中から有志のメンバーが集まり、料理を活かしたボランティア活動を行っている。アジア各地の料理を通じて、各地域の文化を体験・理解することと、その活動の中で、必要とされる支援を行っていく事を目的としている。

来年度は飲食店出店や料理を通じた文化交流プログラム等を企画し、PAONとしてJAFSの海外プロジェクト支援、特に安全な飲料水の支援を目標に活動している。

4月29日	春のJAFS チャリティバザール参加 於:住道駅前デッキ
9月2日、 8日、9日	泉大津イベント 模擬店参加 於:泉大津フェニックス
10月14日	秋のJAFS チャリティバザール参加 於:住道駅前デッキ
12月15日	JAFS THE PARTY 模擬店参加 於:ドーンセンター
2月2日、 3日	ワン・ワールド・フェスティバル 民族料理模擬店出店参加

於:大阪市国際交流センター

各イベント前にはミーティングを行い、協力体制を構築している。

(10) JAFSビジネス交流会

(代表 茶谷良明)

ビジネスや、チャリティ企画参加を通じて、本会の支援活動に貢献することをモットーに楽しく活動中です。

<チャリティイベント参加>

2012年4月29日 JAFS チャリティバザール参加

2012年10月14日 JAFS チャリティバザール参加

<定例会実施>

日時: 奇数月の第3水曜日 18:30~

場所: いきいきエイジングセンター (大阪市北区)

(11) JAFSダンス同好会

(富田修、橋本隆、天野澄子)

楽しみながらボランティア資金(井戸基金)を集める趣旨で開催している。本格的な社交ダンスから懐かしいポップス、オールディーズを交えた気軽なパーティー。参加者も世話人も一体となって音楽とダンスとおしゃべりを楽しむ。JAFS 会員以外の参加者も多く、会員獲得の機会もあり、JAFS 活動のPRの場にもなっている。2008年度には本同好会からの第1基目の井戸として、スリランカに井戸を寄贈した。

(12) JAFSダーナーズクラブ

(代表 小柳二郎)

このクラブは官民各分野の第一線を退いた方々がより実り多い“第2の人生”を送れるように、また、現役時代に培った知識・経験を生かして、楽しみながら活動できるようにとの願いで、2005年に発足。英語の donor (篤志家)、donation (寄付) や日本語の「檀那」などの語源である古代インドのサンスクリット語「ダーナ」*dhāna*(贈物)をもとに、村上周長の命名によるものです。

<主体活動>

- ・例会の開催 (毎月第2金曜日)
- ・ネパールの里子支援
- ・山椒収穫(京都府美山)のボランティア(6月)
- ・フィリピン パンダ市 障がい者複合施設建設費 寄贈

<共催・支援活動>

4月29日 JAFS チャリティバザール 設営など支援

8月8日 土と水と緑の学校 参加・運営協力

~8月13日

8月26日 人権サマーフェスティバル(南あわじ市)参加

12月8日 肥後橋・土佐堀かいわいクリーンUP作戦

12月15日 JAFS the Party 参加協力

2013年 ワンワールドフェスティバル支援

2月2日3日

IV. 普及啓発事業

(13) JAFSオアシス会 (中国教育医療支援会)

(代表 青木美千代)

オアシス会はアジアの中に「理解と協力と連帯」の輪を拡げるといふ JAFS 基本理念をすすめていくために、シルクロードを中心に相互の国の文化や歴史を学び、お互いに尊重し、理解し合う場を創り出すことを目的とする。

シルクロードを通じて日本にもたらされたものを「文化交流」により見出し、日本文化の原点を身近に感じることで、私達の日常に根付いている文化を再認識し、それぞれが培ってきた伝統文化や精神を次の世代にバトンタッチできるよう、アジアの一員として未来に向けた活動を行う。

- | | | |
|----------------|-------------------------------------|--------------------------|
| 4月12日 | 例会 | 於:JAFS 会議室 |
| 4月26日 | 臨時会議 | チャリティ公演相談会
於:JAFS 会議室 |
| 5月21日 | 例会 | 於:JAFS 会議室 |
| 5月25日 | チャリティショー | 於:VOXX |
| 6月28日
～7月4日 | 第4回中国新疆ウイグル自治区スタディツアー
参加(医療支援協力) | 於:ウルムチ、トルファン、カシュガル他 |
| 7月27日 | ハルハロ ウィグルスタディツアー報告
スタディツアービデオ上映 | 於:JAFS 事務局 |
| 8月23日 | アジア家庭料理教室～ウィグル編～協力 | |
| 8月25日 | 例会 スタディツアー報告会 | 於:JAFS 会議室 |
| 1月31日 | AFS ウィグルメンバー歓迎会 | 於:シルクロードレストラン ムカーム |

(14) アジアネットワーク奨学会

(代表 古賀 旭)

アジアネットワーク奨学会は各自の専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく貢献するとみなされる若手の人材育成資金(奨学金等)を支給するための支援会である。2012 年度は東京農工大学の研究過程のバングラデシュの留学生1名及び、フィリピンのアジア社会科学院(ASI)の地域開発コースに通うフィリピンスタッフ2名の奨学金を支援した。

(15) ネパール子ども夢基金

ネパールの子どもたちが「夢」そして「希望」のあふれた未来作りができるよう、様々な体験を通じた成長を目指す子どもたちの教育支援。会員として支援者を募ると共に、ネパールワークキャンプ(2012 年 8 月及び 12 月末実施)における子ども環境セミナーを実施の支援を行った。

(16) ネパール地域医療支援会

(担当理事:小原純子副会長/大谷タカコ理事/吉田暢子理事)

ネパールの地域医療向上及び母子保健向上の支援活動を行ってきたスクテ支援会とチョータラ支援会を統合。ネパール農村エリアの医療向上プロジェクトをサポートする支援会。

ネパールの助産師ビマラさんを中心にした現地の医療状況改善に寄与するプロジェクトとして、今年度はヘルスキャンプ(臨時移動診療)を実施する費用の一部の支援を行った。

3月29日例会 ヘルスキャンプ報告会及び今後の活動についての提案と懇親

(17) 会員親睦・交流支援会

(代表 岡田 昂)

JAFS 会員の交流及び、新入会員の歓迎、会員研修・相互理解のために必要な各種企画の立案・実施を行うため、2008 年 5 月に立ち上げた。今年度は、JAFS ウェルカムパーティーを 4 回(4/28、7/28、10/27、2013/1/26)開催し、延べ 16 名の新入会員の参加があった。今後は、さらに会員の親睦を深め、新たな輪を広げるとともに、各企画を通して積極的に関わるメンバーを増やしていくことを目的に活動を行っている。

(18) 広報活動支援会

本支援会は、JAFS 広報活動を支援し、主として会員以外の各層への浸透を積極的に行って、イベント・催しへの参加を募り、JAFS 支援者を開拓して、JAFS の輪を拡げることが目的としている。

<大阪市内の公共施設を中心に案内配布一通年>

- ・ 大阪市立生涯学習センター (5カ所)
- ・ いきいきエイジングセンター
- ・ クレオ中央(天王寺)
- ・ PiaNPO(天保山)
- ・ ボランティア情報センター(天王寺)
- ・ ボランティア協会(福島)
- ・ 社会福祉指導センター
- ・ 環境館(天満橋)
- ・ ドーンセンター
- ・ 大阪国際交流センター
- ・ 西区民センター
- ・ 子ども文化センター(西区)
- ・ 中央区民センター
- ・ 関西大学・大阪市立大学・四天王寺大学 他

<南あわじ市老人大学うずしお学園 アジアのお茶会 10/27>

<うずしおフェスティバル 2012 国立淡路青少年交流の家 11/10>

(19) アジア未来塾

急速な経済発展をとげるアジアの未来をどのように作り上げていくか、専門書などを各回取り上げ、考え、理解するための会。

2012 年度は、下記の日程にて実施された。

- | | |
|-------|-------|
| 4月7日 | 第1回講座 |
| 5月12日 | 第2回講座 |
| 6月2日 | 第3回講座 |
| 7月7日 | 第4回講座 |
| 10月6日 | 第5回講座 |

5. 関連市民活動

(1) 関西ナショナル・トラスト協会

(代表 中岡 健生)

1. 事業期間 2012年4月1日～2013年3月31日

2. 事業の内容

昨年度は、定款を改正し、新たに「農山漁村の地域社会又は中山間地域の振興にかかわる事業」を追加しました。この事業に加え、関西地域の自然や歴史環境・文化・芸術などの保全と発展を目的にした事業を行った。詳細は下記の通りである。

①自然環境保全事業

所有財産である「美山楽舎」を活用して、残していくべき自然を実際に訪れ、市民レベルにおける自然環境保全を考えた。

6月3日 紅山芍薬見学会（美山楽舎）
6月23日～24日 蛸鑑賞会&イタリア料理
ワイン会（美山楽舎）

②生活環境保全事業

身近な生活環境を改善し、我々の周りを取り巻く環境保全を実施することを目的に、まず偶数月の第二土曜日に事務所周辺を清掃することに取り組みました。

③保有・管理財産活用事業

所有財産である京都府南丹市にある「美山楽舎」の土地建物を一般に有料で貸し出し、保存すべき歴史的な建物=古民家に触れることによりナショナルトラスト運動の理解を深めていただいた。

3月28日～31日「第1回土と水と緑の自然学校」

④農林漁業生産支援事業

地元住民との交流会を通じて、農業生産の実態や農地の所有又は借用のための農地法の規定及び農業生産支援について調査研究すると共に、実際に農産物を育て収穫販売も行いました。

その他の活動

6月17日 第9回淀川しじみ獲り（淀川）
2月11日 二月堂お水取り松明竹運び

(2) グリーンベイ OSAKA

(代表 萩尾千里)

堺第7-3区共生の森において、以下の通り「グリーンベイ森を育てる会（草刈り会）」と「第6回グリーンベイ植樹会」を開催しました。

(1)「グリーンベイ森を育てる会（草刈り会）」

日時:5月27日(日)9:30～13:30 天気:好天
参加者数:総勢100名

(2)「第6回グリーンベイ植樹会」

日時:11月25日(日)9:30～13:30 天気:好天
参加者数:総勢120名

植え付け面積:1,375平方メートル

下刈面積:3,000平方メートル

植樹本数:770本(14種×55本)

植樹の苗木:

(落葉樹) ヤマザクラ、アキニレ、ムクノキ、クヌギ、コナラ、
エゴノキ、オニグルミ

(常緑樹) クロマツ、クスノキ、ナワシログミ、ヤマモモ
ヤマツツジ、ヤブツバキ

(3) 日本を良くする会 (Make Japan)

(代表:萩尾千里、大阪グループ代表幹事:橋口高明)

本会の国際協力フィードバック事業の一環として、本会会員有志が主催する市民の会。活動目的は、「世界から尊敬かつ信頼される国（社会づくり）」。「日本の望ましい社会像、あるべき人間像を求めて、以下の諸活動に参加する創造的の市民の会を目指している。発足は2006年12月

<大阪グループ会員 212名>

<フォーラム活動（会員議会/政策提言）>

1. 奉仕活動（各種ボランティア活動へ参画）
2. 自己啓発活動（自己研修・鍛錬など）
3. 健康増進活動

定例会：毎月第一日曜日 午後2:00～4:00

場 所：JAFS 会議室 ＊移動会場

<2012年定例会>

4月*第41回「天皇について その3」（17名）於：京都

5月 第42回「道徳教育 その1：日本と諸外国との比較」（9名）

6月*第43回「どうなる教育～熊取町」（14名）於：熊取

7月 第44回「道徳教育 その1：人間形成教育におけるイスラム圏と日本との違い」（16名）

9月 第45回「道徳教育 その2：人間形成教育におけるイスラム圏と日本との違い」（14名）

10月*第46回「地域連携と道州制について」（18名）於：津山

11月 第47回「ゆとり教育がもたらしたもの」（6名）

12月 第48回「この国難、日本人として生きる」

講演CD（11名）

<2013年定例会>

2月 第49回「日本国憲法改正について その1」（8名）

3月 第50回「日本国憲法改正について その2」（8名）



インド文化センター講座 講義の様子

IV. 普及啓発事業



JAFS チャリティーバザールの様子



前期全体地区世話人会



JAFS the Party



後期全体地区世話人会



新入会員歓迎会



第10エリア:チャリティーコンサート会場での展示

IV. 普及啓発事業



第1エリア:枚方ぞうすいの会



第2エリア:緑とふれあう会 田植えの様子



第4エリア:松原ぞうすいの会 (5基目の井戸寄贈)



第5エリア:京都地区会の様子



第6エリア:懇親会



第7エリア:奈良案山子ウォーカソン



第8エリア:堺まつりチャリティー参加



第9エリア:新宮ぞうすいの会

IV. 普及啓発事業

IV-B. 環境保全・環境教育（国際グリーンスカウト活動）

（1）土と水と緑の学校

次世代の子どもたちが、地球の基本である土、水、緑の自然の大切さ・役割を体で感じ取って学ぶ自然環境教育プログラム。山と川と海に囲まれた和歌山県新宮市高田で、子どもたちがリーダーと共に各寺子屋を5泊6日で巡り、自然体験をした。本年度も引き続き、新宮市からの協力を得て、東日本大震災の被災地である宮城県名取市からの子どもたち9名が参加することができ、自然体験を通じた友情と絆を育むことができた。

今年度は、2011年9月に起こった台風12号の豪雨災害により甚大な被害を受けた本部（高田公民館と高田僻地保育所）の備品整備と修復作業、備品倉庫を新しく水車小屋横に設置し、無事に第29回を迎えることができた。地元の方々・JAFSボランティア、その他多くの方のご協力を受けて開催することができたことをここに感謝と共に記す。

期 間： 2012年8月8日（水）～8月13日（火）（5泊6日）
場 所： 和歌山県新宮市高田地区
参加者数： 総計 155名
（内訳） 参加者 62名
（大阪側25名、新宮側37名（名取市より参加9名を含む））
ジュニア リーダー 5名
リーダー 9名
講師 6名
本部ボランティア・関係者・スタッフ 51名

内 容：

・開校式、つどいの夜
・授業と体験

土の寺子屋

栄養度の高い扶養土を山から取り、その中に住む昆虫やその他の生き物の観察や色や匂いなど色々な面から土について学習した。

また、班ごとでのクラフトや、自然体験ゲーム、川遊び、成果発表などを行った。

水の寺子屋

水の大切さをその中に住む生物の観察を通して学んだ。何十種類にも及ぶ川の生き物を採集し、それらの特性、特徴などを観察した。

また、カヌー体験で川の流れを知り、川で泳ぐ体験により全身で水を感じた。

緑の寺子屋

緑の働きや人々とのかかわりを内賀野溪谷を歩いて知った。道中、昨年の台風12号での被害状況を目の当たりにし、自然の驚異を学んだ。ハイキングの中で、草木や熊野地方特有の植物に触れ、緑の役割を学んだ。また、テントでの宿泊を体験し、かまどでの火起こしやエコ自炊やドラム缶風呂を体験しました。

海の寺子屋

海に生きる多様な生物を採集し、生態を観察した。海での磯観察では多種多様な生物に触れた。

また、船でホエール・ウォッチングに出かけ、くじらの生態を学び、地域での取り組みについて考えた。今年は特に全班が多くのクジラやイルカを観察することができた。

心の寺子屋

スライド写真を通じて、世界の自然やアジアの国々の生活の様子に思いを馳せた。自分たちと同世代の子どもたちの生活や、アジアにおける水不足の現状、食糧事情、環境を視覚を通して学んだ。

・キャンプファイアー

・成果発表、閉校式

主 催： （公社）アジア協会アジア友の会
和歌山県新宮市
（一財）新熊野体験研修協会

後 援： 大阪府教育委員会
大阪市教育委員会
和歌山県教育委員会
新宮市教育委員会
（社）朝日新聞厚生文化事業団
（社）産経新聞厚生文化事業団
（社）読売光と愛の事業団大阪支部
（公財）毎日新聞大阪社会事業団
協 力： 近畿ろうきん
大阪帝塚山ライオンズクラブ

（2）美山 土と水と緑の自然学校

本プログラムの特徴は、「農村と都市の交流」である。自然体験だけでなく、農村に暮らす人々との交流を通し、森林の活用、身近にある自然・文化と生活のつながりなど、自然を大切にすることの意味を学び、自然や周りの人々など多くのものに支えられていること、そのつながりを実感することで他者や自然を思いやる心を育てることを目的としている。本プログラムを通してお世話になった皆様へ感謝を表する。

期間 2013年3月28日～31日 3泊4日

場所 京都府南丹市美山町内久保大内地区

参加者数 総計 66名

参加者 内訳 23名（京都、大阪、奈良、兵庫、和歌山、福島の小中高校生）

リーダー 27名（高校、大学生）

本部 16名

地元 14名

内容

28日 開校式、かやぶきの里見学・大内地区散策、ウェルカムディナー、キャンプファイアー、MAP作り（大内を歩き気づいたことを記入）

29日 【緑の日】白尾山登山・森林活動、自炊、美山の植生や生態系の痕跡や遺留物の観察・人工林の形成と歴史・現状・間伐材の利用（薪割、杭作り、道具の使い方及びメンテナンス）

IV. 普及啓発事業

30日 【水の日】荒倉水路探索・水の授業・環境の話、農業水路の歴史と関わり・水の生態系調査・環境についてのお話

31日 【土の日】農業体験・閉校式（修了書）・成果発表（MAP 披露）土の働きと意味、農作物にとって大切なことは何か。

総評 今回の美山における「土と水と緑の自然学校」は第1回目であり、本会においても新しい試みであった。日本における農村・都市交流の中から生まれてきたプログラムで、2011年11月に大学生が中心となり、スタディツアーを行い、そのメンバーが新たな参加者やリーダーを連れてくることにより、実施することができたプログラムである。

多くの参加者から第2回開催の要望があり、今後は、「夏の土水」＝和歌山県新宮市（土と水と緑の学校）、「春の土水」＝京都府南丹市美山町（土と水と緑の自然学校）と位置づけ連携して取り組み、内容やプログラムも切磋琢磨し継続し、実施する。

（3）各部会活動

国際グリーンスカウト運動とは「Think Globally, Act Locally（地球規模で考え、地域で行動を）」をモットーとした「地球市民による地球環境保全活動」を目指す本会提唱のプログラムである。AFSの海外ネットワーク（インド、カンボジア、スリランカ、フィリピン、ネパール、タイ）を通じて国際的に展開している。国内でも、このモットーに基づき、各地でグリーンスカウト隊が活動を行なっている（大阪、吹田、寝屋川・枚方）。

◆国際グリーンスカウト大阪◆

（代表：正法地 浩）

- ・ミーティング：祝日を除く毎週水曜日 19:00～20:30 及び土曜日
- ・活動内容：「エコキャンプ」などを通じた青少年環境教育活動及び海外支援活動

＜青少年環境教育活動＞

- ・筍満喫ツアー：沖田理事のご協力で富田林の竹林において筍を掘り、その場で調理してみんなで食べる「筍三昧」な日帰りプログラム
- ・土と水と緑の学校：リーダー研修の補助をはじめ、運営全般に対する補助を行った。また、新宮では6月に（略称：土水）「グリーンキャンプ」、12月に「クリスマスキャンプ」を実施した。
- ・秋のエコキャンプ：大東市野外活動センターにおいて、野生生物部門の技術士（国家資格）を講師に招き、「秋を食べる」をテーマに身近な植物について五感を通じて感じるキャンプを行った。
- ・美山土と水と緑の自然学校：京都府南丹市美山町のIAFS美山ハウスを中心に、地元の方のご協力で開催されることとなった3泊4日の自然学校の運営補助を行った。

＜国際協力活動＞

2009年よりフィリピンの女兒1名の里親として支援を行うとともに、エコキャンプ等において国際理解教育の教材として活用している。

また、土と水と緑の学校の開催地である和歌山県新宮市における2011年9月の台風12号豪雨災害支援のための募金活動を行った。

・活動スケジュール

- ・4月 筍満喫ツアー（日帰り）
- ・6月 第29回土と水と緑の学校リーダー研修開始（計8回）
- ・6月 新宮グリーンキャンプ（1泊2日）
- ・8月 第29回土と水と緑の学校（略称：土水、5泊6日）
- ・11月 秋のエコキャンプ（大東、1泊1日）
- ・12月 土水クリスマス会 in 大阪（日帰り）
- ・12月 新宮クリスマスキャンプ（1泊2日）
- ・2月 ジュニア研修キャンプ（1泊2日）
- ・3月 美山土と水と緑の自然学校（美山町、3泊4日）
- （6～8月は土と水と緑の学校の企画、下見、本番に参加）

◆国際グリーンスカウト吹田◆

（主なメンバー：長島徹、杉原貴、雨森清忠、服部博、濱野和也、大山美智子、早川直彦、越智久美子）

地球規模で環境保全を考え、そのために自分たちの住む地域で出来ることをやっというグリーンスカウトの理念を実現するために、2001年に京都府美山町で行われたグリーンスカウトの国際大会で知り合ったメンバー同志で活動チームを結成。

環境保全活動およびその教育の持続と実行のため、2003年より毎月第1土曜日に吹田市の糸田川の清掃を行っている。2003年より、毎年7月には子どもたちを連れて無人島でキャンプを行っている。

糸田川清掃の日は定例会を併せて行い、次のイベントの企画を練る。定例会終了後は、懇親会を行なう。継続するためのコツとして「きちんとした活動とともに楽しむことも忘れずに」がモットー。2・3日のキャンプだけで、すぐに環境に対する意識が変わっていくとは思わないが、普段の生活の中で、ふと環境について思い起こしたり、自然保護について、家族で話し合ったりするキッカケになればと、期待して活動をしている。2013年も引き続き、月一回の川清掃、夏のキャンプ、年数回吹田市内でキャンプを行う。

http://www.geocities.jp/greenscout_suita1/htmls/top.htm

＜糸田川清掃→環境保全活動＞

毎月一回、第一土曜日に30分ほど実施。

参加人数は平均6～8人。

実施日：4月7日、5月12日、6月2日、7月7日、8月4日、9月1日、10月13日、11月3日、12月1日、1月5日、2月2日、3月2日

＜無人島キャンプ（ぐわすと探検隊）→環境保全の啓蒙＞

6月23～24日 事前キャンプ

於：吹田市自然体験交流センター

IV. 普及啓発事業

7月14～16日 本番

於：瀬戸内海の無人島「友が島」

9月29～30日 復習キャンプ

於：吹田市自然体験交流センター

12月1～2日 クリスマスキャンプ

於：吹田市自然体験交流センター

3月2～3日 春のキャンプ

於：吹田市自然体験交流センター

その他、不定期にチャリティバザーを行っている。

◆国際グリーンスカウト寝屋川・枚方◆

2006年11月に結成。今年度も引き続き第2エリア植林活動「北河内緑とふれあう会」に参加。行動を同じくした。

6月3日 田植え祭 参加

6月10日 御殿山神社紫陽花植樹会 参加

10月13日 稲刈り 参加

10月27日 収穫祭 参加

併せて、緑とふれあう会のメンバーとして、「みどりとふれあう農園」の作業及び実行委員会に参加。

(4) ウォーカソン

1999年の本会20周年を記念し、地球環境保全活動の一環として始まった「地球の水と緑を守ろう！ウォーカソン」も今年で13年目を迎える。また、アジア各国では青少年を中心としてグリーンスカウト運動を活発に行っており、この運動の一環としてウォーカソンも行っている。

本年度も「生命の水」をテーマに、「地球の水と緑を守ろう！ウォーカソン・2012 (International Water & Green Day Campaign・2012)」を開催。地球環境保全の大切さや地元を歩くことで出来る国際協力ということ、広く一般市民の方にも告知し参加を求めた。参加費や寄付はアジア各国の井戸建設に使われる。

開催場所： 6ヶ所

参加人数： 94名 (心のウォーカソンを含む)

【神戸/第6エリア】2012年5月27日 参加者 19名

『清盛の足跡をあるく』

地下鉄海岸線「中央市場前」～清盛歴史館～築島寺～清盛塚～真野への道～東尻池～宝満寺～地下鉄海岸線「苅藻駅」

【東京/第10エリア】2012年7月28日 参加者 29名

『峡山丘陵の自然とトトロの森をたずねて』

埼玉県所沢市にて首都圏では希少な里山と東京都民の水がめ 峡山湖を訪れる。

【木津川市/第7エリア】2012年9月22日 参加者 7名

『案山子ウォーカソン in 加茂』

JR 加茂駅→当尾→加茂駅

【寝屋川・枚方/第2エリア】2012年11月3日 参加者 6名

寝屋川・枚方地区合同ウォーカソン 於：寝屋川

『小さい秋、発見体験ウォーカソン&芋掘り』

【東京/第10エリア】2012年12月9日 参加者数 14名

『紅葉に染まる古都鎌倉ハイキング』

神奈川県鎌倉市にある由緒ある寺院、旧跡を巡る。

紅葉を楽しみながらのハイキング

【奈良/第7エリア】2013年2月11日 参加者 19名

『竹送りウォーカソン in 奈良』

奈良坂→転害門→奈良県庁前→氷室神社→東大寺南大門→大仏殿前→二月堂

(5) クリーンUP

【肥後橋・土佐堀クリーンup作戦】

Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、地域で行動を)の実践として身近な環境問題に取り組むため、JAFS事務局周辺(肥後橋・土佐堀)のゴミ拾いを2007年4月より始めた。実行委員会を編成し、また当日の担当としてJAFSファミリーグループ及び地区が役割を担い、偶数月の第2土曜日に実施した。

「まちも ころも クリーンアップ!」をキャッチフレーズに、肥後橋周辺の商店や事業所にも呼びかけ、参加・協力の輪をひろげることをめざしていく。

実施回数： 4回 参加者数： 20名



第29回土と水と緑の学校開校式



第1回美山「土と水と緑の自然学校」のじゃがいも植え付け

V. 運営管理

V. 運営管理

V-A. 社員総会

公益社団法人アジア協会アジア友の会第1回社員総会を下記の通り開催した。定款第16条第1項の定めにより萩尾会長が議長となり議事を進行した。現在の社員数264名の内、出席社員数172名（内書面評決者及び評決委任者119名を含む）であり、過半数に達し、総会は適法に成立していることを宣した。

日 時： 2012年6月9日（土） 15:00～16:30

会 場： KKR ホテル大阪2階ホール

次 第： 1) 開会宣言

2) 社員総会

- | | |
|---------|--|
| 1. 組織 | 定足数の確認、議長選出、議事録署名人の選出 |
| 2. 報告事項 | (1) 「公益社団法人移行の件」
(2) 「2011年度事業報告の件」
(3) 「2012年度事業計画の件」 |
| 3. 審議事項 | 第1号議案：「2011年度決算報告」および「2011年度監査報告」に関する件
第2号議案：「2012年度収支予算」の件
第3号議案：公益法人申請に関する「定款の変更の案」の修正の件
第4号議案：「名誉会員推薦」の件 |

上記の報告、審議事項に関しては、異議なく承認された。

V-B. 役員一覧

役 職	氏 名	経 歴
会 長	萩尾 千里	(株) 大阪国際会議場 取締役相談役
理 事 長	田中 久雄	(株) かんぼう 代表取締役会長
副 会 長	村田 朋昌	(宗) カトリック京都司教区参与
	小原 純子	(財) 大阪市女性協会 前理事長
専務理事 事務局長	村上 公彦	日本基督教団 寝屋川教会 牧師（本会創設者）
常任理事	浅野 弘	元 パナソニック（株）社員
	上野 孝一	寝屋川十字の園 施設長
	大麻 豊	(株) 風神企画 代表取締役
	大中 洋道	アイ・イー・ソリューション（株）取締役
	沖田 文明	(特活) 関西ナショナルトラスト協会 副代表理事
	柏木 道子	元 大阪キリスト教短期大学 学長
	古賀 旭	天神山古賀眼科 理事長
	坂口 久代	関西イタリア語文化センター 代表
	富松 英二	元 三菱電機（株）通信機製作所 開発管理担当部長
	西川 京子	西川京子公認会計士事務所 所長

V. 運営管理

	橋本 隆	元 橋本商会 代表
常任理事	吉田 俊朗	ユニチカ（株）監査役
	吉田 暢子	ボランティアグループ吉田組 代表
	渡邊 瑠璃子	（株）若竹寮 監査役
理 事	熱田 親熹	元 関西国際大学 教授
	荒巻 祐	近畿大学 副学長
	池田 直樹	あすなろ法律事務所 弁護士
	石川 悦治	石川会計事務所 税理士
	宇野 稔	日本基督教団 倉敷水島教会 牧師
	大谷 タカ子	大谷助産院 院長
	岡本 厚	（株）伏尾の鮎茶屋 代表取締役社長
	川崎 壽	川崎壽法律事務所 弁護士
	桑村 寿子	天王寺英数学院 理事長
	近藤 隆	近藤病院 院長
	櫻井 紘哉	（株）OSG コーポレーション 取締役管理本部長
	柴田 俊治	朝日放送（株）特別顧問
	篠原 勝弘	公益財団法人 CIESF 副理事長 元駐カンボジア特命全権大使
	高田 亘	車折神社 宮司
	辻中 昭一	日本基督教団 夜久野教会 牧師
	土屋 菊男	元 関西学院高等部 教諭
	淵本 燎子	一般社団法人 大和木育協会 副理事長
	藤原 正昭	行岡保健衛生学園 顧問
	山崎 弦一	パナソニックグループ労働組合連合会 中央執行委員長
	湯川 剛	（株）OSG コーポレーション 代表取締役会長
監 事	笠谷 正博	元 寝屋川市社会教育 部長
	柿島 裕	（株）PHP 研究所 グローバル事業部 ゼネラルマネージャー

V. 運営管理

V-C. 理事会

本会の事業・活動は、理事会、常任理事会（月例理事会）及び各常置委員会によって管理・運営されている。2012 年度における理事会、各委員会の開催状況は以下の通り。

（議長：萩尾千里会長）

理事会：5 月、9 月、2 月、3 月（計 4 回開催）

常任理事会：4 月、6 月、7 月、10 月、11 月、1 月、
（計 6 回開催）

原則として 8、12 月を除く毎月第 4 日曜日に実施。

V-D. 常置委員会

1. 公益目的事業Ⅰ 開発支援事業

（委員長：富松英二理事）

- ① 水事業委員会（吉田暢子理事）
- ② 子ども事業委員会（富松英二理事）
- ③ 貧困対策委員会（柏木道子理事）
- ④ 環境事業委員会（西川京子理事）
- ⑤ サイクル・エイド委員会（橋本隆理事）

4 月、7 月、11 月、1 月、2 月に各委員会合同委員会が実施された。

2. 公益目的事業Ⅱ 国際交流事業

（委員長：小原純子副会長）

I. 人材交流・育成事業

- ① 人材交流委員会（坂口久代理事）
- ② 人材育成委員会（吉田暢子理事）
- ③ 海外奨学金委員会（大中洋道理事）

II. ネットワーク推進事業

- ① 国際ネットワーク組織委員会（村上公彦専務理事）
- ② アジアフレンドシップ基金委員会（古賀旭理事）
- ③ アジア国際ネットワークセミナー委員会（小原純子副会）

6 月に合同委員会を実施後、各委員会が 7 月、9 月、1 月に実施された。

3. 公益目的事業Ⅲ 生活支援事業

（委員長：吉田暢子理事）

- ① 災害対策本部委員会（田中久雄理事長）
5 月、6 月、7 月、10 月、3 月、計 5 回東日本大震災の被災者支援プロジェクトについての会議を開催。
- ② 緊急支援事業委員会（吉田暢子理事）
4 月、2 月、3 月、計 3 回、東日本大震災を除いた緊急支援に関する事業及び防災について会議を開催した。

4. 公益目的事業Ⅳ（普及啓発事業）

（委員長：村上公彦専務理事）

A. 地域広報活動事業

I. 本部活動

- ① チャリティ企画委員会（大麻豊理事）

- ② 国際理解文化交流委員会（小原純子副会長）

- ③ 会員拡大委員会（吉田俊朗理事）

- ④ 会員研修委員会（浅野弘理事）

- ⑤ 全国活動ネットワーク（村上専務理事）

II. 地区活動

地域啓発・活動推進委員会（渡邊瑠璃子理事）

III. 広報活動事業

- ① 広報委員会（古賀旭理事）

- ② アカウンタビリティ（富松英二理事）

IV. プロジェクト支援活動育成

ボランティア育成活動・会員活動委員会（橋本隆理事）

B. 環境保全・啓発教育事業

環境教育事業委員会（沖田文明理事）

公益目的事業Ⅳ委員会としては、7 月、11 月、1 月、2 月、3 月に開催され、JAFS 広報（特に HP 更新など）について話し合いが行われた。

※アカウンタビリティに関しては、特定非営利活動法人国際協力 NGO センターの「アカウンタビリティ・セルフチェック 2008」へチャレンジし、2012 年 4 月 4 日に本会のアカウンタビリティに関して認められ、本会に『ASC2008 マーク』が発行され、使用許可をいただきました。

5. 法人管理部門

（委員長：村田朋昌副会長）

- ① 総務委員会（村田朋昌副会長）
- ② 財務委員会（上野孝一理事）
- ③ ガバナンス委員会（富松英二理事）
- ④ 事務局管理（村上公彦専務理事）

原則として①②共毎月開催。両委員会は関連が深いので毎回合同で開催している。

4 月、5 月、6 月、7 月、9 月、10 月、11 月、12 月、1 月、2 月、3 月（計 11 回開催）



Accountability Self-Check 2008

アカウンタビリティ 2008 認証ロゴ

【事業報告の附属明細書】

2012年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので、これを作成しない。

以上